

一般平面図（計画）



<凡例>

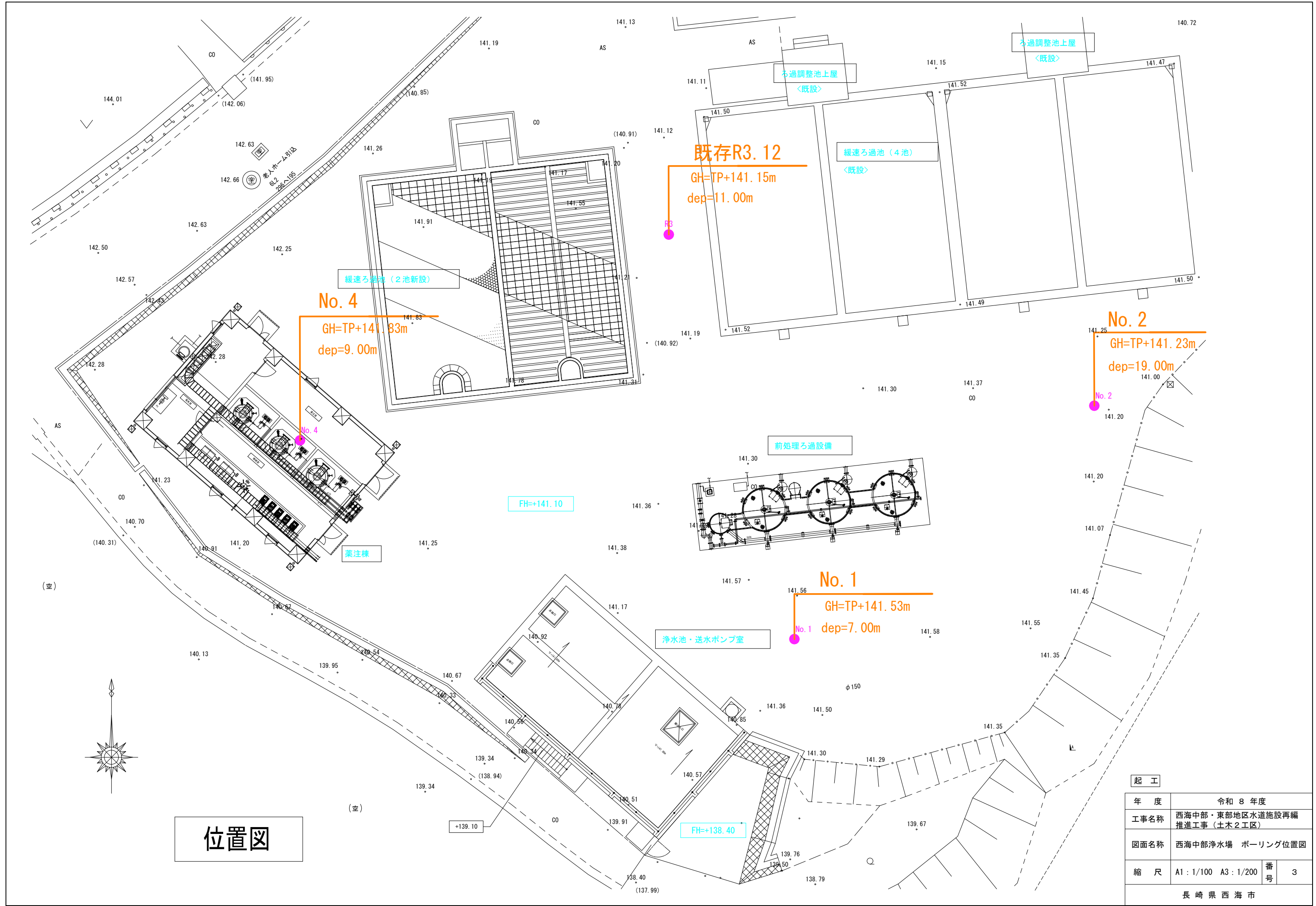
—	当該年度工事
—	実施済工事
—	次年度以降工事

起工	令和 8 年度			
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事（土木2工区）			
図面名称	西海中部浄水場一般平面図（計画）			
縮尺	A1：1/150	A3：1/300	番号	1
長 崎 県 西 海 市				

一般平面図（現況） S=1/150



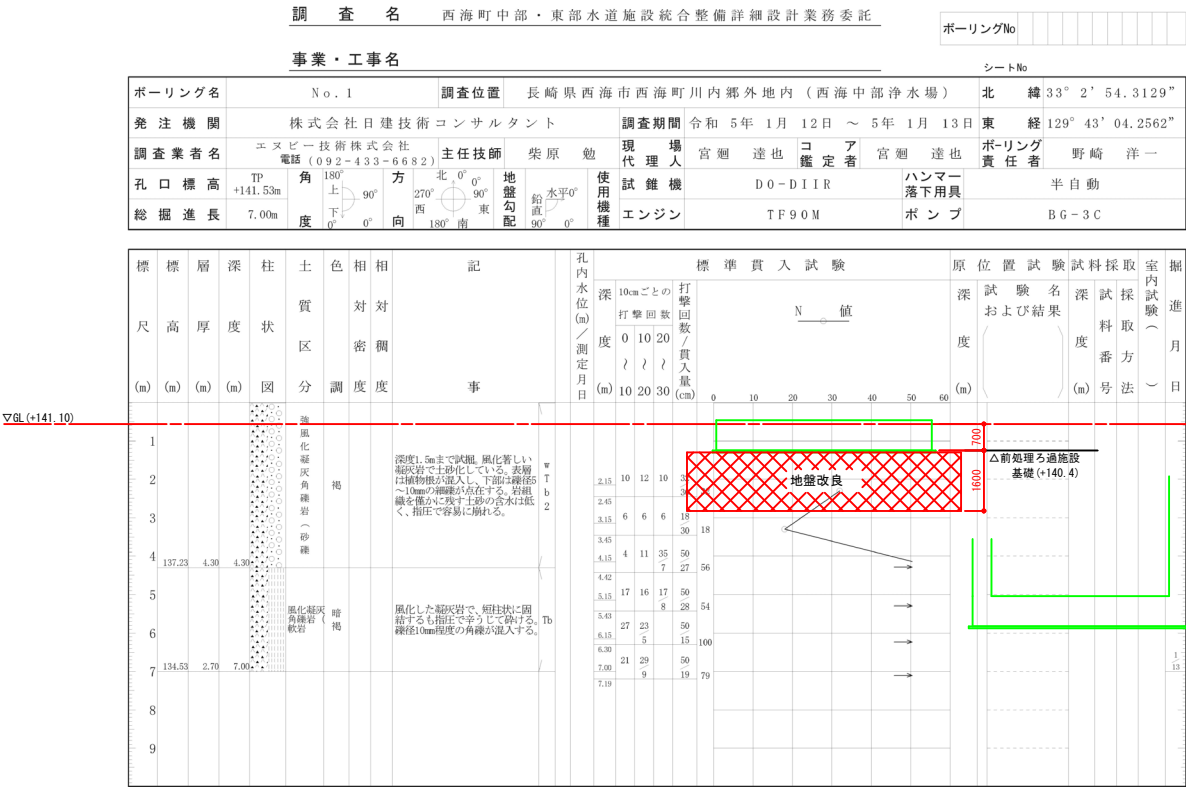
起 工				
年 度	令和 8 年度			
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）			
図面名称	西海中部浄水場 一般平面図（現況）			
縮 尺	A1 : 1/150	A3 : 1/300	番 号	2
長 崎 県 西 海 市				



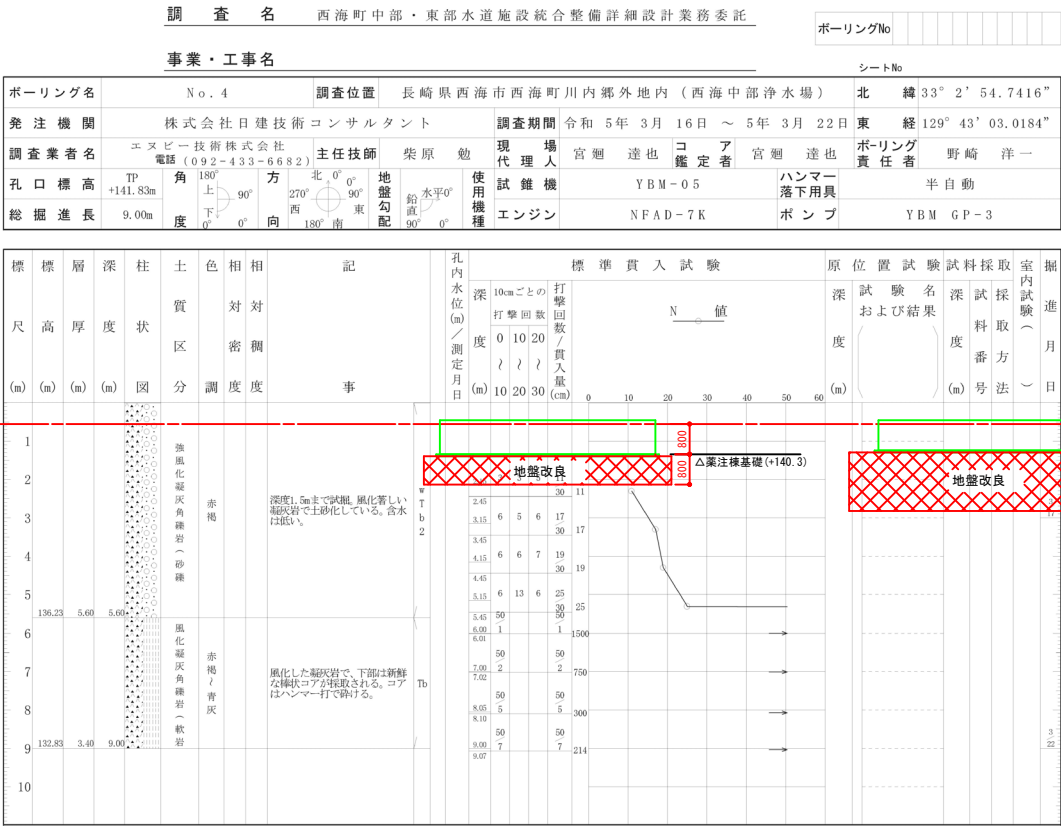
位置図

起 工			
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 ポーリング位置図		
縮 尺	A1 : 1/100 A3 : 1/200	番 号	3
長 崎 県 西 海 市			

ボーリング柱状図



ボーリング柱状図



起 工				
年 度	令和 8 年度			
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）			
図面名称	西海中部浄水場 土質柱状図（1）			
縮 尺	A1：1/100 A3：1/200	番 号	4	
長 崎 県 西 海 市				

ボーリング柱状図

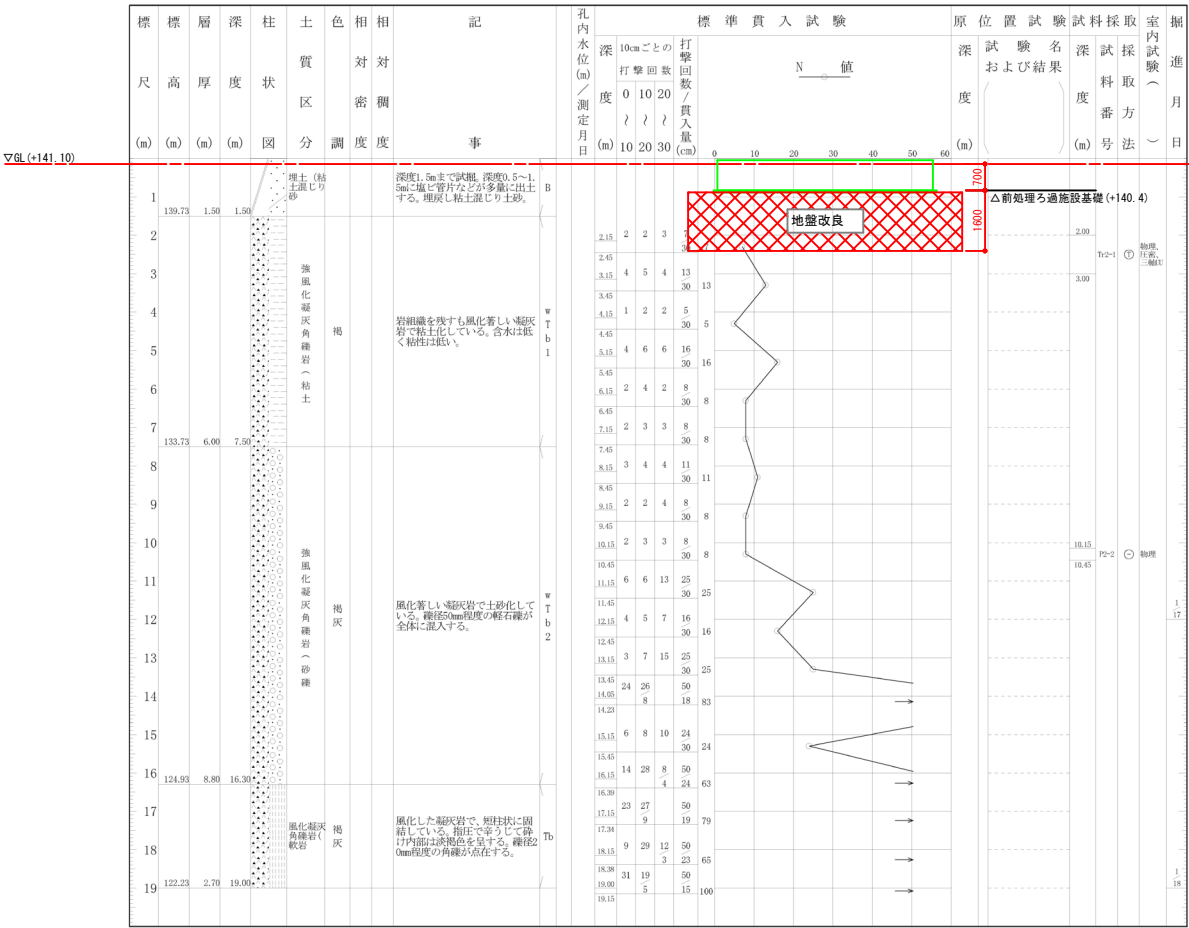
調査名 西海町中部・東部水道施設統合整備詳細設計業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 2	調査位置	長崎県西海市西海町川内郷外地内（西海中部浄水場）	北緯	33° 2′ 54.8041″
発注機関	株式会社日建技術コンサルタント	調査期間	令和 5年 1月 16日 ～ 5年 1月 18日	東経	129° 43′ 04.9286″
調査業者名	エヌビー技術株式会社 電話（092-433-6682）	主任技師	柴原 勉	現代理人	宮廻 達也
孔口標高	TP +141.23m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 270° 西 0° 東 180° 南
総掘進長	19.00m	地盤勾配	鉛直 0° 水平 0°	試験機	D0-D1IR
		使用機種	エンジン	ハンマー落下用具	ポンプ
					TF90M
					BG-3C



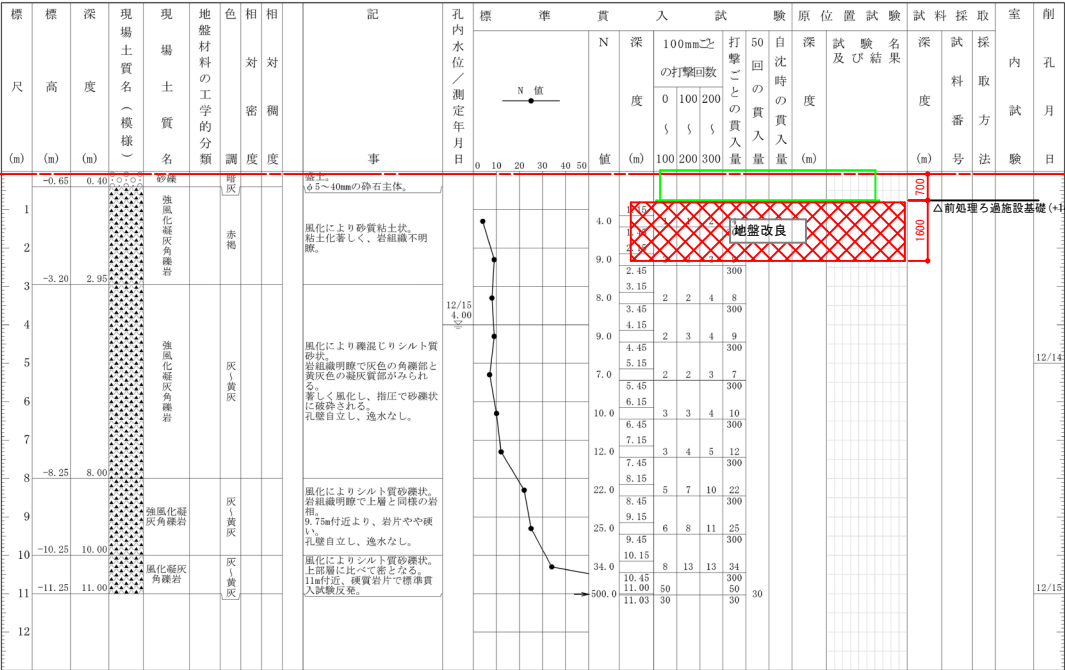
土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 西海中部・東部水道施設統合基本設計業務委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象 上水道 構造物基礎

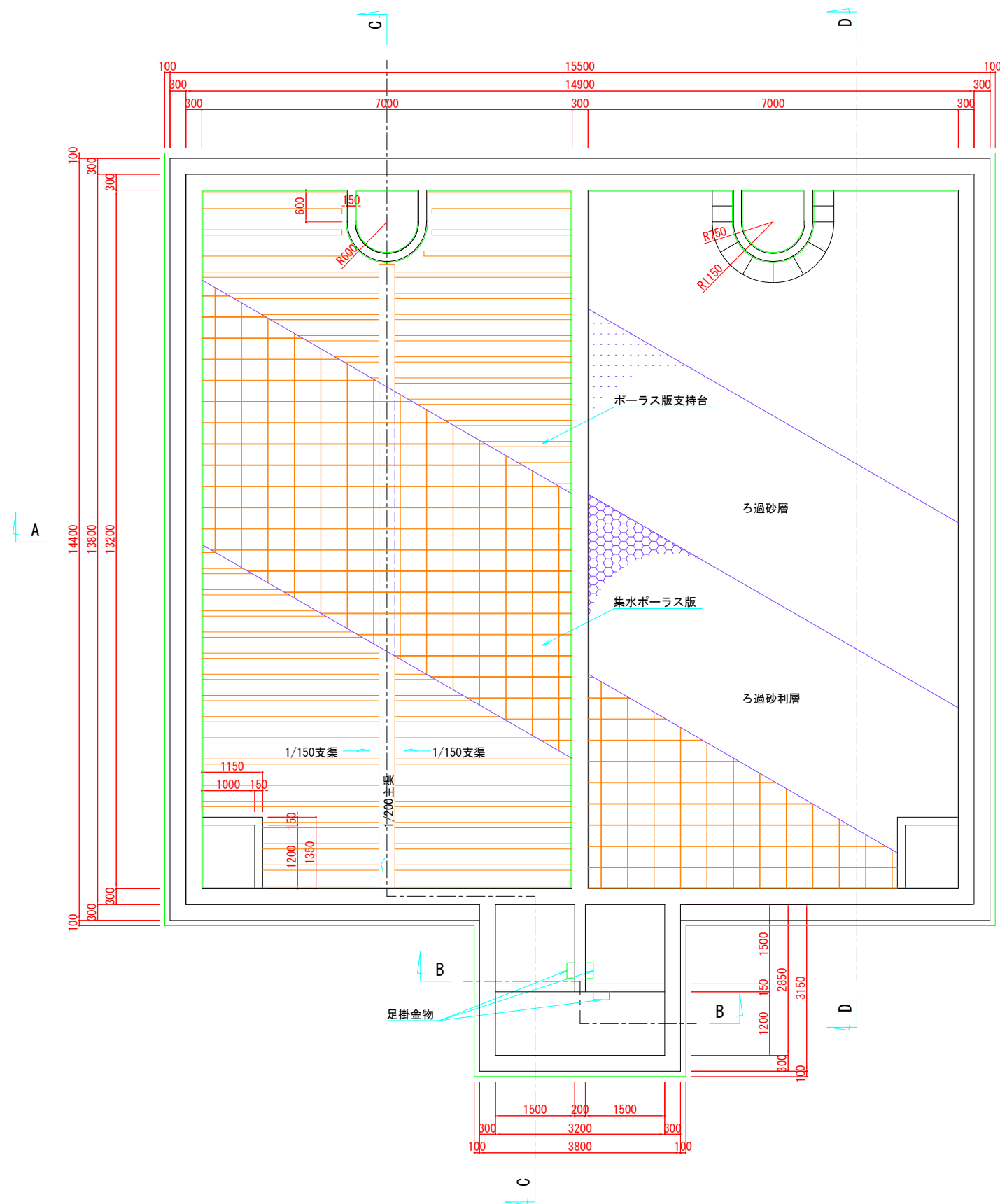
ボーリング名	No. 1	調査位置	長崎県西海市西海町川内郷内	北緯	
発注機関	西海市	調査期間	令和03年12月14日～03年12月15日	東経	
調査業者名	株式会社三水コンサルタント 電話(092-282-7050)	主任技術者	阿部安文	現場作業責任者	コ ア 山口寛央
孔口標高	+141.15 KBM -0.25 m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 270° 西 0° 東 180° 南
総削孔長	11.00 m	地盤勾配	鉛直 0° 水平 0°	試験機	D0-D
		使用機種	エンジン		NFD-10
				ポンプ	BG-3



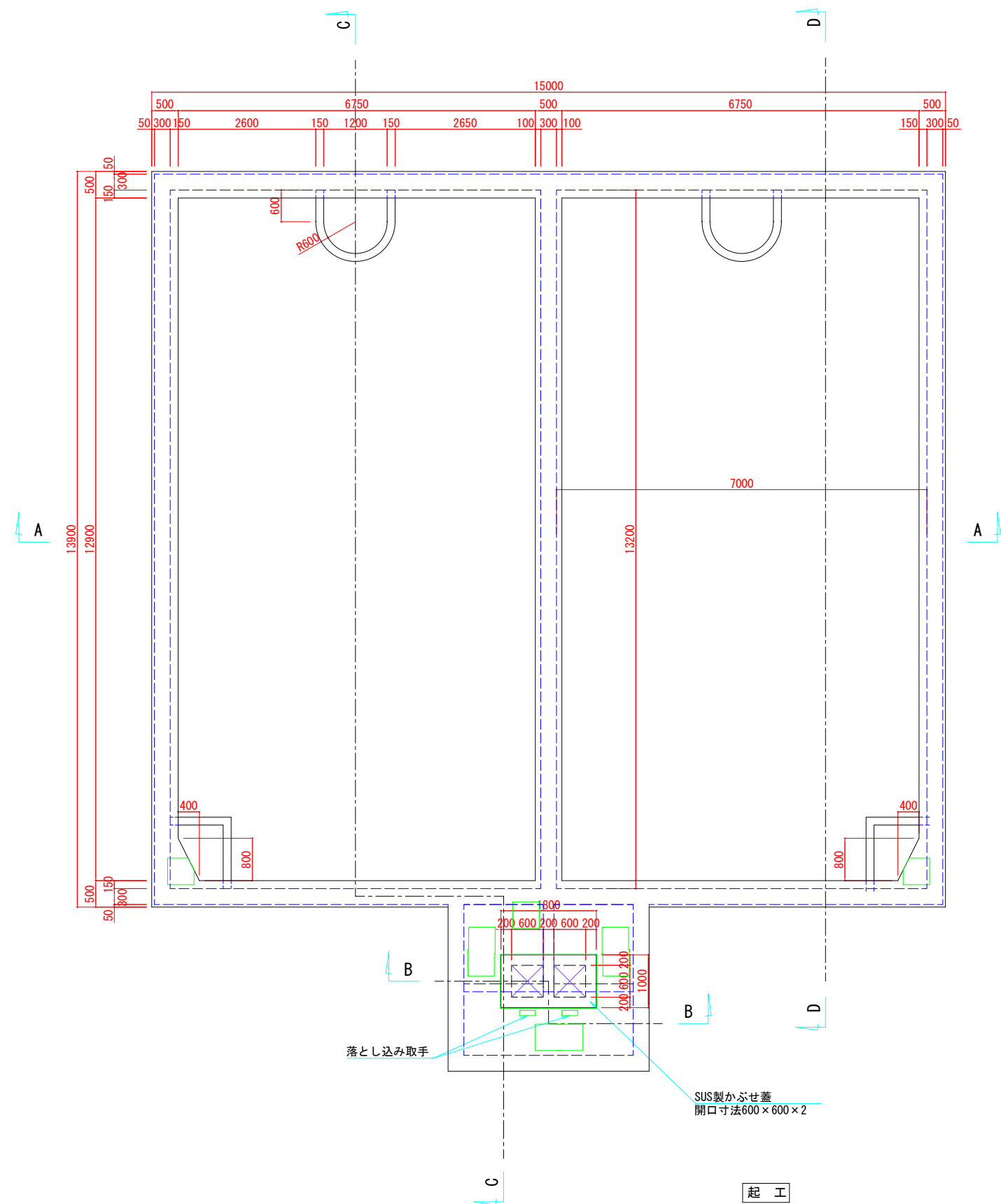
起工

年度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 土質柱状図（2）		
縮尺	A1：1/100 A3：1/200	番号	5
長崎県西海市			

緩速ろ過池平面図 S=1/50



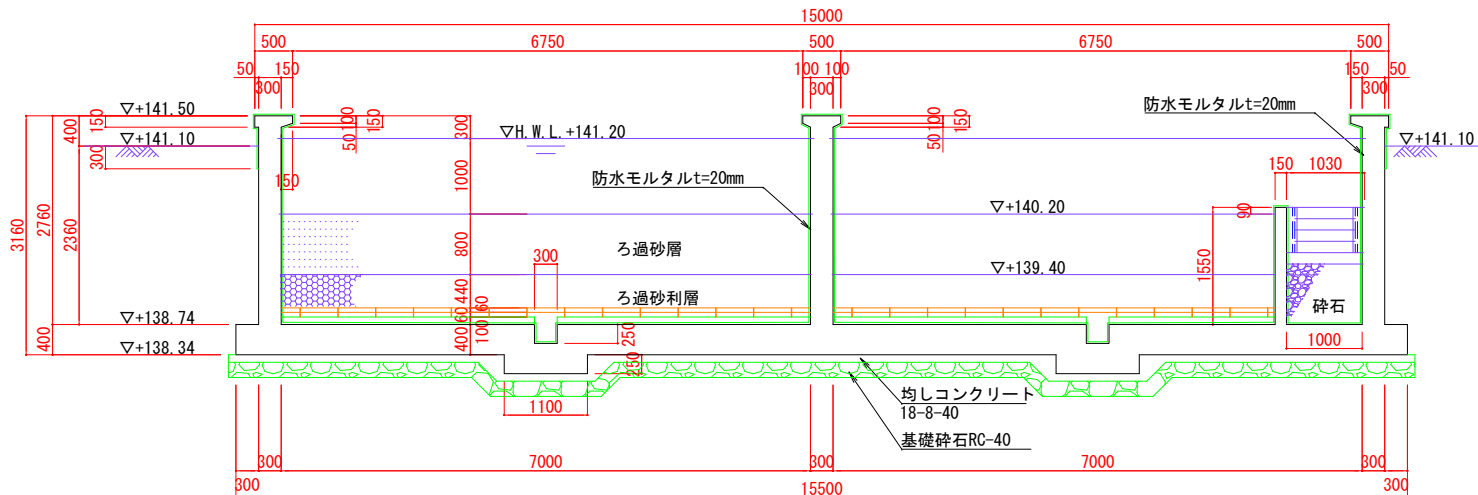
下部平面図



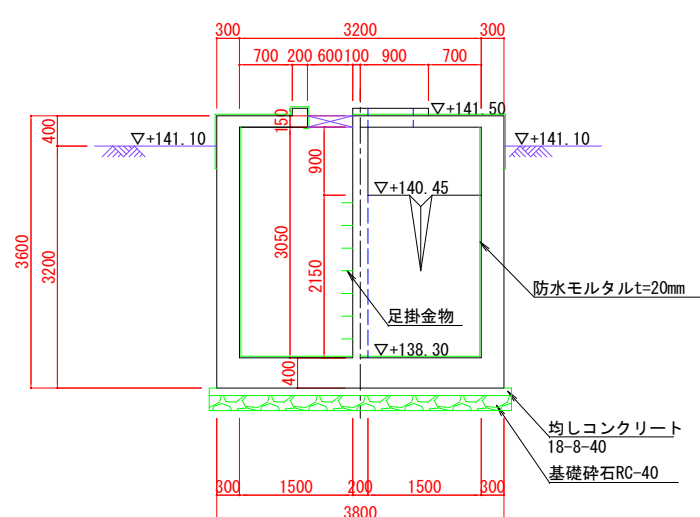
上部平面図

起 工				
年 度	令和 8 年度			
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）			
図面名称	西海中部浄水場 緩速ろ過池平面図			
縮 尺	A1 : 1/50	A3 : 1/100	番 号	6
長 崎 県 西 海 市				

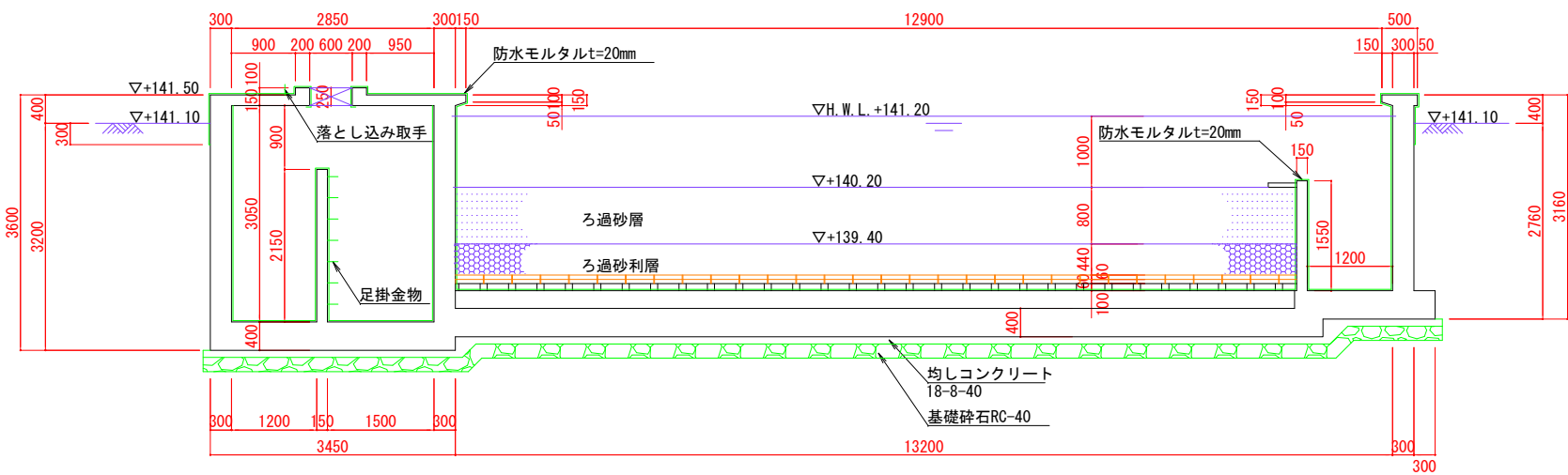
緩速ろ過池断面図 S=1/50



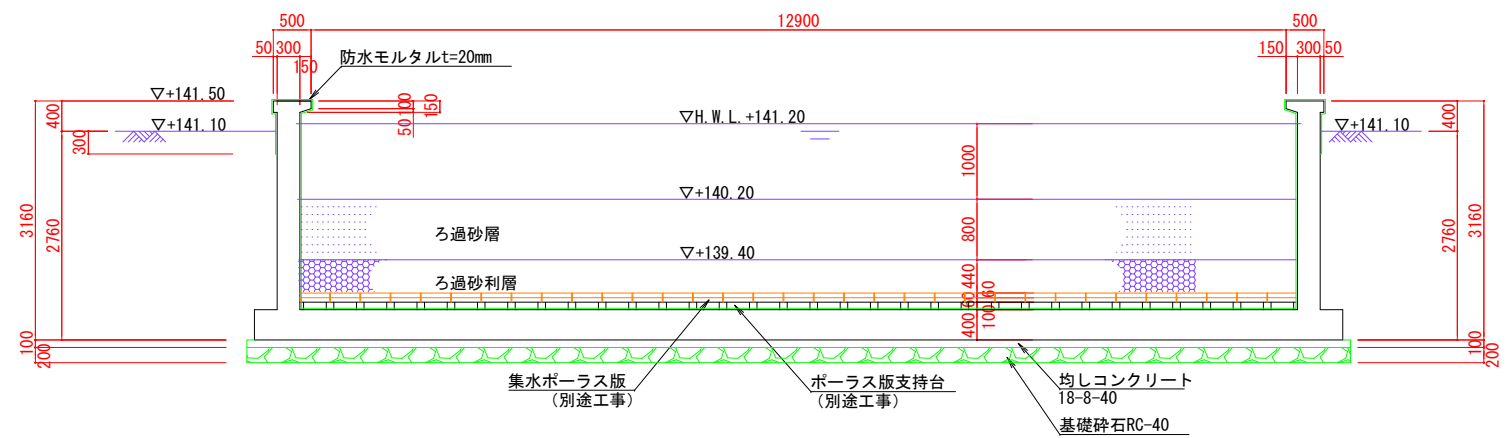
A-A 平面図



B-B 平面図



C-C 平面図



D-D断面図

起工

年度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 緩速ろ過池断面図		
縮尺	A1 : 1/50 A3 : 1/100	番号	7
長 崎 県 西 海 市			

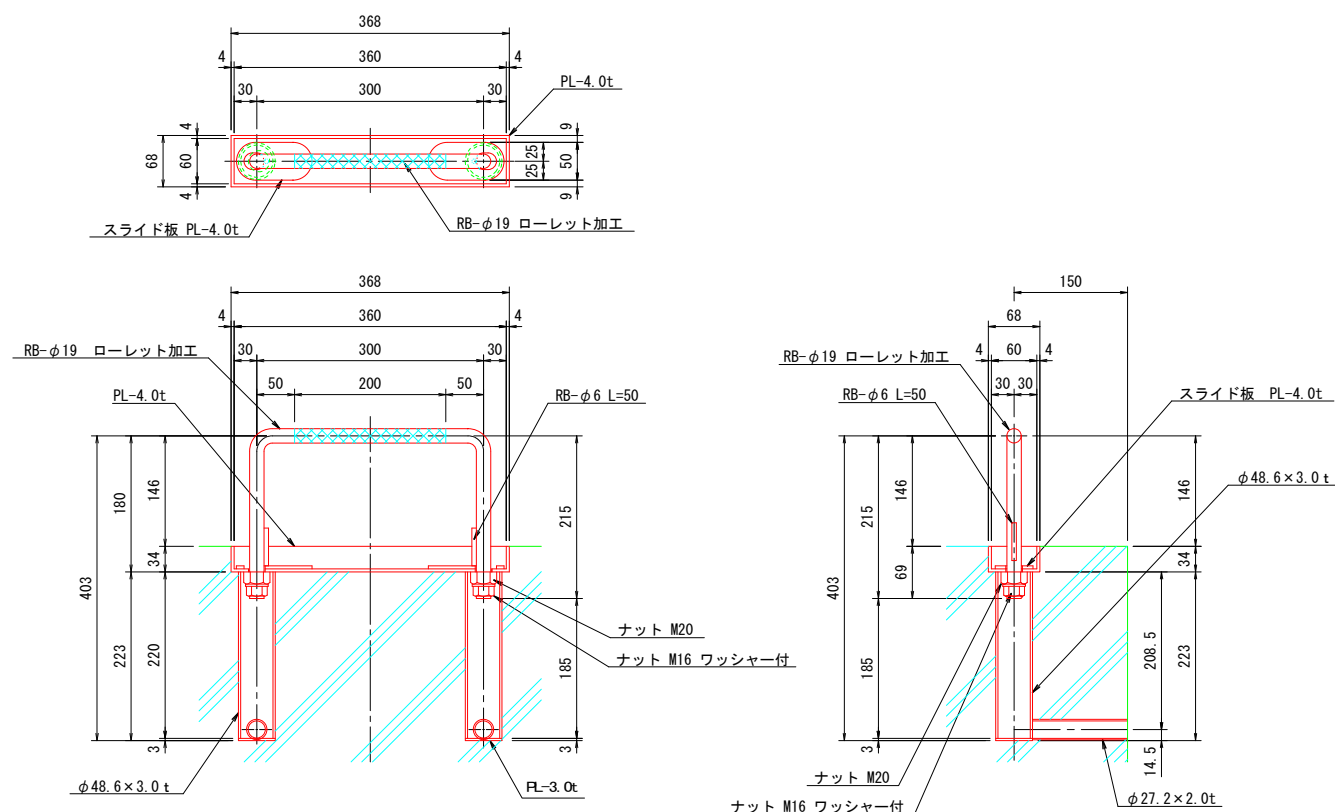
落とし込み取手詳細図

A1 : 1 / 5
A3 : 1 / 10

足掛金物（ステンレス製）詳細図

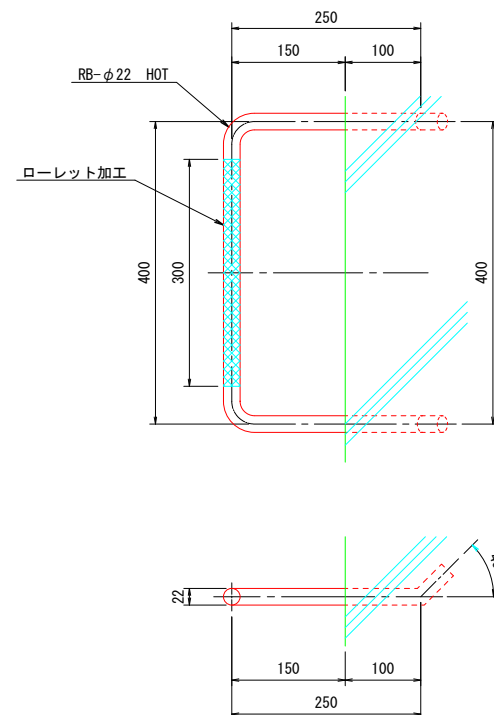
A1 : 1 / 5
A3 : 1 / 10

振れ止め金具（ステンレス製）詳細図

$$\begin{array}{l} A1 : 1/6 \\ A3 : 1/12 \end{array}$$


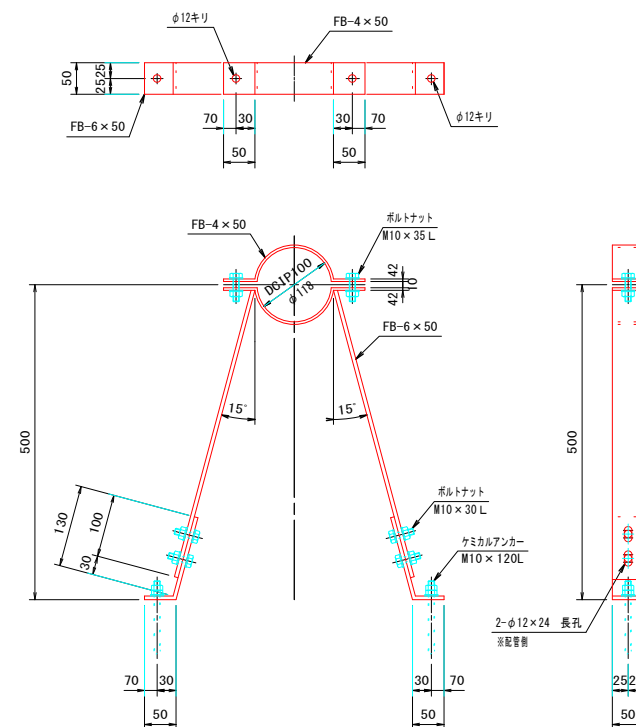
<注 記>

※使用鋼材は、全てSUS304とする。



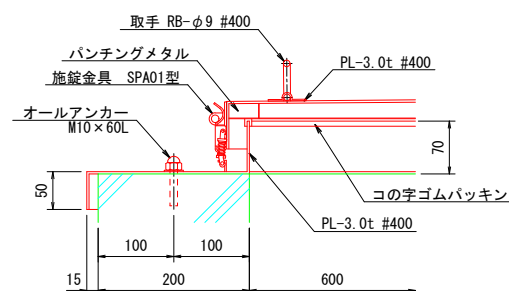
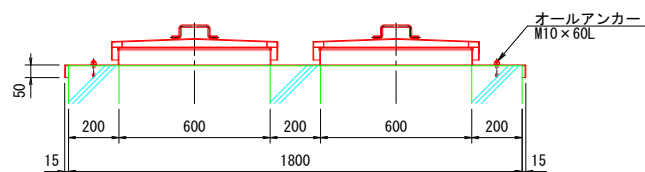
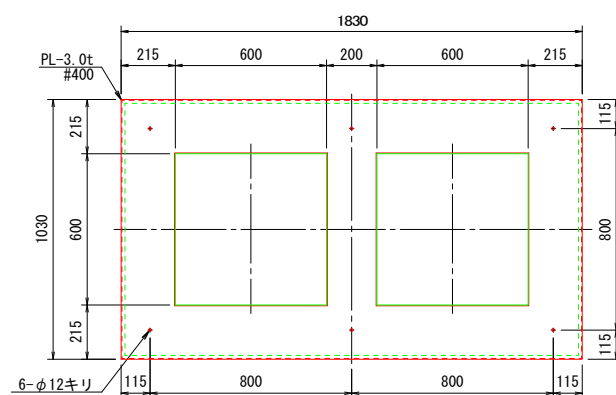
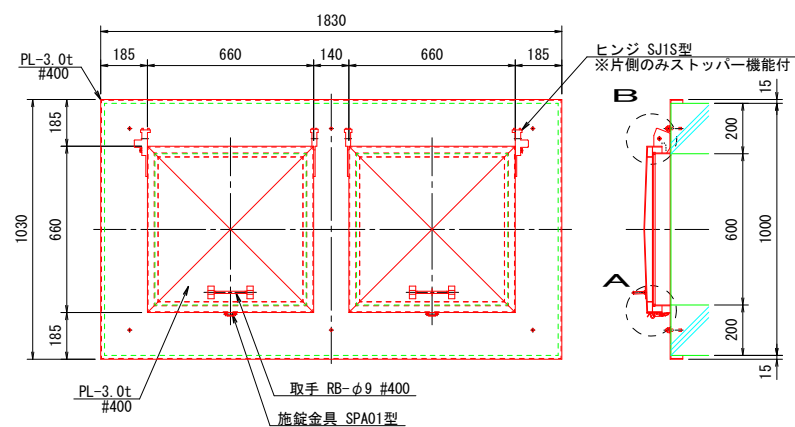
< 注 記 >

※使用鋼材は、全てSUS304とする。



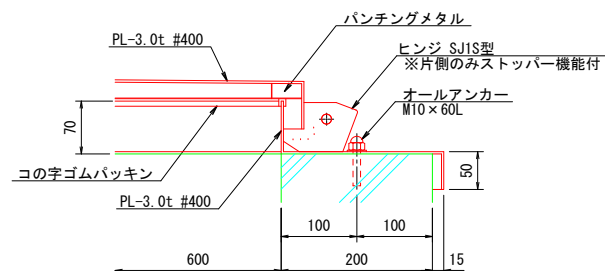
SUS製かぶせ蓋

A1 : 1 / 15
A3 : 1 / 30



” A ” 部詳細図

A1 : 1 / 5
A3 : 1 / 10



” B” 部詳細図

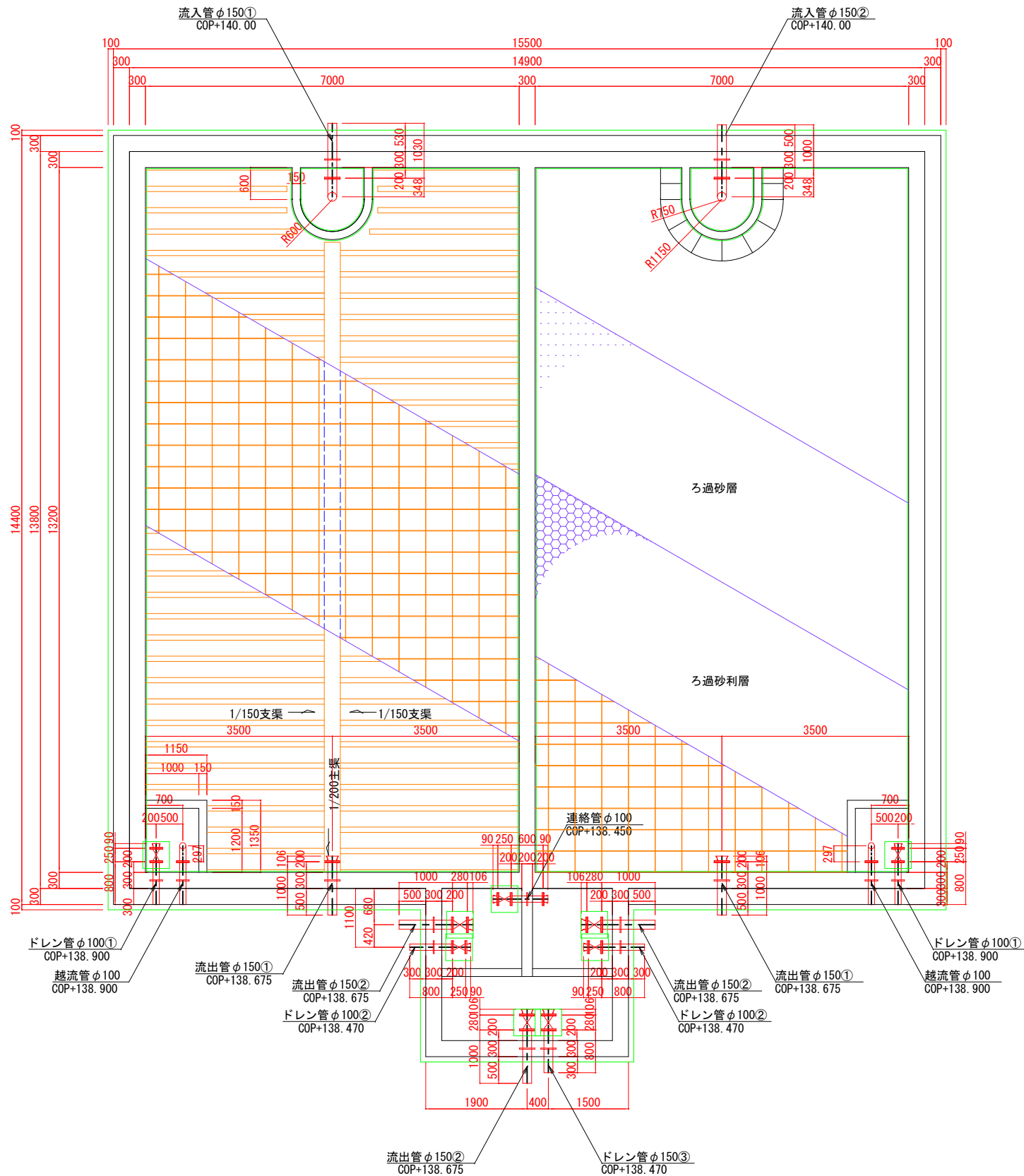
A1 : 1/5
A3 : 1/10

< 注 記 >

※使用鋼材は、全てSUS304とする。

起 工			
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 緩速ろ過池 部分詳細図		
縮 尺	図示	番 号	8
長 崎 県 西 海 市			

緩速ろ過池埋込管・池内配管図（1） S=1/50

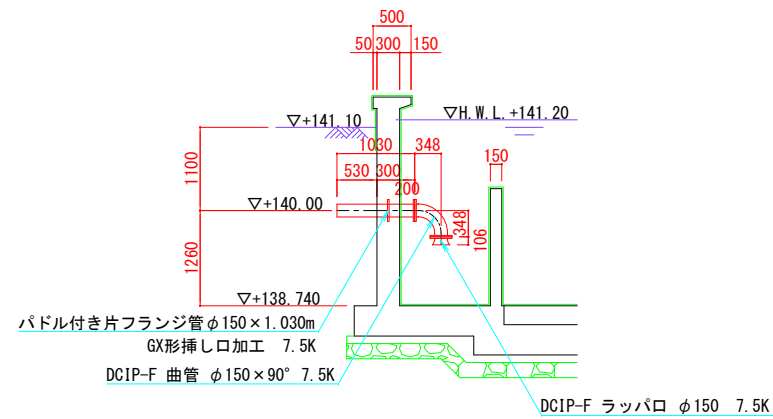


下部平面図

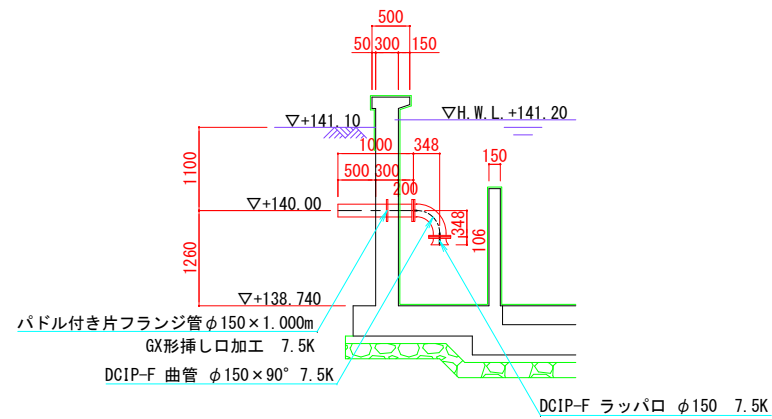
起 工			
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 緩速ろ過池埋込管・池内配管図（1）		
縮 尺	A1 : 1/50 A3 : 1/100	番 号	9
		長 崎 県 西 海 市	

緩速ろ過池埋込管・池内配管図 (2) S=1/50

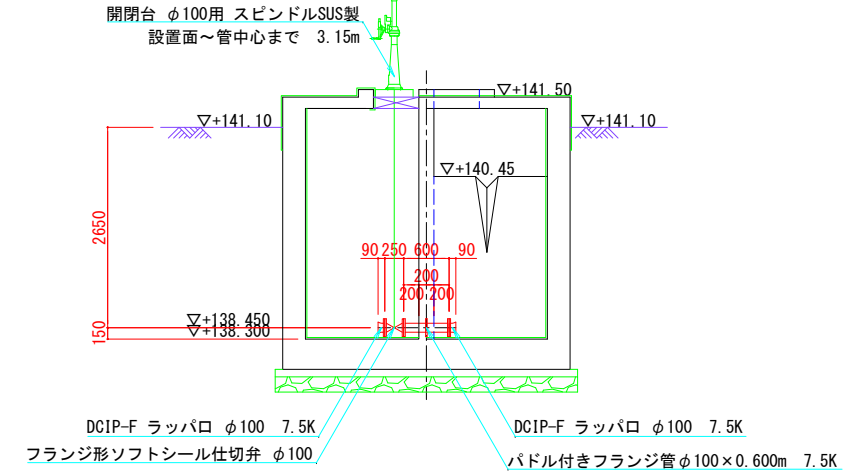
流入管①断面図



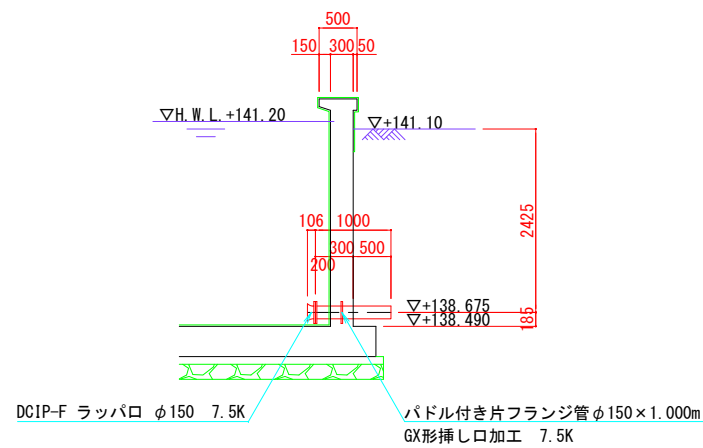
流入管②断面図



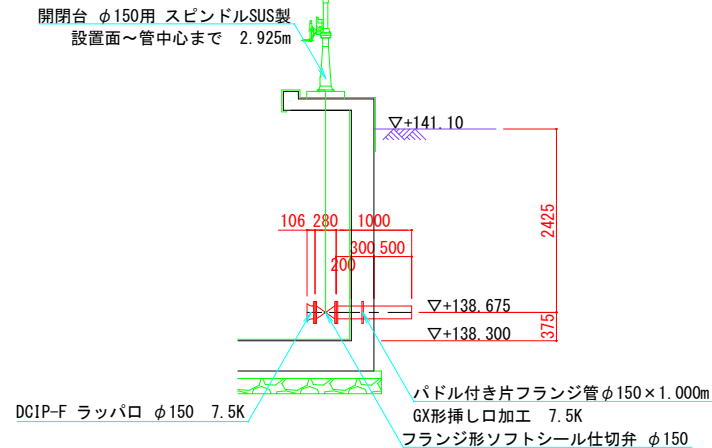
連絡管断面図



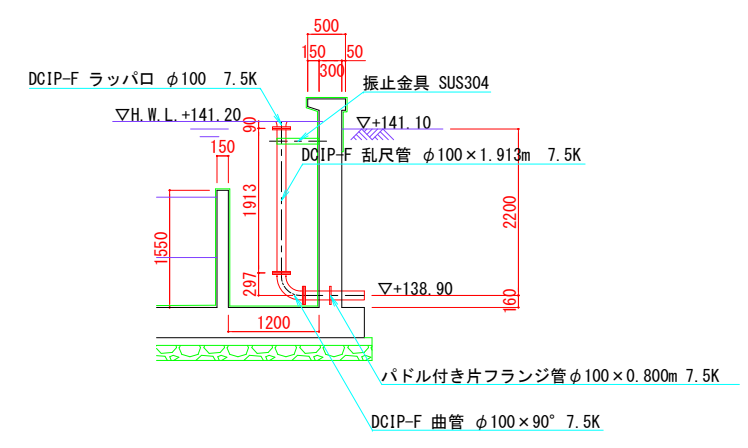
流出管①断面図



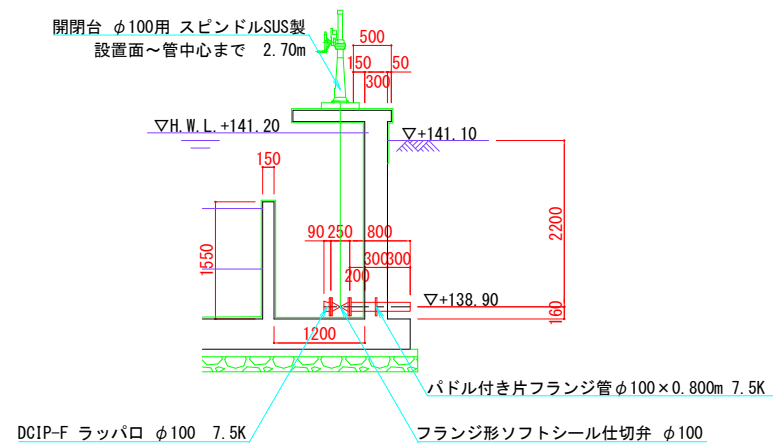
流出管②断面図



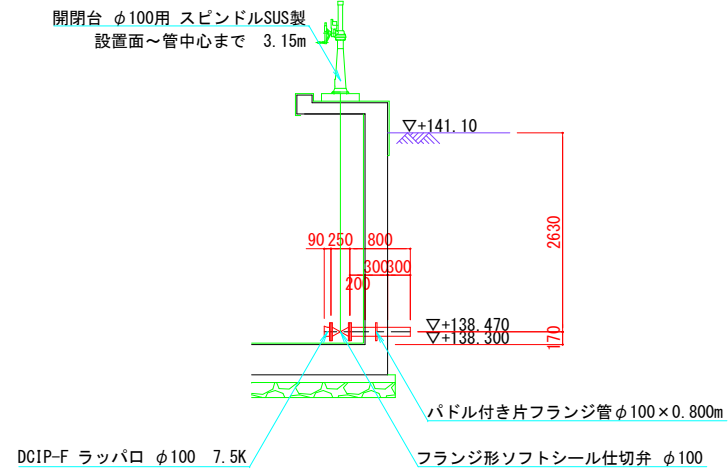
越流管断面図



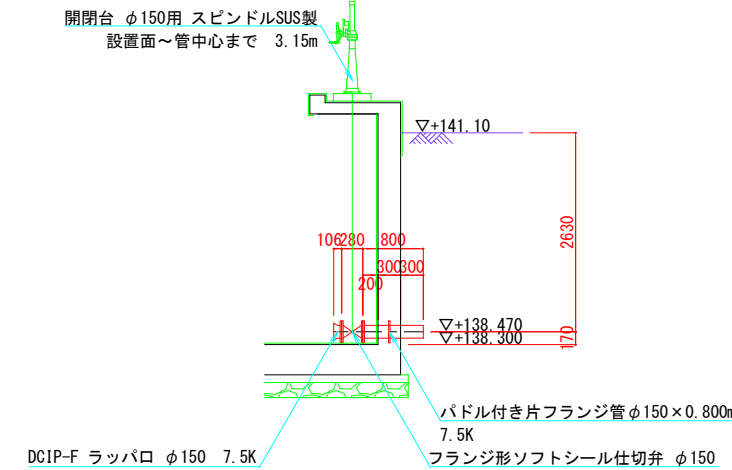
ドレン管①断面図



ドレン管②断面図



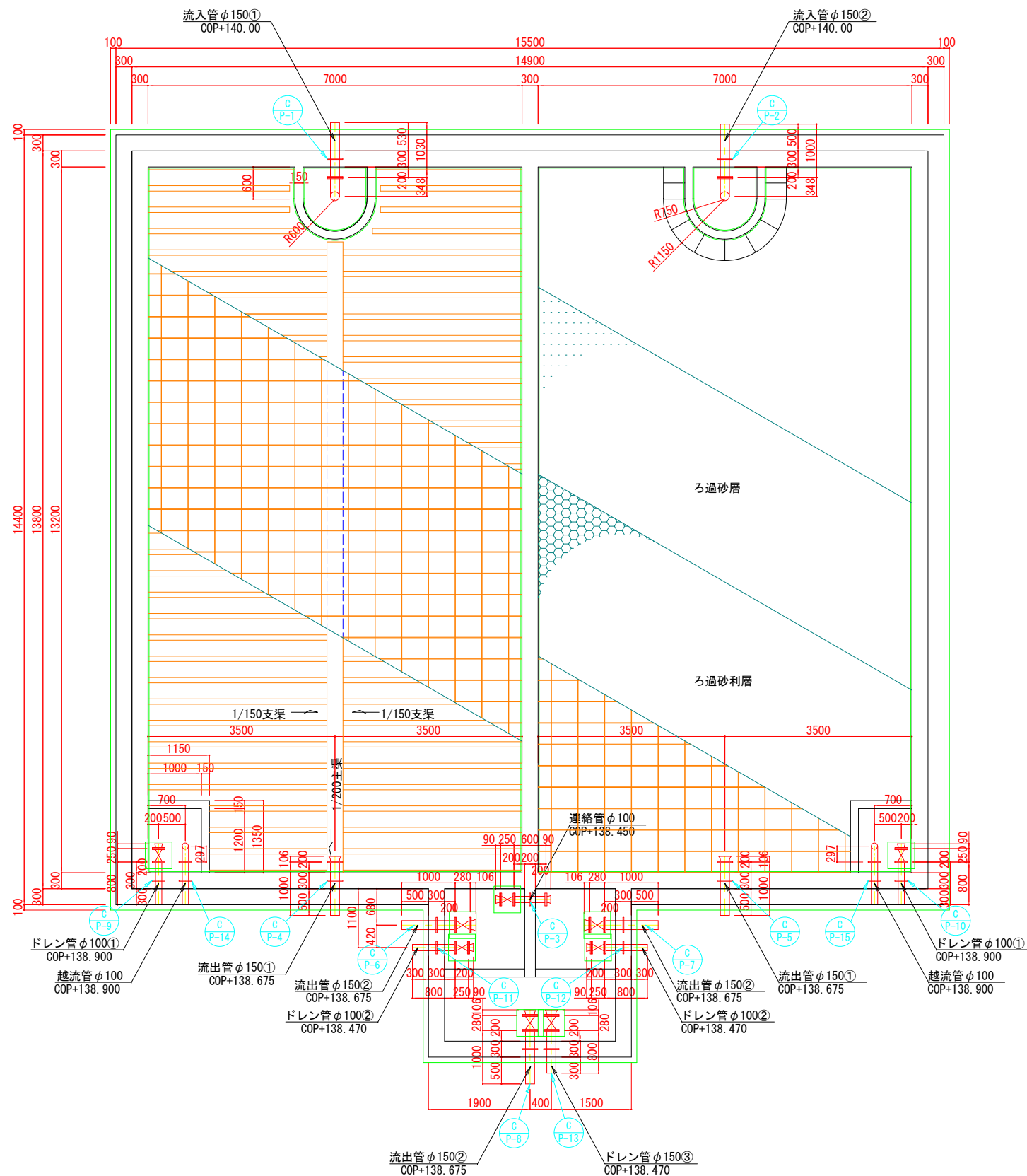
ドレン管③断面図



起 工			
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 緩速ろ過池埋込管・池内配管図（2）		
縮 尺	A1：1/50 A3：1/100	番 号	10
長 崎 県 西 海 市			

貫通孔、埋込管 及び 機器基礎仕様書																																						
節	項 目		特 記 事 項		節	項 目		特 記 事 項		節	項 目		特 記 事 項																									
一 般 事 項	1.	1. 適 用 基 準	国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」（以下、「標準仕様書」という）		3.	2. 埋込管の形式	a) 鋳鉄管のバドル付規格管を使用する場合 		4.	機 器 基 礎	[B 4] 	5.	1. リスト記入 方 法 a) 符号は 1. 一般事項 4. 符号による。 b) 形状寸法 1) 貫通孔については、形状寸法を記入する。 (例) 400φ 300×500 2) 埋込管については、形状寸法を記入する。 (例) 400φ × 800 3) 基礎については、形状寸法及び仕上り面よりの立ち上り高さを記入する。又、B 4 無筋コンクリートを抜く場合は、形状寸法及び無筋コンクリート厚さを記入する。 c) 材料－形式は一印の前に材料を、後に形式を記入する。 (例) S 1－ P 1－F 1 －B 1 d) 床・壁の区分 1) 壁部分は壁に○印を、床部分の場合は床に○印を記入する。 e) 位置の表示は、下記による。 1) 壁部分の位置・・・平面は、最寄り通り芯よりの寸法を記入し高さは、基準面（ ※ T P ・ Y P ・ A P ）より高さ表示とする。 (例) ② → ① 800 ○ → ○ + 8500 2) 床部分の位置表示は、最寄り通り芯よりの寸法を記入する。 (例) ④ → ③ 2400 ③ → ② 800 3) 位置の表示は、それぞれの施工芯表示とする。 f) 用途には配管系統（污水管、脱臭ダクト等）等を記入する。 g) 備考には、施工部位、工事区分、その他特記すべき事項を記入する。 h) その他 1) 埋込管にフランジ蓋を設ける場合は、備考欄に特記する。 2) 埋込管にフランジ規格の呼び圧力は次の場合を示す。 鋳鉄管： J I S 7. 5 K ステンレス管・鋼管： J I S 10 K 上記以外は特記する。 3) 貫通孔に仮壁を設ける場合は備考欄に特記する。 4) 将来使用する開口については、仮壁、仮蓋等を施すものとし、備考欄に特記する。																									
	2.	2. 施 工 図 等	配管・配線系統を打ち合せ、位置・寸法及び方向を検討し、施工図を速やかに監督員に提出し、承諾を受ける。				b) 規格外のバドル付短管を使用する場合 																															
	3.	3. 発生材の処理	工事特記仕様書による。																																			
	4.	4. 符 号	各設備に用いる符号は下記とする。 (例) AM・S → 通し番号 → 貫通孔の形状の符号 S・・・貫通孔 P・・・埋込管 B・・・基礎 → 各設備の符号 C・・・土木 AM・・・建築機械設備 AE・・・建築電気設備 PM・・・プラント機械設備 PE・・・プラント電気設備																																			
	5.	5. 開 口 補 強	a) 開口補強方法については、標準仕様書別図各部配筋による。 1) 壁開口補強は、4. 2による。 ・ A 形 ※B 形 但し、耐震壁は図示による。 2) 床版開口部補強は、5. 3による。 3) 梁貫通孔の補強は特記による。特記がなければ、7. 1により、配筋種別は特記による。																																			
6.	6. 工 法	a) 貫通孔、埋込管は、寸法・位置に充分注意して堅固に取り付ける b) 埋込管を水槽・外壁に取付ける場合は、漏水のないように、充分考慮し施工する。																																				
7.	7. 特 記 事 項	a) ◎ 印のついたものを適用する。○ 印のない場合は※印のあるものを適用する。又、○ 印と ⊗ 印のある場合は共に適用する。																																				
貫 通 孔	1.	1. 材料、材質	a) 貫通孔に用いる材料は下記による。 <table border="1"><tr><td>記号</td><td>S 1</td><td>S 2</td><td>S 3</td><td>S 4</td><td>S 5</td><td>S 6</td></tr><tr><td>材料</td><td>鋼管</td><td>硬質塩ビ管</td><td>溶融亜鉛めっき鋼板</td><td>つば付鋼板</td><td>紙チューブ</td><td>木枠</td></tr></table>		記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6	材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠	4.	1. 分 類	a) 基礎の分類は下記による <table border="1"><tr><th colspan="2">基礎の分類</th></tr><tr><th>記号</th><th>形 状</th></tr><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></table> [B 1] 		基礎の分類		記号	形 状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項
	記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6																															
材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠																																
基礎の分類																																						
記号	形 状																																					
B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎																																					
B 2	無筋コンクリート部分等の基礎																																					
B 3	防水層部分の立ち上り基礎																																					
B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																					
2.	2. 次期工事の貫通孔処理	a) 次期発注の外壁・床版貫通孔及び仮補強筋は、下記による。 <table border="1"><tr><th>B</th><th>壁部</th><th>床版部</th></tr><tr><td>1500未満</td><td>D 13－200@シングル</td><td>構造体配筋に同じ</td></tr></table> コンクリート強度：構造体強度に同じ ▽：シーリング（10×10） b) 土圧・水圧を受ける場合は、B-0.4-1を標準とし、その仕様は特記による。		B	壁部	床版部	1500未満	D 13－200@シングル	構造体配筋に同じ	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																									
B	壁部	床版部																																				
1500未満	D 13－200@シングル	構造体配筋に同じ																																				
埋 込 管	1.	1. 材料、材質	a) 埋込管に用いる材料は、下記のものとする。 埋込管の材料 <table border="1"><tr><td>記号</td><td>P 1</td><td>P 2</td><td>P 3</td><td>P 4</td><td>P 5</td></tr><tr><td>材料</td><td>ステンレス管</td><td>鋼 管</td><td>鋳 鉄 管</td><td>塩 ビ 管</td><td>亜鉛鉄管</td></tr></table> b) 埋込管の材質については、下記による。 1) ステンレス管・・・JIS G 3459 0.98Mpa (SUS 304) 鋼管差し込み溶接フランジ規格 ※ C-1 sch 20S ・ C-2 sch 40 2) 鋼 管・・・JIS G ※3452 (SGP) ※3442 (SGPW) 3) 鋳鉄管・・・※JSWAS G-1 ・ JIS G 5526 4) 塩ビ管・・・JIS K 6741 ※VP ・ VU 5) 亜鉛鉄管・・・JIS G 3302 ※4mm以上 ・ 6mm以上 c) 埋込管の塗装は、「機械設備工事一般仕様書」の定めに準拠する。		記号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	材料	ステンレス管	鋼 管	鋳 鉄 管	塩 ビ 管	亜鉛鉄管	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																		
	記号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5																																
材料	ステンレス管	鋼 管	鋳 鉄 管	塩 ビ 管	亜鉛鉄管																																	
2.	2. 埋込管の形式	a) 基礎の分類は下記による <table border="1"><tr><th colspan="2">基礎の分類</th></tr><tr><th>記号</th><th>形 状</th></tr><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></table> [B 1] 		基礎の分類		記号	形 状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																			
基礎の分類																																						
記号	形 状																																					
B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎																																					
B 2	無筋コンクリート部分等の基礎																																					
B 3	防水層部分の立ち上り基礎																																					
B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																					
3.	3. 発生材の処理	工事特記仕様書による。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
4.	4. 符 号	各設備に用いる符号は下記とする。 (例) AM・S → 通し番号 → 貫通孔の形状の符号 S・・・貫通孔 P・・・埋込管 B・・・基礎 → 各設備の符号 C・・・土木 AM・・・建築機械設備 AE・・・建築電気設備 PM・・・プラント機械設備 PE・・・プラント電気設備						項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																											
5.	5. 開 口 補 強	a) 開口補強方法については、標準仕様書別図各部配筋による。 1) 壁開口補強は、4. 2による。 ・ A 形 ※B 形 但し、耐震壁は図示による。 2) 床版開口部補強は、5. 3による。 3) 梁貫通孔の補強は特記による。特記がなければ、7. 1により、配筋種別は特記による。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
6.	6. 工 法	a) 貫通孔、埋込管は、寸法・位置に充分注意して堅固に取り付ける b) 埋込管を水槽・外壁に取付ける場合は、漏水のないように、充分考慮し施工する。						項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																											
7.	7. 特 記 事 項	a) ◎ 印のついたものを適用する。○ 印のない場合は※印のあるものを適用する。又、○ 印と ⊗ 印のある場合は共に適用する。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
貫 通 孔	1.	1. 材料、材質	a) 貫通孔に用いる材料は下記による。 <table border="1"><tr><td>記号</td><td>S 1</td><td>S 2</td><td>S 3</td><td>S 4</td><td>S 5</td><td>S 6</td></tr><tr><td>材料</td><td>鋼管</td><td>硬質塩ビ管</td><td>溶融亜鉛めっき鋼板</td><td>つば付鋼板</td><td>紙チューブ</td><td>木枠</td></tr></table>					記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6	材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠	4.	1. 分 類	a) 基礎の分類は下記による <table border="1"><tr><th colspan="2">基礎の分類</th></tr><tr><th>記号</th><th>形 状</th></tr><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></table> [B 1] 		基礎の分類		記号	形 状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合	項目
	記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6																															
材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠																																
基礎の分類																																						
記号	形 状																																					
B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎																																					
B 2	無筋コンクリート部分等の基礎																																					
B 3	防水層部分の立ち上り基礎																																					
B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																					
2.	2. 次期工事の貫通孔処理	a) 次期発注の外壁・床版貫通孔及び仮補強筋は、下記による。 <table border="1"><tr><th>B</th><th>壁部</th><th>床版部</th></tr><tr><td>1500未満</td><td>D 13－200@シングル</td><td>構造体配筋に同じ</td></tr></table> コンクリート強度：構造体強度に同じ ▽：シーリング（10×10） b) 土圧・水圧を受ける場合は、B-0.4-1を標準とし、その仕様は特記による。		B	壁部	床版部	1500未満	D 13－200@シングル	構造体配筋に同じ	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																									
B	壁部	床版部																																				
1500未満	D 13－200@シングル	構造体配筋に同じ																																				
埋 込 管	1.	1. 材料、材質	a) 埋込管に用いる材料は、下記のものとする。 埋込管の材料 <table border="1"><tr><td>記号</td><td>P 1</td><td>P 2</td><td>P 3</td><td>P 4</td><td>P 5</td></tr><tr><td>材料</td><td>ステンレス管</td><td>鋼 管</td><td>鋳 鉄 管</td><td>塩 ビ 管</td><td>亜鉛鉄管</td></tr></table> b) 埋込管の材質については、下記による。 1) ステンレス管・・・JIS G 3459 0.98Mpa (SUS 304) 鋼管差し込み溶接フランジ規格 ※ C-1 sch 20S ・ C-2 sch 40 2) 鋼 管・・・JIS G ※3452 (SGP) ※3442 (SGPW) 3) 鋳鉄管・・・※JSWAS G-1 ・ JIS G 5526 4) 塩ビ管・・・JIS K 6741 ※VP ・ VU 5) 亜鉛鉄管・・・JIS G 3302 ※4mm以上 ・ 6mm以上 c) 埋込管の塗装は、「機械設備工事一般仕様書」の定めに準拠する。		記号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	材料	ステンレス管	鋼 管	鋳 鉄 管	塩 ビ 管	亜鉛鉄管	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																		
	記号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5																																
材料	ステンレス管	鋼 管	鋳 鉄 管	塩 ビ 管	亜鉛鉄管																																	
2.	2. 埋込管の形式	a) 基礎の分類は下記による <table border="1"><tr><th colspan="2">基礎の分類</th></tr><tr><th>記号</th><th>形 状</th></tr><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></table> [B 1] 		基礎の分類		記号	形 状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																			
基礎の分類																																						
記号	形 状																																					
B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎																																					
B 2	無筋コンクリート部分等の基礎																																					
B 3	防水層部分の立ち上り基礎																																					
B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																					
3.	3. 発生材の処理	工事特記仕様書による。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
4.	4. 符 号	各設備に用いる符号は下記とする。 (例) AM・S → 通し番号 → 貫通孔の形状の符号 S・・・貫通孔 P・・・埋込管 B・・・基礎 → 各設備の符号 C・・・土木 AM・・・建築機械設備 AE・・・建築電気設備 PM・・・プラント機械設備 PE・・・プラント電気設備						項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																											
5.	5. 開 口 補 強	a) 開口補強方法については、標準仕様書別図各部配筋による。 1) 壁開口補強は、4. 2による。 ・ A 形 ※B 形 但し、耐震壁は図示による。 2) 床版開口部補強は、5. 3による。 3) 梁貫通孔の補強は特記による。特記がなければ、7. 1により、配筋種別は特記による。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
6.	6. 工 法	a) 貫通孔、埋込管は、寸法・位置に充分注意して堅固に取り付ける b) 埋込管を水槽・外壁に取付ける場合は、漏水のないように、充分考慮し施工する。						項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																											
7.	7. 特 記 事 項	a) ◎ 印のついたものを適用する。○ 印のない場合は※印のあるものを適用する。又、○ 印と ⊗ 印のある場合は共に適用する。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
貫 通 孔	1.	1. 材料、材質	a) 貫通孔に用いる材料は下記による。 <table border="1"><tr><td>記号</td><td>S 1</td><td>S 2</td><td>S 3</td><td>S 4</td><td>S 5</td><td>S 6</td></tr><tr><td>材料</td><td>鋼管</td><td>硬質塩ビ管</td><td>溶融亜鉛めっき鋼板</td><td>つば付鋼板</td><td>紙チューブ</td><td>木枠</td></tr></table>					記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6	材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠	4.	1. 分 類	a) 基礎の分類は下記による <table border="1"><tr><th colspan="2">基礎の分類</th></tr><tr><th>記号</th><th>形 状</th></tr><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></table> [B 1] 		基礎の分類		記号	形 状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合	項目
	記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6																															
材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠																																
基礎の分類																																						
記号	形 状																																					
B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎																																					
B 2	無筋コンクリート部分等の基礎																																					
B 3	防水層部分の立ち上り基礎																																					
B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																					
2.	2. 次期工事の貫通孔処理	a) 次期発注の外壁・床版貫通孔及び仮補強筋は、下記による。 <table border="1"><tr><th>B</th><th>壁部</th><th>床版部</th></tr><tr><td>1500未満</td><td>D 13－200@シングル</td><td>構造体配筋に同じ</td></tr></table> コンクリート強度：構造体強度に同じ ▽：シーリング（10×10） b) 土圧・水圧を受ける場合は、B-0.4-1を標準とし、その仕様は特記による。		B	壁部	床版部	1500未満	D 13－200@シングル	構造体配筋に同じ	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																									
B	壁部	床版部																																				
1500未満	D 13－200@シングル	構造体配筋に同じ																																				
埋 込 管	1.	1. 材料、材質	a) 埋込管に用いる材料は、下記のものとする。 埋込管の材料 <table border="1"><tr><td>記号</td><td>P 1</td><td>P 2</td><td>P 3</td><td>P 4</td><td>P 5</td></tr><tr><td>材料</td><td>ステンレス管</td><td>鋼 管</td><td>鋳 鉄 管</td><td>塩 ビ 管</td><td>亜鉛鉄管</td></tr></table> b) 埋込管の材質については、下記による。 1) ステンレス管・・・JIS G 3459 0.98Mpa (SUS 304) 鋼管差し込み溶接フランジ規格 ※ C-1 sch 20S ・ C-2 sch 40 2) 鋼 管・・・JIS G ※3452 (SGP) ※3442 (SGPW) 3) 鋳鉄管・・・※JSWAS G-1 ・ JIS G 5526 4) 塩ビ管・・・JIS K 6741 ※VP ・ VU 5) 亜鉛鉄管・・・JIS G 3302 ※4mm以上 ・ 6mm以上 c) 埋込管の塗装は、「機械設備工事一般仕様書」の定めに準拠する。		記号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	材料	ステンレス管	鋼 管	鋳 鉄 管	塩 ビ 管	亜鉛鉄管	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																		
	記号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5																																
材料	ステンレス管	鋼 管	鋳 鉄 管	塩 ビ 管	亜鉛鉄管																																	
2.	2. 埋込管の形式	a) 基礎の分類は下記による <table border="1"><tr><th colspan="2">基礎の分類</th></tr><tr><th>記号</th><th>形 状</th></tr><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></table> [B 1] 		基礎の分類		記号	形 状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																			
基礎の分類																																						
記号	形 状																																					
B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎																																					
B 2	無筋コンクリート部分等の基礎																																					
B 3	防水層部分の立ち上り基礎																																					
B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																					
3.	3. 発生材の処理	工事特記仕様書による。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
4.	4. 符 号	各設備に用いる符号は下記とする。 (例) AM・S → 通し番号 → 貫通孔の形状の符号 S・・・貫通孔 P・・・埋込管 B・・・基礎 → 各設備の符号 C・・・土木 AM・・・建築機械設備 AE・・・建築電気設備 PM・・・プラント機械設備 PE・・・プラント電気設備						項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																											
5.	5. 開 口 補 強	a) 開口補強方法については、標準仕様書別図各部配筋による。 1) 壁開口補強は、4. 2による。 ・ A 形 ※B 形 但し、耐震壁は図示による。 2) 床版開口部補強は、5. 3による。 3) 梁貫通孔の補強は特記による。特記がなければ、7. 1により、配筋種別は特記による。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
6.	6. 工 法	a) 貫通孔、埋込管は、寸法・位置に充分注意して堅固に取り付ける b) 埋込管を水槽・外壁に取付ける場合は、漏水のないように、充分考慮し施工する。						項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																											
7.	7. 特 記 事 項	a) ◎ 印のついたものを適用する。○ 印のない場合は※印のあるものを適用する。又、○ 印と ⊗ 印のある場合は共に適用する。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
貫 通 孔	1.	1. 材料、材質	a) 貫通孔に用いる材料は下記による。 <table border="1"><tr><td>記号</td><td>S 1</td><td>S 2</td><td>S 3</td><td>S 4</td><td>S 5</td><td>S 6</td></tr><tr><td>材料</td><td>鋼管</td><td>硬質塩ビ管</td><td>溶融亜鉛めっき鋼板</td><td>つば付鋼板</td><td>紙チューブ</td><td>木枠</td></tr></table>					記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6	材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠	4.	1. 分 類	a) 基礎の分類は下記による <table border="1"><tr><th colspan="2">基礎の分類</th></tr><tr><th>記号</th><th>形 状</th></tr><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></table> [B 1] 		基礎の分類		記号	形 状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合	項目
	記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6																															
材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠																																
基礎の分類																																						
記号	形 状																																					
B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎																																					
B 2	無筋コンクリート部分等の基礎																																					
B 3	防水層部分の立ち上り基礎																																					
B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																					
2.	2. 次期工事の貫通孔処理	a) 次期発注の外壁・床版貫通孔及び仮補強筋は、下記による。 <table border="1"><tr><th>B</th><th>壁部</th><th>床版部</th></tr><tr><td>1500未満</td><td>D 13－200@シングル</td><td>構造体配筋に同じ</td></tr></table> コンクリート強度：構造体強度に同じ ▽：シーリング（10×10） b) 土圧・水圧を受ける場合は、B-0.4-1を標準とし、その仕様は特記による。		B	壁部	床版部	1500未満	D 13－200@シングル	構造体配筋に同じ	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																									
B	壁部	床版部																																				
1500未満	D 13－200@シングル	構造体配筋に同じ																																				
埋 込 管	1.	1. 材料、材質	a) 埋込管に用いる材料は、下記のものとする。 埋込管の材料 <table border="1"><tr><td>記号</td><td>P 1</td><td>P 2</td><td>P 3</td><td>P 4</td><td>P 5</td></tr><tr><td>材料</td><td>ステンレス管</td><td>鋼 管</td><td>鋳 鉄 管</td><td>塩 ビ 管</td><td>亜鉛鉄管</td></tr></table> b) 埋込管の材質については、下記による。 1) ステンレス管・・・JIS G 3459 0.98Mpa (SUS 304) 鋼管差し込み溶接フランジ規格 ※ C-1 sch 20S ・ C-2 sch 40 2) 鋼 管・・・JIS G ※3452 (SGP) ※3442 (SGPW) 3) 鋳鉄管・・・※JSWAS G-1 ・ JIS G 5526 4) 塩ビ管・・・JIS K 6741 ※VP ・ VU 5) 亜鉛鉄管・・・JIS G 3302 ※4mm以上 ・ 6mm以上 c) 埋込管の塗装は、「機械設備工事一般仕様書」の定めに準拠する。		記号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	材料	ステンレス管	鋼 管	鋳 鉄 管	塩 ビ 管	亜鉛鉄管	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																		
	記号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5																																
材料	ステンレス管	鋼 管	鋳 鉄 管	塩 ビ 管	亜鉛鉄管																																	
2.	2. 埋込管の形式	a) 基礎の分類は下記による <table border="1"><tr><th colspan="2">基礎の分類</th></tr><tr><th>記号</th><th>形 状</th></tr><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></table> [B 1] 		基礎の分類		記号	形 状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																			
基礎の分類																																						
記号	形 状																																					
B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎																																					
B 2	無筋コンクリート部分等の基礎																																					
B 3	防水層部分の立ち上り基礎																																					
B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																					
3.	3. 発生材の処理	工事特記仕様書による。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
4.	4. 符 号	各設備に用いる符号は下記とする。 (例) AM・S → 通し番号 → 貫通孔の形状の符号 S・・・貫通孔 P・・・埋込管 B・・・基礎 → 各設備の符号 C・・・土木 AM・・・建築機械設備 AE・・・建築電気設備 PM・・・プラント機械設備 PE・・・プラント電気設備						項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																											
5.	5. 開 口 補 強	a) 開口補強方法については、標準仕様書別図各部配筋による。 1) 壁開口補強は、4. 2による。 ・ A 形 ※B 形 但し、耐震壁は図示による。 2) 床版開口部補強は、5. 3による。 3) 梁貫通孔の補強は特記による。特記がなければ、7. 1により、配筋種別は特記による。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
6.	6. 工 法	a) 貫通孔、埋込管は、寸法・位置に充分注意して堅固に取り付ける b) 埋込管を水槽・外壁に取付ける場合は、漏水のないように、充分考慮し施工する。						項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																											
7.	7. 特 記 事 項	a) ◎ 印のついたものを適用する。○ 印のない場合は※印のあるものを適用する。又、○ 印と ⊗ 印のある場合は共に適用する。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
貫 通 孔	1.	1. 材料、材質	a) 貫通孔に用いる材料は下記による。 <table border="1"><tr><td>記号</td><td>S 1</td><td>S 2</td><td>S 3</td><td>S 4</td><td>S 5</td><td>S 6</td></tr><tr><td>材料</td><td>鋼管</td><td>硬質塩ビ管</td><td>溶融亜鉛めっき鋼板</td><td>つば付鋼板</td><td>紙チューブ</td><td>木枠</td></tr></table>					記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6	材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠	4.	1. 分 類	a) 基礎の分類は下記による <table border="1"><tr><th colspan="2">基礎の分類</th></tr><tr><th>記号</th><th>形 状</th></tr><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></table> [B 1] 		基礎の分類		記号	形 状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合	項目
	記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6																															
材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠																																
基礎の分類																																						
記号	形 状																																					
B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎																																					
B 2	無筋コンクリート部分等の基礎																																					
B 3	防水層部分の立ち上り基礎																																					
B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																					
2.	2. 次期工事の貫通孔処理	a) 次期発注の外壁・床版貫通孔及び仮補強筋は、下記による。 <table border="1"><tr><th>B</th><th>壁部</th><th>床版部</th></tr><tr><td>1500未満</td><td>D 13－200@シングル</td><td>構造体配筋に同じ</td></tr></table> コンクリート強度：構造体強度に同じ ▽：シーリング（10×10） b) 土圧・水圧を受ける場合は、B-0.4-1を標準とし、その仕様は特記による。		B	壁部	床版部	1500未満	D 13－200@シングル	構造体配筋に同じ	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																									
B	壁部	床版部																																				
1500未満	D 13－200@シングル	構造体配筋に同じ																																				
埋 込 管	1.	1. 材料、材質	a) 埋込管に用いる材料は、下記のものとする。 埋込管の材料 <table border="1"><tr><td>記号</td><td>P 1</td><td>P 2</td><td>P 3</td><td>P 4</td><td>P 5</td></tr><tr><td>材料</td><td>ステンレス管</td><td>鋼 管</td><td>鋳 鉄 管</td><td>塩 ビ 管</td><td>亜鉛鉄管</td></tr></table> b) 埋込管の材質については、下記による。 1) ステンレス管・・・JIS G 3459 0.98Mpa (SUS 304) 鋼管差し込み溶接フランジ規格 ※ C-1 sch 20S ・ C-2 sch 40 2) 鋼 管・・・JIS G ※3452 (SGP) ※3442 (SGPW) 3) 鋳鉄管・・・※JSWAS G-1 ・ JIS G 5526 4) 塩ビ管・・・JIS K 6741 ※VP ・ VU 5) 亜鉛鉄管・・・JIS G 3302 ※4mm以上 ・ 6mm以上 c) 埋込管の塗装は、「機械設備工事一般仕様書」の定めに準拠する。		記号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	材料	ステンレス管	鋼 管	鋳 鉄 管	塩 ビ 管	亜鉛鉄管	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																		
	記号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5																																
材料	ステンレス管	鋼 管	鋳 鉄 管	塩 ビ 管	亜鉛鉄管																																	
2.	2. 埋込管の形式	a) 基礎の分類は下記による <table border="1"><tr><th colspan="2">基礎の分類</th></tr><tr><th>記号</th><th>形 状</th></tr><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></table> [B 1] 		基礎の分類		記号	形 状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																			
基礎の分類																																						
記号	形 状																																					
B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎																																					
B 2	無筋コンクリート部分等の基礎																																					
B 3	防水層部分の立ち上り基礎																																					
B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																					
3.	3. 発生材の処理	工事特記仕様書による。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
4.	4. 符 号	各設備に用いる符号は下記とする。 (例) AM・S → 通し番号 → 貫通孔の形状の符号 S・・・貫通孔 P・・・埋込管 B・・・基礎 → 各設備の符号 C・・・土木 AM・・・建築機械設備 AE・・・建築電気設備 PM・・・プラント機械設備 PE・・・プラント電気設備						項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																											
5.	5. 開 口 補 強	a) 開口補強方法については、標準仕様書別図各部配筋による。 1) 壁開口補強は、4. 2による。 ・ A 形 ※B 形 但し、耐震壁は図示による。 2) 床版開口部補強は、5. 3による。 3) 梁貫通孔の補強は特記による。特記がなければ、7. 1により、配筋種別は特記による。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
6.	6. 工 法	a) 貫通孔、埋込管は、寸法・位置に充分注意して堅固に取り付ける b) 埋込管を水槽・外壁に取付ける場合は、漏水のないように、充分考慮し施工する。						項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																											
7.	7. 特 記 事 項	a) ◎ 印のついたものを適用する。○ 印のない場合は※印のあるものを適用する。又、○ 印と ⊗ 印のある場合は共に適用する。		項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項																															
貫 通 孔	1.	1. 材料、材質	a) 貫通孔に用いる材料は下記による。 <table border="1"><tr><td>記号</td><td>S 1</td><td>S 2</td><td>S 3</td><td>S 4</td><td>S 5</td><td>S 6</td></tr><tr><td>材料</td><td>鋼管</td><td>硬質塩ビ管</td><td>溶融亜鉛めっき鋼板</td><td>つば付鋼板</td><td>紙チューブ</td><td>木枠</td></tr></table>					記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6	材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠	4.	1. 分 類	a) 基礎の分類は下記による <table border="1"><tr><th colspan="2">基礎の分類</th></tr><tr><th>記号</th><th>形 状</th></tr><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></table> 		基礎の分類		記号	形 状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合	
	記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6																															
材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠																																
基礎の分類																																						
記号	形 状																																					
B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎																																					
B 2	無筋コンクリート部分等の基礎																																					
B 3	防水層部分の立ち上り基礎																																					
B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																					

緩速ろ過池貫通孔・埋込管及び機器基礎図 S=1/50



下部平面図

起 工			
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 緩速ろ過池貫通孔・埋込管及び機器基礎図		
縮 尺	A1：1/50 A3：1/100	番 号	12
長 崎 県 西 海 市			

構造細目共通図（土木構造物） ＜令和4年版＞ ※本図面は「（一社）全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。」 「使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。」 「枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。」				
1 特記事項				
1. 1 適用範囲				
(1) 本構造細目共通図は、水道施設における土木構造物に適用する。 (2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。				
1) コンクリート標準示方書・施工編 2) コンクリート標準示方書・設計編	土木学会 土木学会 (2017年版) (2017年版)			
(3) 項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と⊗印のある場合は、共に適用する。				
1. 2 鉄筋の仕様及び継手				
鉄筋の種類及び継手は1. 1表による。				
1. 1表 鉄筋の種類及び継手				
鉄筋の種類	種別 ※SD345 ・SD390 ・SD490	径 ※D13以上 ・ 下記以外		
鉄筋の継手	重ね継手	※D19以上の柱、梁主鉄筋 ・D16以上の増設端の床・壁鉄筋 ・		
	ガス圧接	・		
	機械式継手	・図面による		
1. 3 コンクリートの仕様				
コンクリートは1. 2表による。				
1. 2表 コンクリートの仕様				
分類	コンクリート種別	設計基準強度(N/mm ²)	スラブ(cm)	セメントの種類
鉄筋コンクリート	※普通コンクリート ・	※24 ・30 ・	※12 ・	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・
無筋コンクリート	※普通コンクリート ・	※18 ・	※8 ・	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント ・
注1：無筋コンクリートには均しコンクリートを含む。				
1. 4 砕石基礎工及び均しコンクリート工				
砕石基礎工及び均しコンクリートは1. 3表による。				
1. 3表 砕石基礎工及び均しコンクリート工の仕様				
種別		厚さ(mm)		
砂利または砕石		※200 ・		
均しコンクリート		※100		

2 共通事項				
2. 1 用語の定義				
本構造細目共通図中で使用する用語の定義は、2. 1表のとおりとする。				
2. 1表 用語の定義				
用語	説明			
主鉄筋	各種限界状態を満足させるために計算し、配置される鉄筋			
配力鉄筋	応力を分散させる目的で、通常、主鉄筋に対して直角（スラブ、壁部材の場合）に配置される鉄筋			
せん断補強鉄筋	せん断力に抵抗するように配置される主鉄筋を拘束する鉄筋			
幅止め鉄筋	はりの水平用心鉄筋、スラブ、壁の主鉄筋 あるいは配力鉄筋の厚み方向の間隔を確保するための鉄筋			
2. 2 一般注意事項				
設計図は、監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。				
3 鉄筋の折曲げ加工				
鉄筋の折曲げ加工は、3. 1表及び3. 2表を標準とする。 (1) Dは、折曲げ内法直径を示す。 (2) dは、鉄筋直径（呼び名）を示す。				
3. 1表 鉄筋曲げ加工（1）				
位置	曲げ角度	折曲げ図及び折曲げ後の余長	曲げ内法直径	使用箇所
末端部	180°		5d以上	定着末端部
	135°		5d以上	スターラップ、 帯鉄筋、 フープ筋 等
	90°		5d以上	
	90° 135°		5d以上	
	90°		5d以上	壁 幅止め鉄筋
		床版 底版		
中間部	90°		5d以上	あばら筋、帯筋 スパイラル筋
	θ<90°		10d以上	折曲げ鉄筋
3. 2表 鉄筋曲げ加工（2）				
位置	曲げ角度	折曲げ図	曲げ内法直径	使用箇所
最上階	90°		20d以上	ラーメン隅角部
一般階	90°		5d以上	

4 鉄筋のかぶり及び間隔					
4. 1 かぶり厚さ					
かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋（幅止め筋を除く）の外面から躯体面までの距離（4. 1図）をいう。 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。					
4. 1図 鉄筋のかぶり厚さ					
4. 2 最小かぶり厚さ					
最小かぶり厚さは、4. 1表による。 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。					
4. 1表 鉄筋の最小かぶり厚さ（mm）					
※ 通常の施工の場合					
環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング	
大気中		50	50	—	
水中・土中等		50	70	70	
・ 塩害対策地域の施工の場合					
対策区分	環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
・Ⅰ	大気中		70	70	—
	水中・土中等				70
・Ⅱ、Ⅲ	大気中		50	70	—
	水中・土中等				70
1：部位により最小かぶり厚さの判断が困難な場合は、監督職員の指示を得る。 2：杭基礎の底版・フーチング下端筋のかぶり厚さは、7. 杭基礎の補強を参照する。					
（注）梁：大梁、小梁、基礎梁、片持梁をいう。					
4. 3 鉄筋相互のあき					
鉄筋相互のあき（a）は、下記（1）、（2）、（3）の最大値以上とする。 なお、柱部材を設ける場合は、構造細目共通図（複合構造物）（2）を参照すること。 (1) 粗骨材の最大寸法の 4/3 倍 (2) 最小のあき20mm (3) 異形鉄筋の直径（呼び名）					
（注）D：鉄筋の最外径 d：鉄筋直径（呼び名）					
4. 2図 鉄筋のあき					
5 鉄筋の継手及び定着					
5. 1 鉄筋の継手及び定着					
5. 1. 1 継手長及び定着長の基本					
(1) 鉄筋の重ね継手長さは5. 1表、定着の長さは、5. 2表による。 ①本表の適用は、鉄筋種類SD345、鉄筋径D13～D32とする。 ②定着長は折曲げ加工後の直線部分で確保する。 ③壁、床版、底版の主鉄筋の中心間隔が100mm未満の場合は、別途図示による。					

5. 1表 鉄筋の重ね継手長さ						
鉄筋の種類	鉄筋径	設計基準強度	S ₁ ：重ね継手長			
			鉄筋中心間隔200mm以上 フックなし	鉄筋中心間隔200mm以上 フックあり	100mm以上200mm未満 フックなし	100mm以上200mm未満 フックあり
			SD345	D16以下 D19～D22 D25以上	24以上 27未満 (N/mm ²)	40・d 45・d 50・d
5. 2表 鉄筋の定着の長さ						
鉄筋の種類	鉄筋径	設計基準強度	S ₂ ：定着長			
			フックなし	フックあり		
			SD345	D16以下 D19～D22 D25以上	24以上 27未満 (N/mm ²)	40・d 50・d 60・d

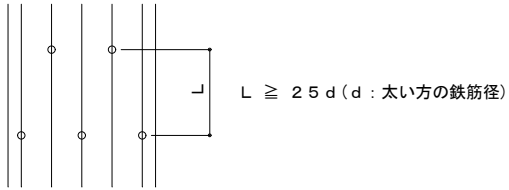
(2) 径が異なる鉄筋の継手長さは、細い鉄筋の径による。 (3) 継手は相互にずらすことを原則とする。 (4) フックのある場合の継手長及び定着長には、5. 1図に示すようにフック部分Lを含まない。				
5. 1図 フックのある場合の定着及び継手要領				
5. 1. 2 継手の特記事項				
(1) 継手は極力応力の小さい位置に設ける。 (2) 異なる径の鉄筋をガス圧接する場合、鉄筋径の差が5mmを超える圧接をしてはならない。				

5. 2 隣り合う継手の位置				
5. 2. 1 鉄筋の重ね継手				
(1) 同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。 (2) ずらす距離（L）は、太い方の鉄筋径の2.5倍以上とする。 (3) 前記（1）を確保できない場合は、監督職員の承諾を得て、ガス圧接継手又は機械式継手工法を採用することができる。 (4) 継手部の鉄筋のあきは、粗骨材の最大寸法以上とする。				
※破線部は、同一平面にある鉄筋の上端と下端とで重ね継手位置を交互にすること、並びに同一断面にある鉄筋では、奥行き方向に重ね継手位置を交互とすることをそれぞれ示す。				
5. 2図 重ね継手工法				
起工				
年度	令和8年度			
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事（土木2工区）			
図面名称	西海中部浄水場 繰達ろ過池 構造細目共通図（土木構造物）（1）			
縮尺	A1：－	A3：－	番号	13
長崎県西海市				

5. 2. 2 鉄筋のガス圧接および機械式継手

鉄筋のガス圧接継手及び機械式継手は土木学会「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)による。機械式継手は、ねじふし鉄筋継手工法とする。また、ねじふし鉄筋継手工法以外の機械式継手を採用する場合は、監督職員の承諾を得ること。

- (1) 同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。
(2) ガス圧接の場合のずらす距離(L)は、太い方の鉄筋径の2.5倍以上とする。
(3) 機械式継手のずらす距離(L)は、太い方の鉄筋径の2.5倍以上とする。
(4) 機械式継手をイモ継ぎ部に使用する場合は、継手性能はS A級かつ継手信頼度をI種とする。



5. 3 図 ガス圧接継手工法及び機械式継手工法

6 配筋要領

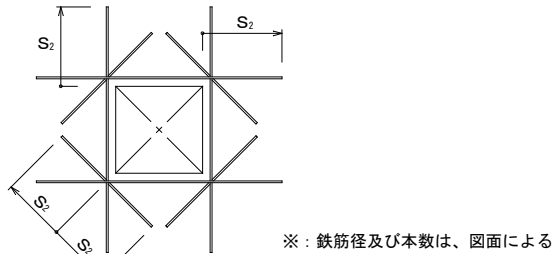
6. 1 壁

6. 1. 1 一般事項

- (1) 壁の鉄筋の継手及び定着は、5. 1 項及び5. 2 項に基づくものとする。
(2) 幅止め鉄筋の鉄筋径及び間隔は、図面による。

6. 1. 2 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、図面による。補強鉄筋の長さ及び位置は、6. 1 図を標準とする。

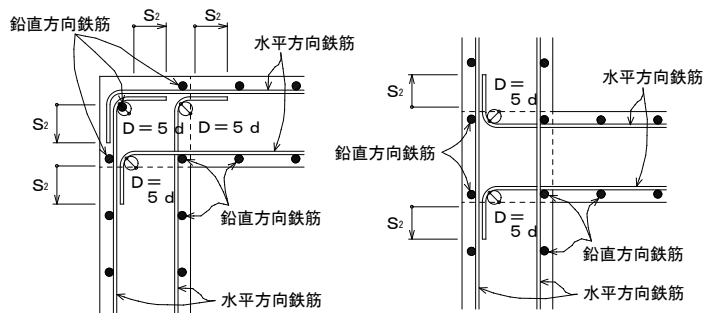


6. 1 図 壁開口部の補強要領

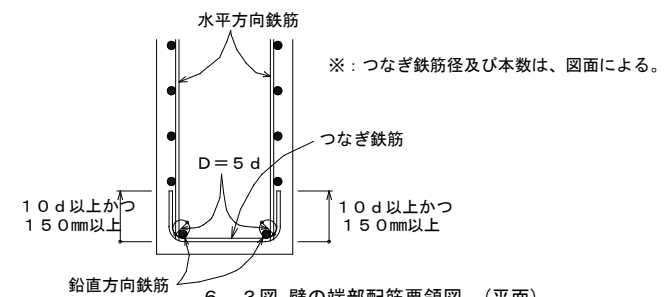
- (2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強鉄筋を省略することができる。

6. 1. 3 壁と壁の交差部及び端部

- (1) 壁と壁の交差部の鉄筋加工要領は、6. 2 図による。
(2) 壁の端部の鉄筋加工要領は、6. 3 図による。



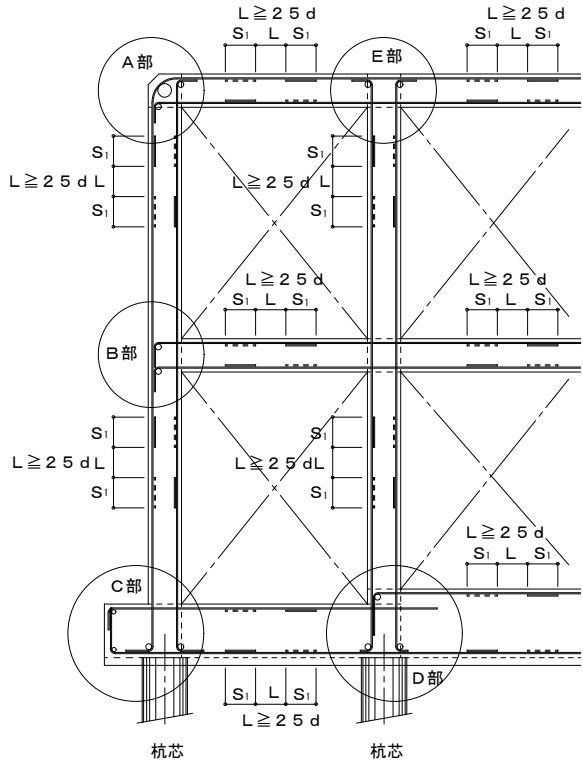
6. 2 図 壁と壁の交差部配筋要領図 (平面)



6. 3 図 壁の端部配筋要領図 (平面)

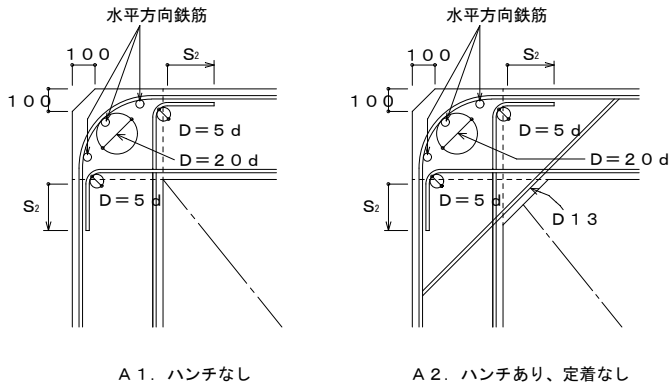
6. 1. 4 壁と床版・底版の交差部

- (1) 壁と床版の交差部は、6. 4 図及び6. 5 図による。



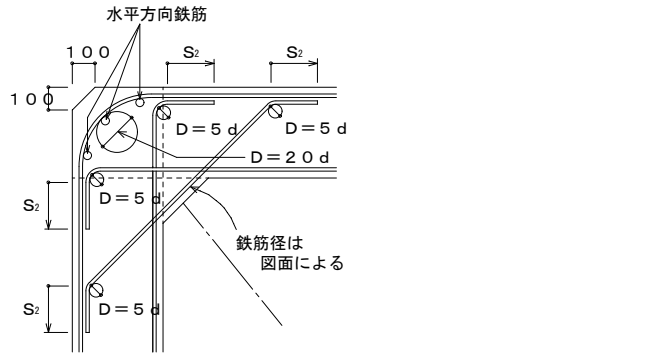
注1：重ね継手は、応力の小さい位置とする。

6. 4 図 壁と床版・底版の交差部配筋要領図 (断面)



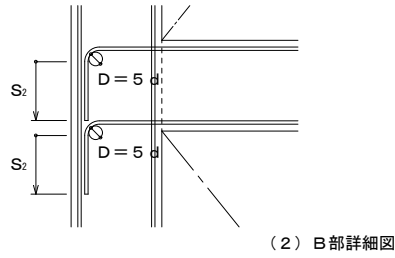
A 1. ハンチなし

A 2. ハンチあり、定着なし

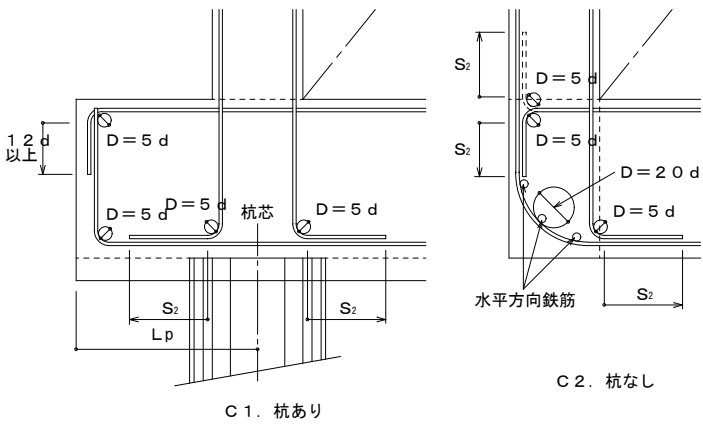


A 3. ハンチあり、定着あり

(1) A 部詳細図



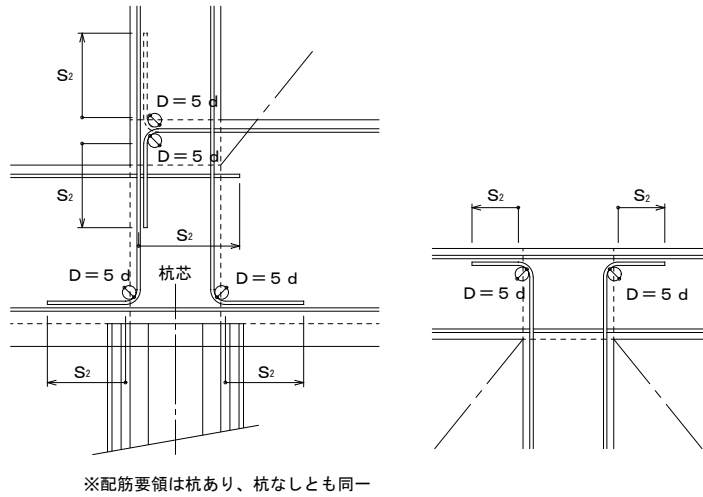
(2) B 部詳細図



C 1. 杭あり

C 2. 杭なし

(3) C 部詳細図



※配筋要領は杭あり、杭なしとも同一

(4) D 部詳細図

(5) E 部詳細図

凡例

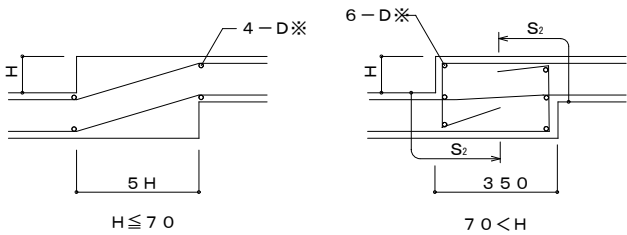
- ・D：鉄筋の曲げ内法直径
 - ・d：鉄筋直径(呼び名)
 - ・S₂S：5. 1 表のとおりであり、折曲げ加工後の直線長で確保する長さ
- 注1：A部以外においてハンチを設ける場合は、ハンチ筋についてA部に準じた配筋とする。
注2：ハンチを設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合はA2を、図面に指示がある場合はA3を適用する。
注3：C部の杭なしの場合、及びD部において、底版上端筋の曲げ定着は下方に取ることを原則とするが、部材厚等の関係で直線状にS₂定着長が確保できない場合は、上方に取ることによりものとする。
注4：L_pは、場所打杭・打ち込み杭・埋め込み杭は1. 0D(Dは杭径)以上とする。

6. 5 図 壁と床版・底版の交差部配筋詳細図 (断面)

6. 2 床

6. 2. 1 段差床版の補強

- (1) 同一床版に段差がある場合、6. 6 図の補強を行う。

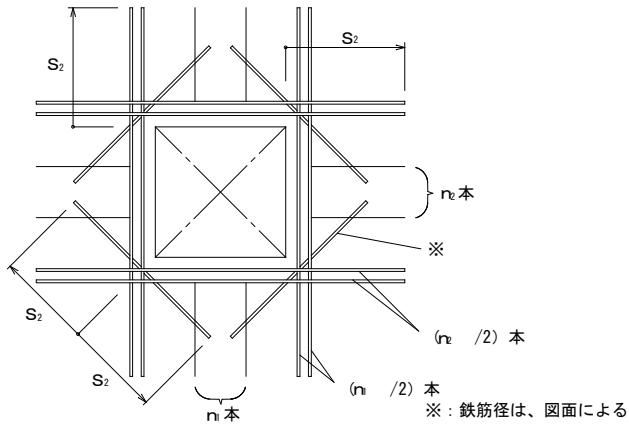


※：鉄筋径は、図面による。

6. 6 図 同一床版に段差がある場合の補強要領図 (断面)

6. 2. 2 床版開口部の補強

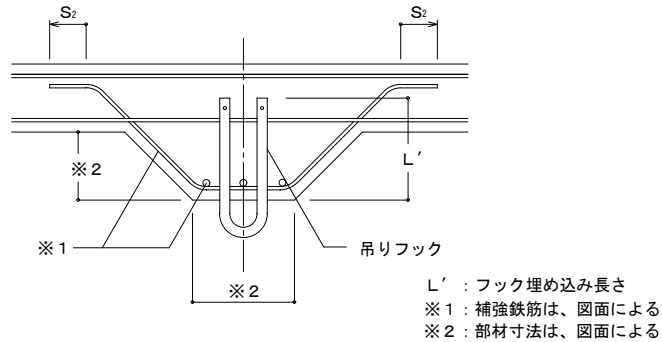
- (1) 床版開口部の補強は開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には斜め方向に主鉄筋径以上の鉄筋を上下筋の内側に配筋する。(6. 7 図)



6. 7 図 床版開口部の補強要領図 (平面)

- (2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げるにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強鉄筋を省略することができる。

6. 2. 3 吊りフックが取り付け場合の補強



6. 8 図 吊りフック取り付け部補強要領図 (断面)

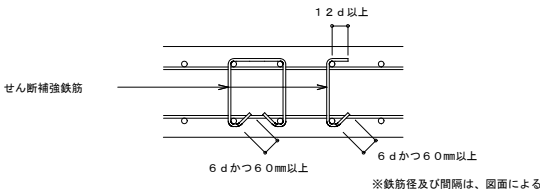
起工

年 度	令和 8 年度			
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木2工区)			
図面名称	西海中部浄水場 繰速ろ過池 構造細目共通図(土木構造物)(2)			
縮 尺	A1：-	A3：-	番 号	14
長 崎 県 西 海 市				

6. 3 せん断補強鉄筋

6. 3. 1 底版・床版

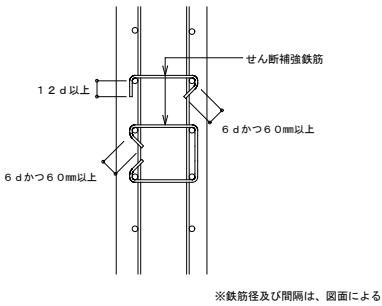
(1) 底版・床版のせん断補強要領は6. 9図及び6. 11図による。



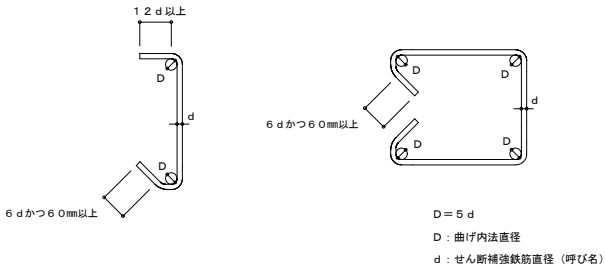
6. 9図 底版・床版せん断補強要領図(断面)

6. 3. 2 壁

(1) 壁のせん断補強要領は、6. 10図及び6. 11図による。



6. 10図 壁せん断補強要領図(断面)



6. 11図 せん断補強鉄筋加工要領図(断面)

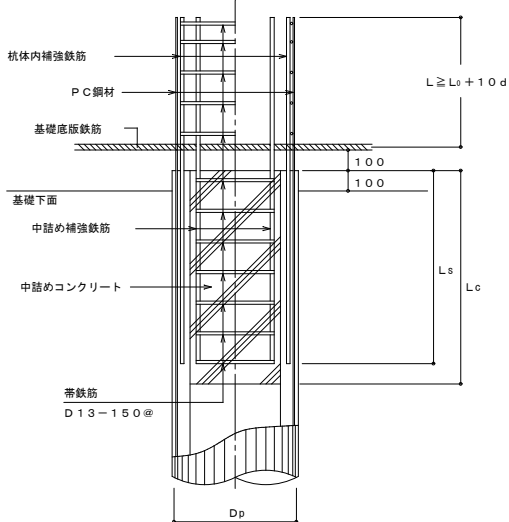
6. 4 柱及び梁

柱及び梁を設ける場合の配筋要領は、図面による。

7 杭基礎の補強

7. 1 一般事項

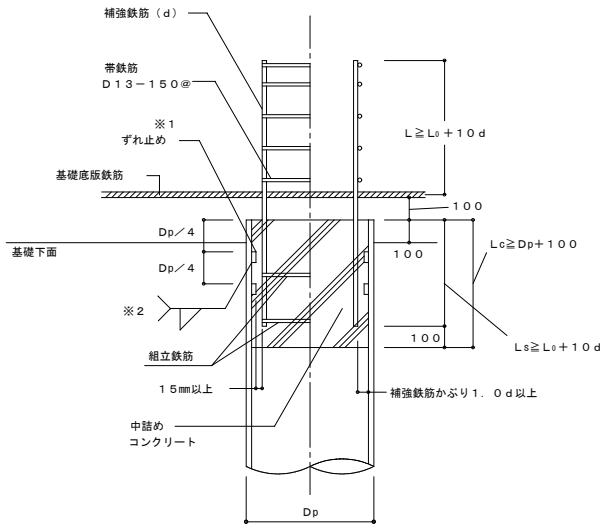
- (1) 補強鉄筋にSD390またはSD490を用いる場合、中詰めコンクリート及び補強鉄筋が定着する基礎底版コンクリートの設計規準強度を 30N/mm^2 以上とする。
- (2) 鉄筋種別、径・本数は、図面による。
- (3) 杭基礎の補強鉄筋の定着長 L_s は、SD345及びSD390では $35d$ 以上、SD490では $41d$ 以上とする。
- (4) 杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合は、7. 6図による。
- (5) 杭体内補強鉄筋は必要に応じ配置する。



杭頭処理形態	Type B	
	鉄筋	$L_s \geq 50\phi + L_o + 10d$
カットオフする場合	コンクリート	$L_c \geq 2.5Dp + 100$, かつ $50\phi + L_o + 10d +$ (かぶり100)
カットオフしない場合	鉄筋	$L_s \geq L_o + 10d$
	コンクリート	$L_c \geq 2.5Dp + 100$, かつ $L_o + 10d +$ (かぶり100)

注1. ϕ は、P.C鋼材径とする。

7. 1図 PHC杭の杭頭補強



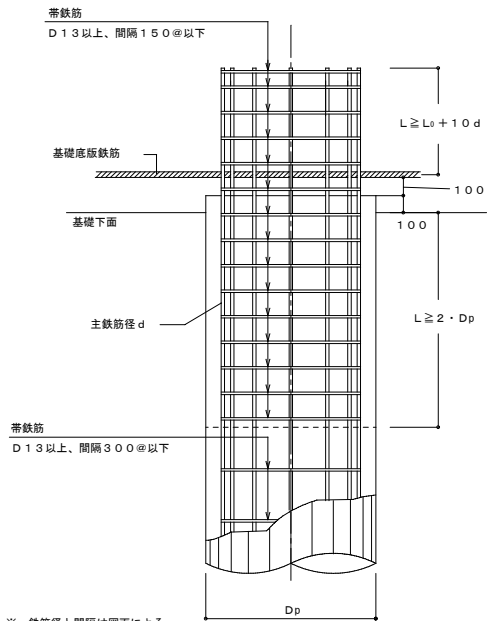
※1: ずれ止めの大きさは、7. 1表による。
※2: 全周現場すみ肉溶接

7. 2図 鋼管杭の杭頭補強

7. 1表 杭体内外ずれ止めプレートの肉厚

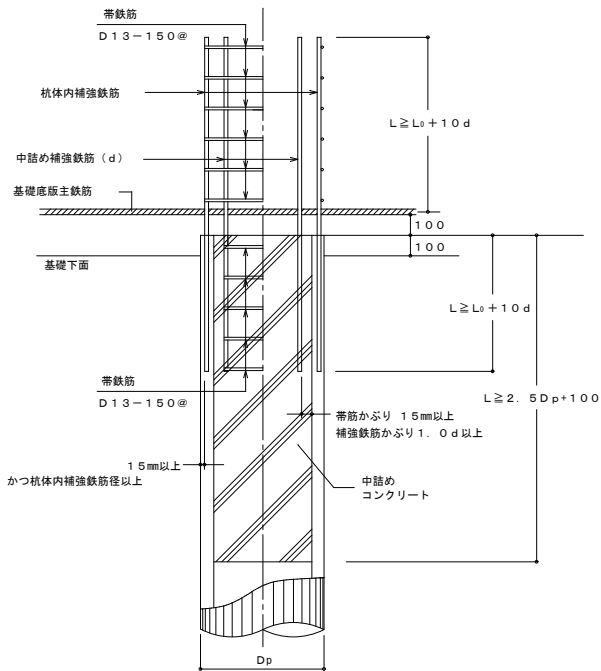
杭 径 (Dp)	ずれ止めの厚さ
$Dp < 800$	9
$800 \leq Dp < 1200$	12
$1200 \leq Dp < 1500$	16

※材質はSS400

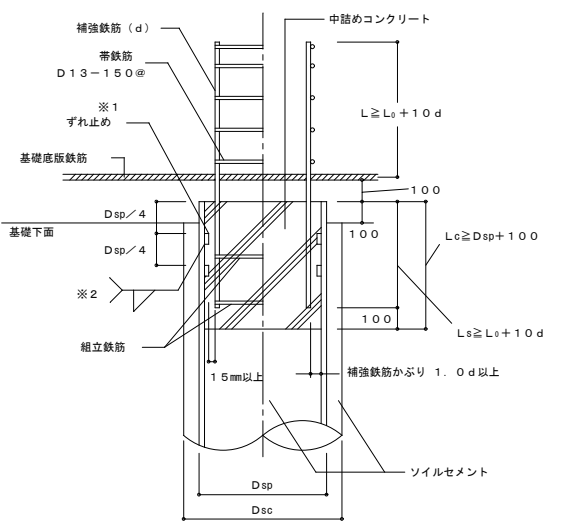


※: 鉄筋径と間隔は図面による。

7. 3図 場所打ち杭の杭頭補強

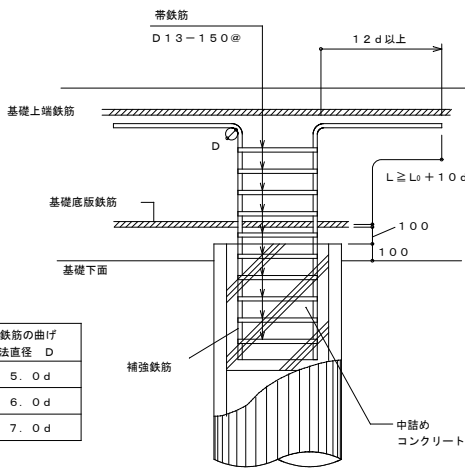


7. 4図 SC杭の杭頭補強



※1: ずれ止めの大きさは、7. 1表による。
※2: 全周現場すみ肉溶接

7. 5図 鋼管ソイルセメント杭の杭頭補強

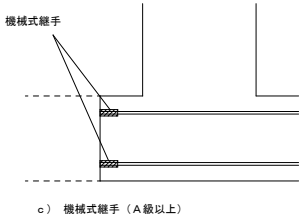
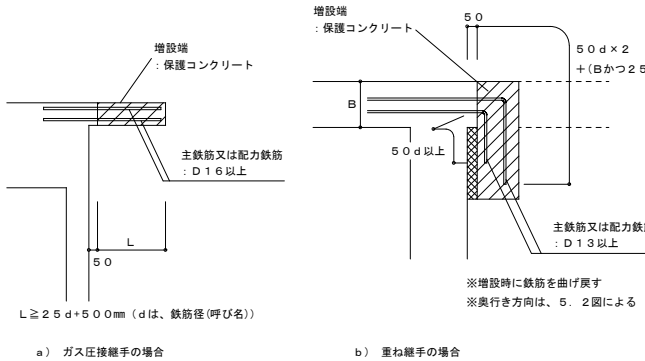


7. 6図 杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合の杭頭補強

8 増設予定端

8. 1 増設予定端の配筋

- (1) 増設端鉄筋の継手工法は、D16以上をガス圧接、D13を重ね継手とすることを原則とし、8. 1図のa)、b)による。部材寸法及び鉄筋の径と間隔は図面による。
- (2) 増設端の鉄筋を保護するコンクリート強度は 18N/mm^2 とする。
- (3) D13以上の鉄筋について機械式継手を用いる場合は、8. 1図のc)による。機械式継手の仕様は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)によるものとし、継手部の詳細及び継手単体に必要な特性を図面に示す。



※鉄筋径は図面による。
※機械式継手は、D13以上を対象とする。
※機械式継手をイモ継ぎに使用する場合は、構造計算書等により当該箇所に塑性ヒンジが発生しないことを確認する必要がある。施工上やむを得ず機械式継手によるイモ継ぎとなる場合は、継手部が所要の耐震性を有していることを、適切な実験や解析等で照査しなければならない。詳細は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)」による。

8. 1図 増設予定端配筋要領図(断面)

年 度	令和 8 年度			
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木2工区)			
図面名称	西海中部浄水場 繰送ろ過池 構造細目共通図(土木構造物)(3)			
縮 尺	A1: -	A3: -	番号	15
長 崎 県 西 海 市				

9 耐震補強

9. 1 適用範圍

- (1) 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の土木構造物の耐震補強に適用する。
- (2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1) 土木工事特記仕様書	全国上下水道コンサルタント協会	(別紙による。)
2) 土木工事共通仕様書	国土交通省**地方整備局	(令和 年版)
3) コンクリート標準示方書・施工編	土木学会	(2017年版)
4) コンクリート標準示方書・構造的性能照査編	土木学会	(2002年版)
5) 官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説	建築保全センター	(平成 8 年版)
6) 鉄筋定着・継手指針	土木学会	(2020年版)
7) 2017年改訂版 既存鉄筋コンクリート造 日本建築防災協会 建築物の耐震改修設計指針・同解説		(2017年版)
8) あと施工アンカー連続繊維補強設計・施工指針	土木交通省	(2006年版)

9. 2 鉄筋の仕様及び継手

鉄筋の種類及び継手は9. 2表による。

9. 2表 鉄筋の種類及び継手

	種 別	径
鉄筋の種類	※ S D 3 4 5	※ D 1 3 以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	※ 1) ガス圧接	・ D 1 9 以上の柱・梁主鉄筋 ・ D 1 6 以上の増設端の床・壁鉄筋 ・
	フレアー溶接	・ D 1 3 以上
	機械式継手	・ 図面による

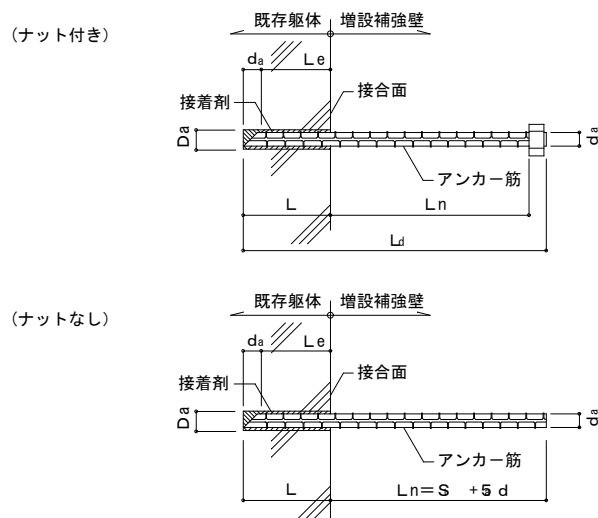
※1) 既存の鉄筋種別がSR235、295及びSD295Aの場合は、SD材との継手にガス圧接を使用してはならない。

9. 3 鉄筋の継手長及び定着長

SD345以外の鉄筋との継手長・定着長については図面による。

9. 4 あと施工アンカー（接着系）

- (1) アンカー径は、D 13 以上、D 22 以下とする。
- (2) アンカーの打設は、増設壁が接合する四周の柱、梁に行うことを原則とする。
- (3) アンカーの埋め込み・定着長さを 9. 4 表に示す。



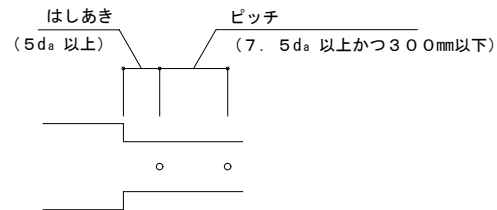
L : コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ
 L_e : アンカーの有効埋め込み長さ
 L_d : アンカー-筋の全長
 L_n : 有効定着長さ
 D_a : 既存コンクリート躯体への穿孔径
 d_a : アンカー軸部の直径、アンカー-筋の呼び名
 S_1 : 補強筋との継手長

9. 4. 1 図 あと施工アンカー埋め込み・定着図

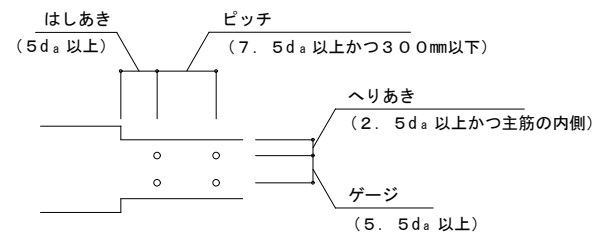
9. 4表 あと施工アンカー埋め込み・定着長さ

区 分	位 置	用 途	長 さ	備 考
有効埋め込み長 (Le)	一般部	曲げモーメント	$12 \cdot d_a$	先端形状 45° カット
		せん断力	$7 \cdot d_a$	
	開口補強部	曲げモーメント	$12 \cdot d_a$	
		せん断力	$10 \cdot d_a$	
有効定着長 (Ln)	一般部	-	$20 \cdot d_a$	ナットあり
	開口補強部	-	$S_1 + 5 \cdot d_a$	ナットなし

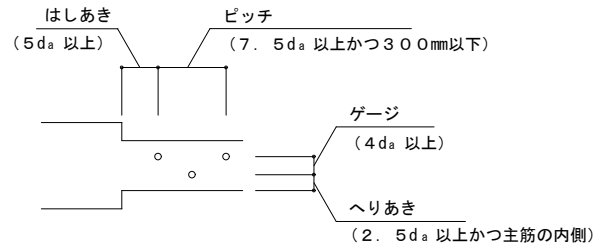
(あと施工アンカーの位置と間隔)



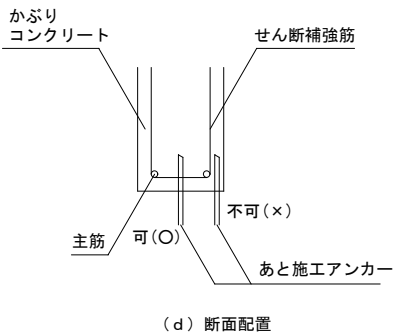
(a) シングル配置



(b) ダブル配置



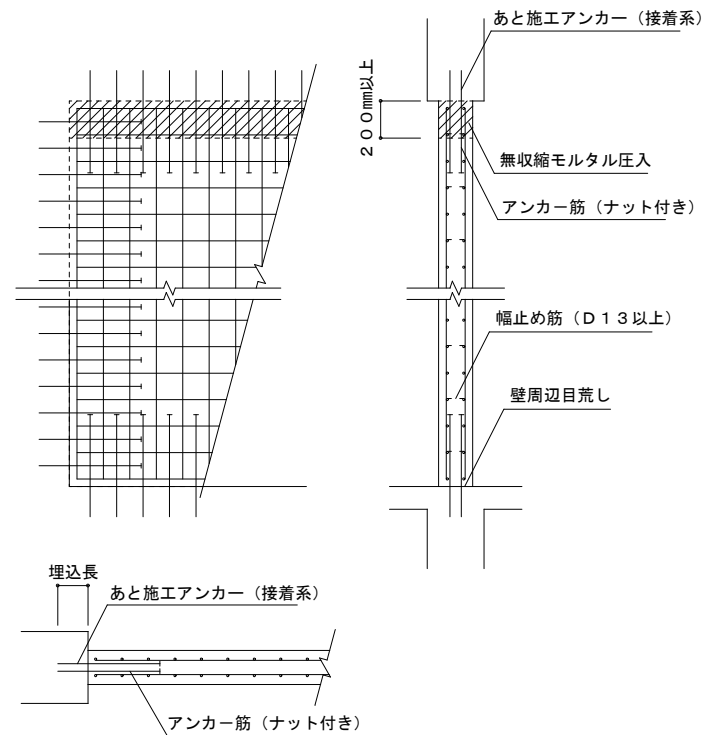
(c) 千鳥状配置



9. 4. 2図 あと施工アンカー配置図

9. 5 新設補強壁

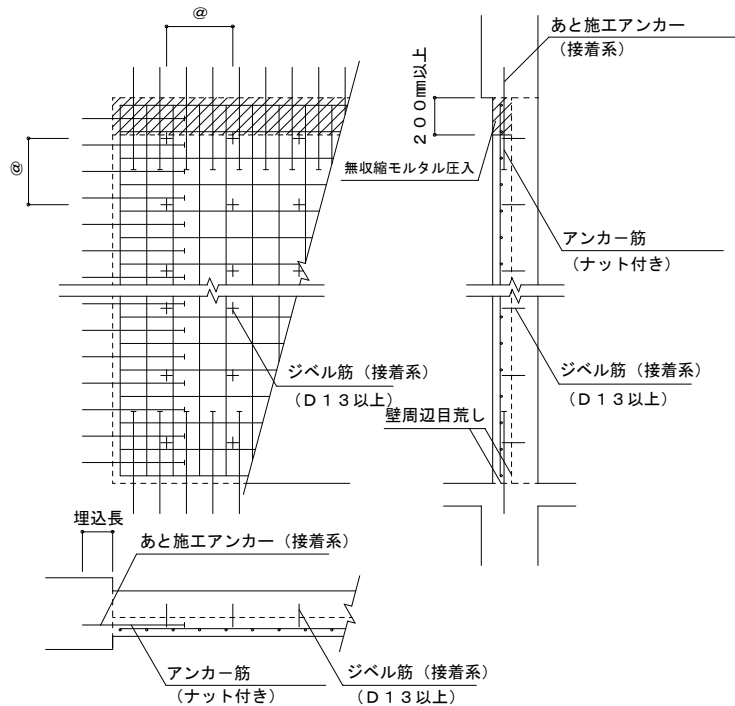
- (1) 新設補強壁の配筋は 9. 5 図を標準とする。
- (2) 新設部と接する既存の壁面には目荒しを施す。
- (3) あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット付きとする。
- (4) 新設壁の頂部 200mm 以上は、無収縮モルタル圧入とする。



9. 5 図 新設補強壁要領図

9. 6 増打ち補強壁ほか

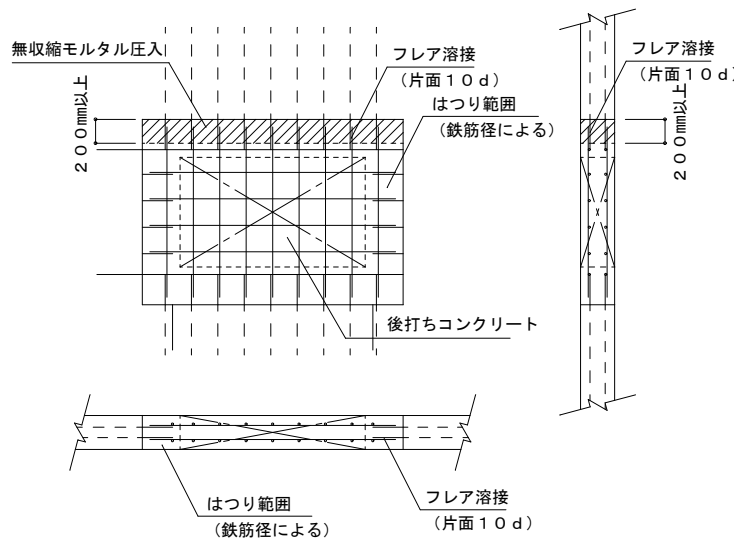
- (1) 増打ち補強壁の配筋は図 9.6 を標準とする。
- (2) あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット付きとする。
- (3) 増打ち部と接する既存の壁面を目荒しするほか、新旧の壁面にジベル筋を設けるものとし、配置間隔は図面による。
- (4) 増打ち壁の頂部 200mm 以上は、無収縮モルタル圧入とする。
- (5) 梁下端部や垂れ壁下端部の施工では、コンクリートのブリーディングや沈下を考慮して、打継目为一体となるように留意する。



9. 6図 増打ち補強壁要領図

9. 7 開口閉塞

- (1) 既存壁と増設壁との接合は、開口周囲のコンクリートをはつり、鉄筋同士をフレア溶接で行う。
- (2) 閉塞部分が既存梁、柱と接する部位は全てあと施工アンカーで接合する。
- (3) 閉塞部分の頂部200mm以上は、無収縮モルタル圧入とする。

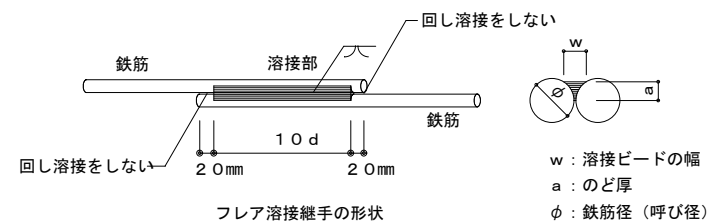


壁の鉄筋径	はつり幅
D 13	200
D 16	200
D 19	300
D 22	300
D 25	300

9. 7 図 開口閉塞要領図

9. 8 フレア溶接

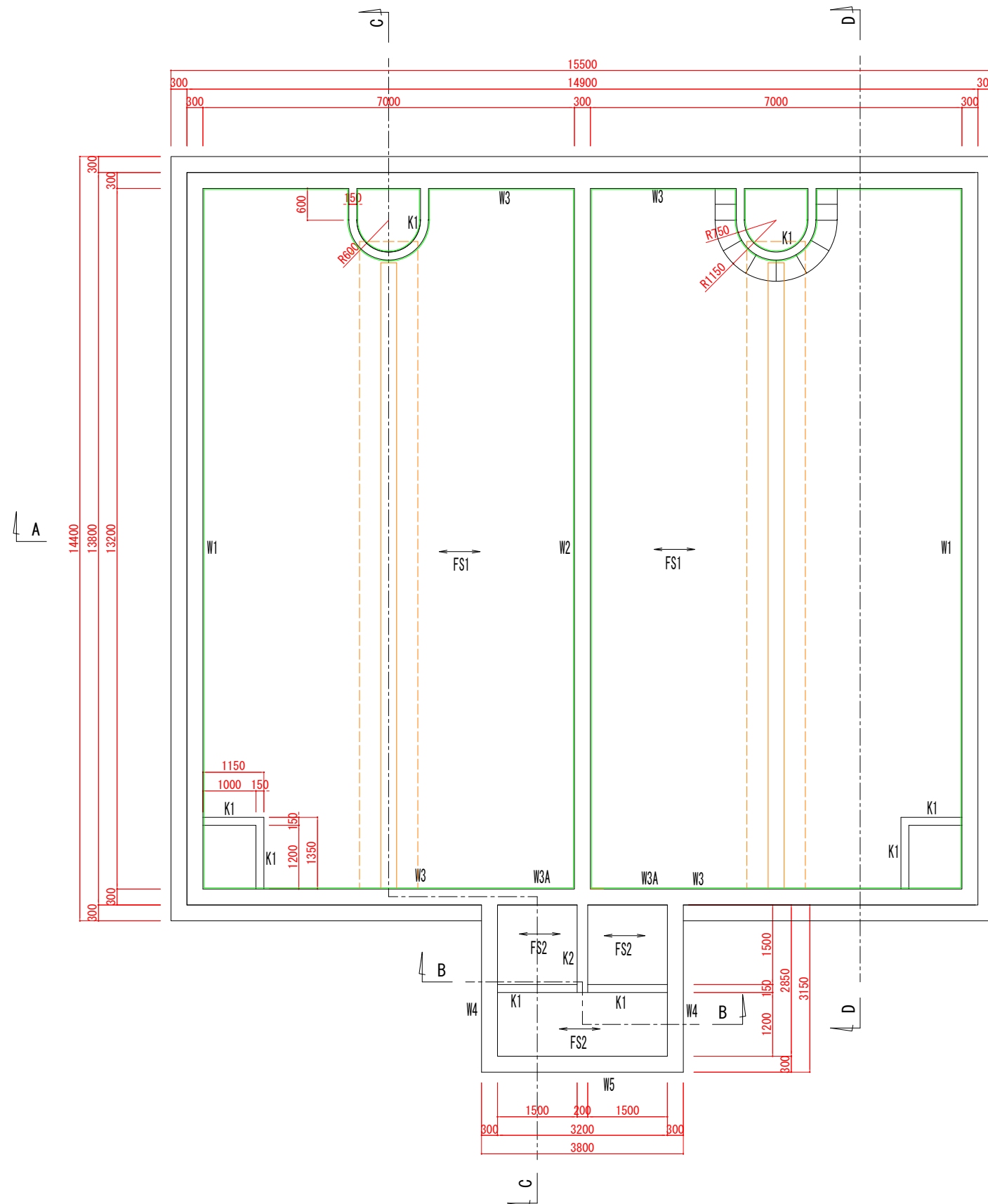
- (1) 特記なき鉄筋のフレア溶接の継手形状を9. 8図に示す。
(詳細は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)による。)
- (2) 継手長さは鉄筋径の10倍とし、回し溶接は行わない。



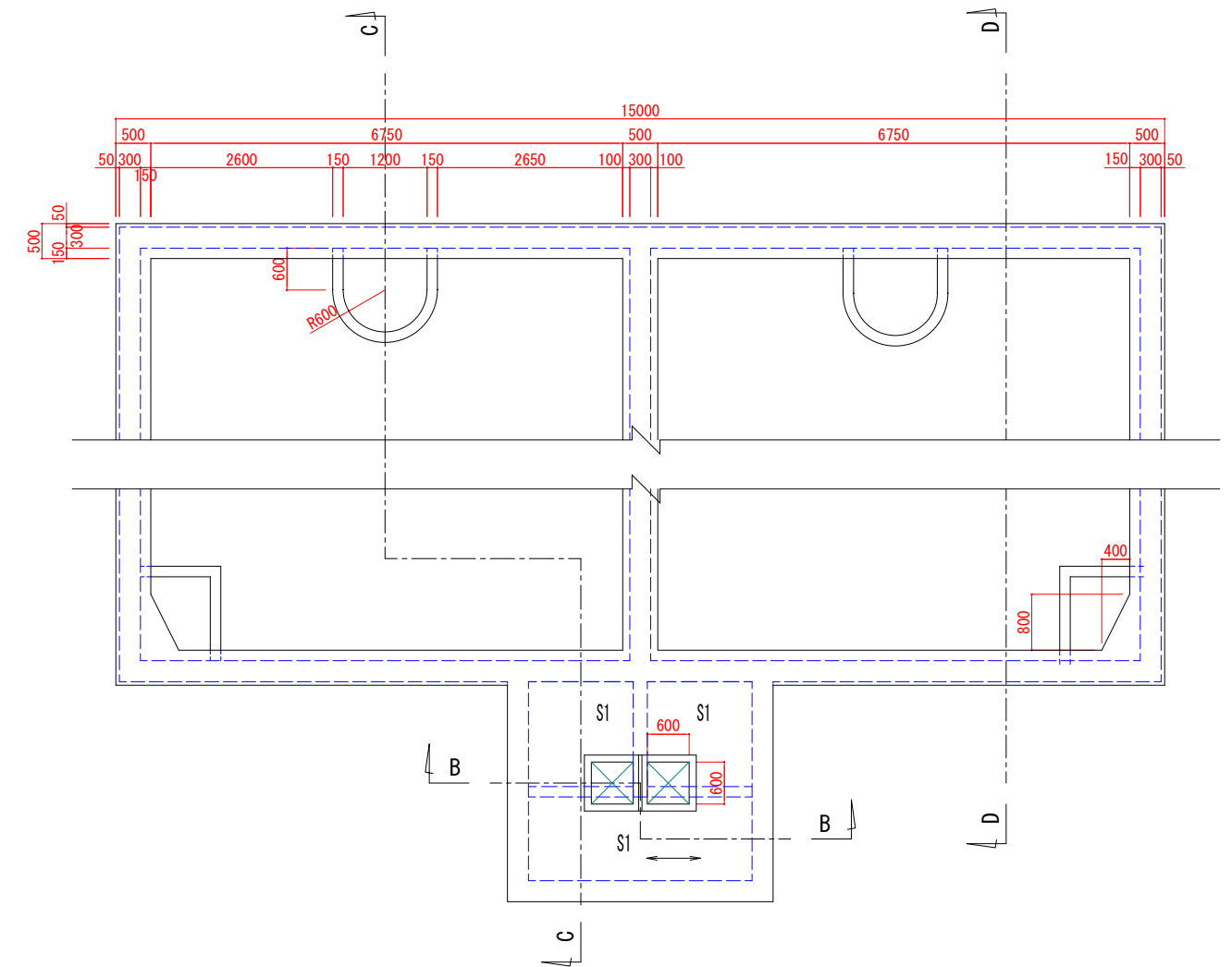
9. 8図 フレア溶接継手形状

起 工			
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木２工区）		
図面名称	西海中部浄水場 縦速ろ過池 構造細目共通図（土木構造物）（４）		
縮 尺	A1：－	A3：－	番 号
16			
長 崎 県 西 海 市			

緩速ろ過池 配筋リスト図(1)



下部平面図



上部平面図

底板												
符号	版厚 (cm)	版幅 (cm)	区分	主筋方向				計算書	配筋筋方向			
				芯被り (cm)	端部	中央	中支点部		芯被り (cm)	端部	中央	計算書
FS1	40	100	上筋	10	D13#200	←	←	A-A	12	D13#200	←	B-B
			下筋	10	D16#200	←	←		12	D16#200	←	
			スタップ			-			-		-	
FS2	40	100	上筋	10	D13#200	←	←	D-D E-E	12	D13#200	←	C-C
			下筋	10	D13#200	←	←		12	D13#200	←	
			スタップ			-			-		-	

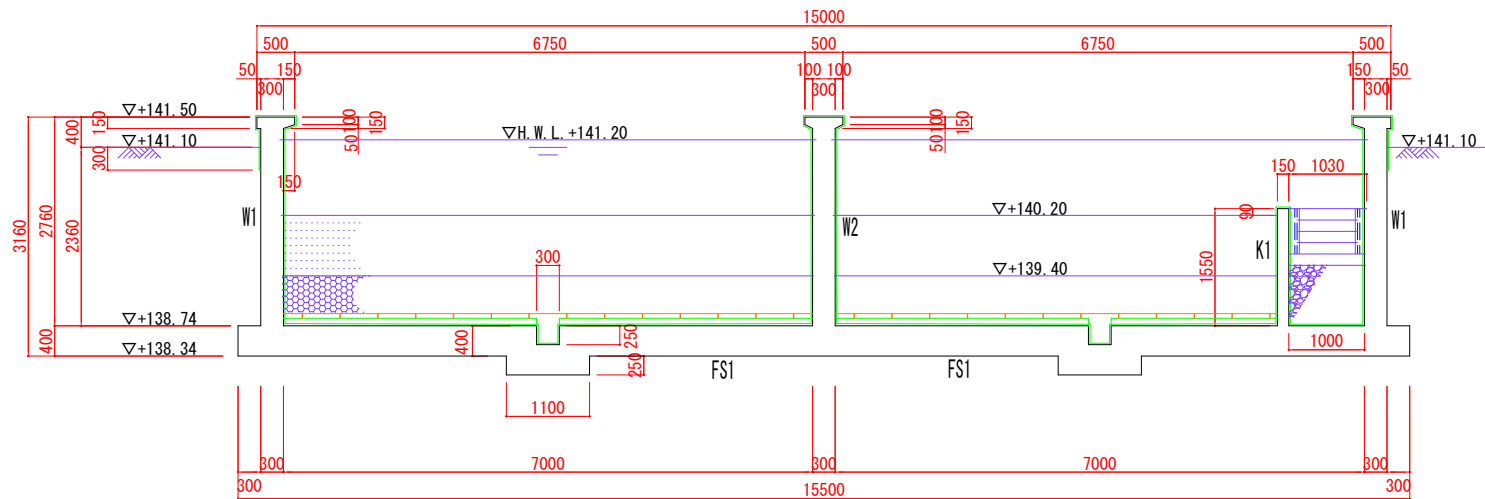
床版											
符号	版厚 (cm)	版幅 (cm)	区分	主筋方向				配筋方向			
				芯被り (cm)	端部	中央	計算書 C-C	芯被り (cm)	端部	中央	計算書 D-D E-E
S1	25	100	上筋	8	D13@200	←		10	D13@200	←	
			下筋	8	D13@200	←		10	D13@200	←	
			78=5+71	-	-	-		-	-	-	

起 工

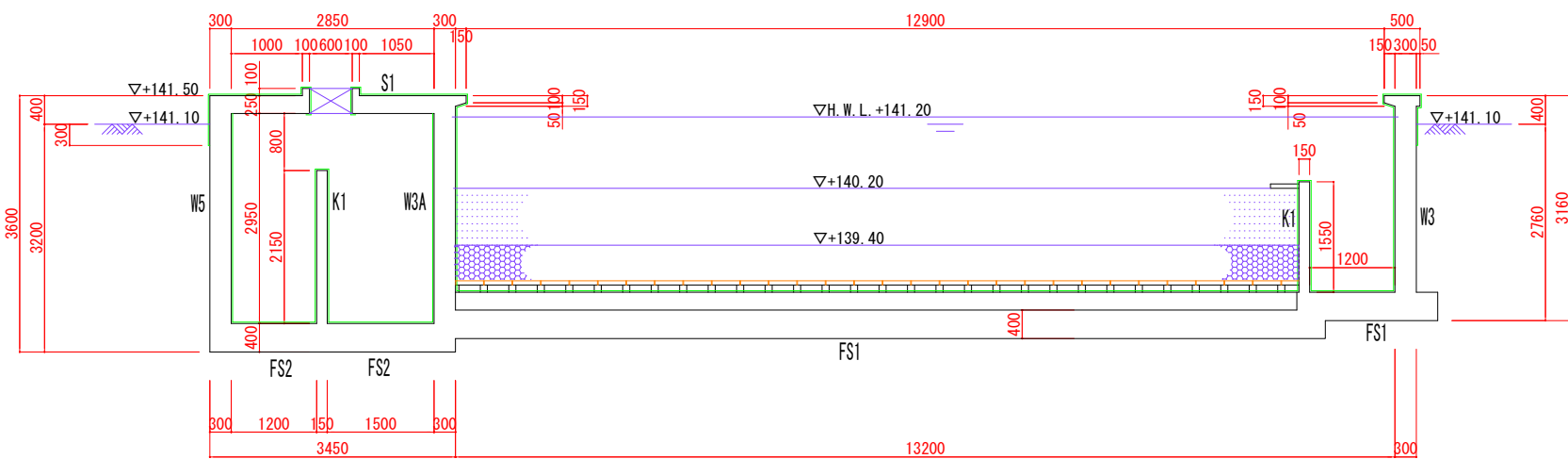
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設 再編推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 緩速ろ過池 配筋リスト図（1）		
縮 尺	A1：1/50	A3：1/100	番 号
17			
長 崎 県 西 海 市			

主筋方向を示す

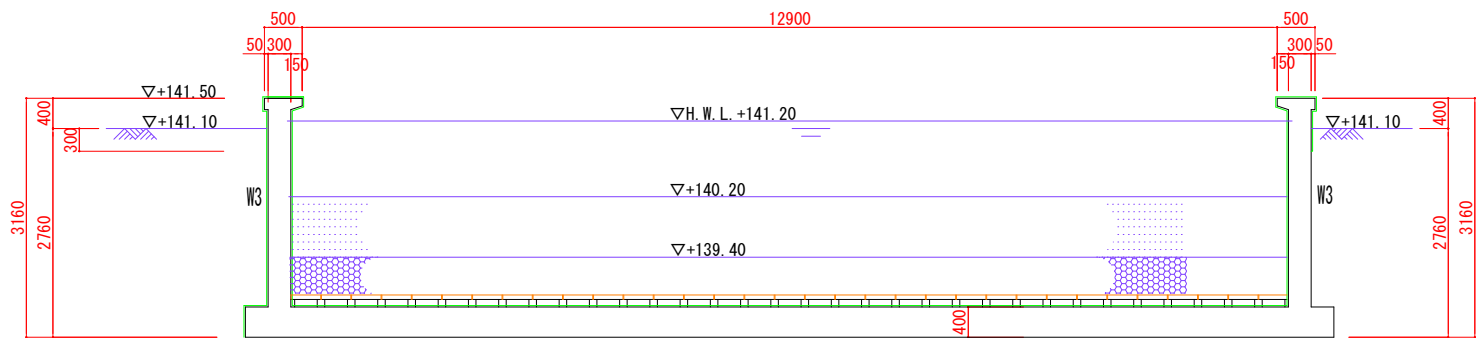
緩速ろ過池 配筋リスト図(2)



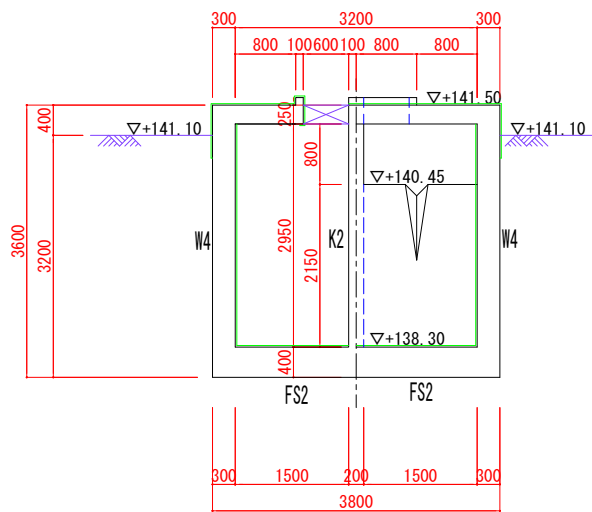
A-A平面図



C-C平面図



D-D断面図



B-B平面図

壁 符号	版厚 (cm)	版幅 (cm)	区分	鉛直方向				水平方向				
				芯被り (cm)	下部	中央	上部	計算書	芯被り (cm)	端部	中央	計算書
W1	30	100	外筋	10	D16@200	←	←	A-A	12	D13@200	←	
			内筋	10	D16@200	←	←		12	D13@200	←	
			スターラップ	-	-	-	-		-	-		
W2	30	100	縦筋	10	D13@200	←	←	A-A	12	D13@200	←	
			縦筋	10	D13@200	←	←		12	D13@200	←	
			スターラップ	-	-	-	-		-	-		
W3	30	100	外筋	10	D16@200	←	←	B-B C-C	12	D13@200	←	
			内筋	10	D16@200	←	←		12	D13@200	←	
			スターラップ	-	-	-	-		-	-		
W3A	30	100	ろ過側筋	10	D13@200	←	←	C-C	12	D13@200	←	
			調整池側筋	10	D13@200	←	←		12	D13@200	←	
			スターラップ	-	-	-	-		-	-		
W4	30	100	外筋	10	D13@200	←	←	D-D E-E	12	D13@200	←	
			内筋	10	D13@200	←	←		12	D13@200	←	
			スターラップ	-	-	-	-		-	-		
W5	30	100	外筋	10	D13@200	←	←	C-C	12	D13@200	←	
			内筋	10	D13@200	←	←		12	D13@200	←	
			スターラップ	-	-	-	-		-	-		

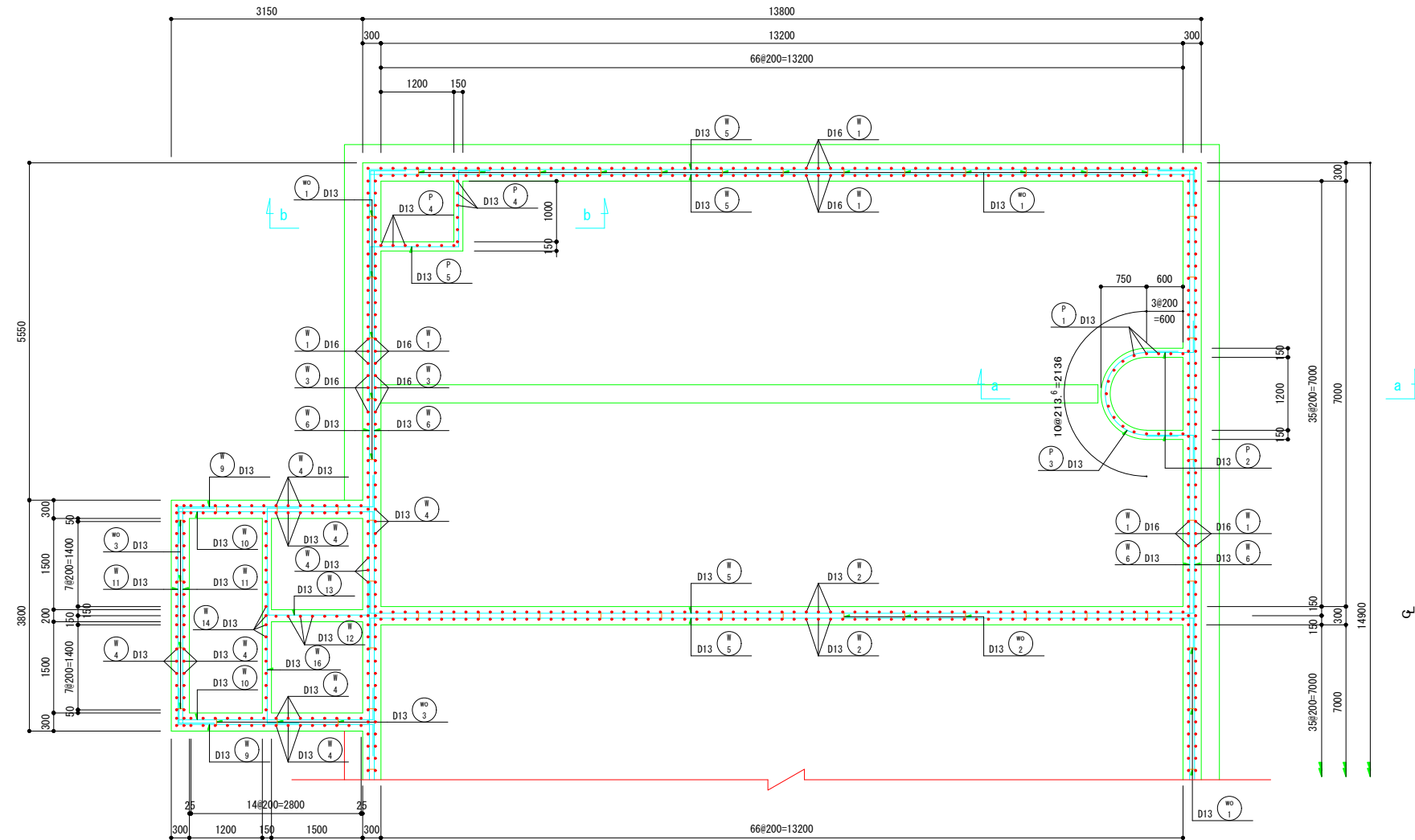
注) 外筋は土側、内筋は池側の鉄筋を示す。

壁 符号	版厚 (cm)	版幅 (cm)	区分	鉛直方向					水平方向			
				芯被り (cm)	下部	中央	上部	計算書 C-C	芯被り (cm)	端部	中央	計算書
K1	15	100	縦筋	7.5	D13@200	←	←			7.5	D13@200	←
K2	20	100	縦筋	10	D13@200	←	←	D-D	10	D13@200	←	

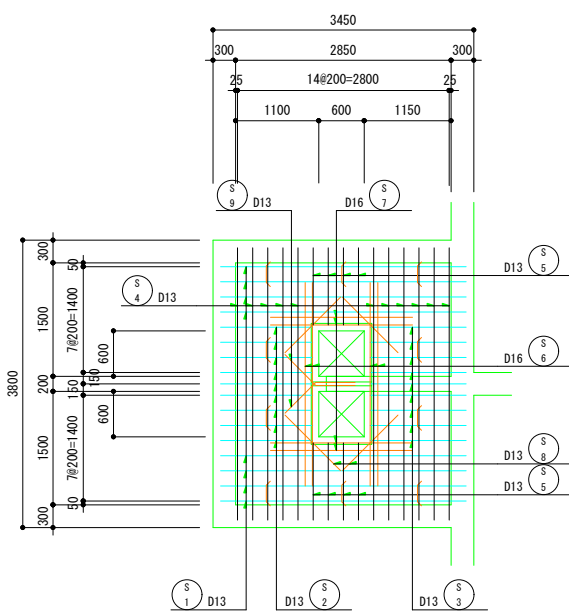
起工

年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 緩速ろ過池 配筋リスト図(2)		
縮 尺	A1 : 1/50 A3 : 1/100	番 号	18
長 崎 県 西 海 市			

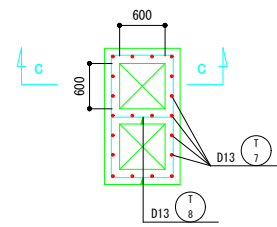
緩速ろ過池 配筋図(1)



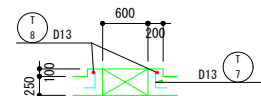
水平断面图



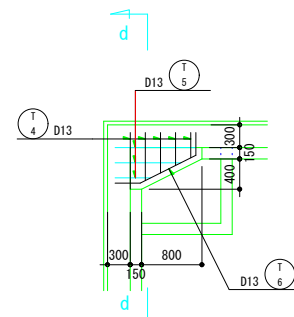
床板展開図



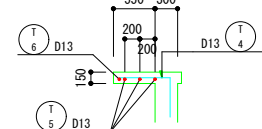
点検口取合



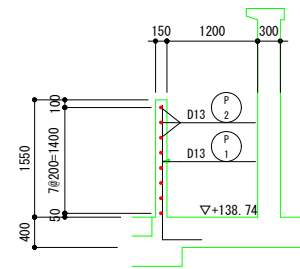
C-C 断面图



排水桧上部スラブ(2ヶ所)

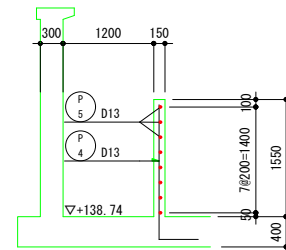


d-d 断面图



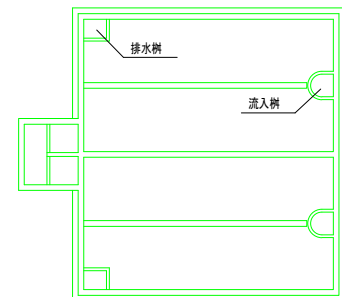
a-a 断面图

(流入柵2ヶ所)



b-b 断面图

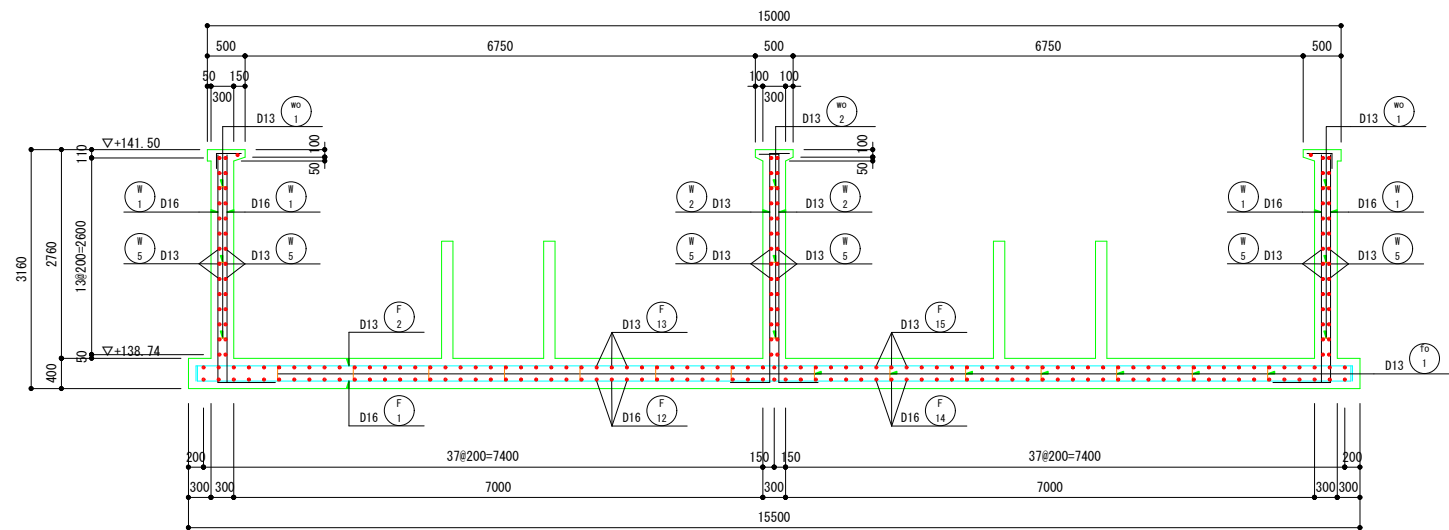
(排水柵2ヶ所)



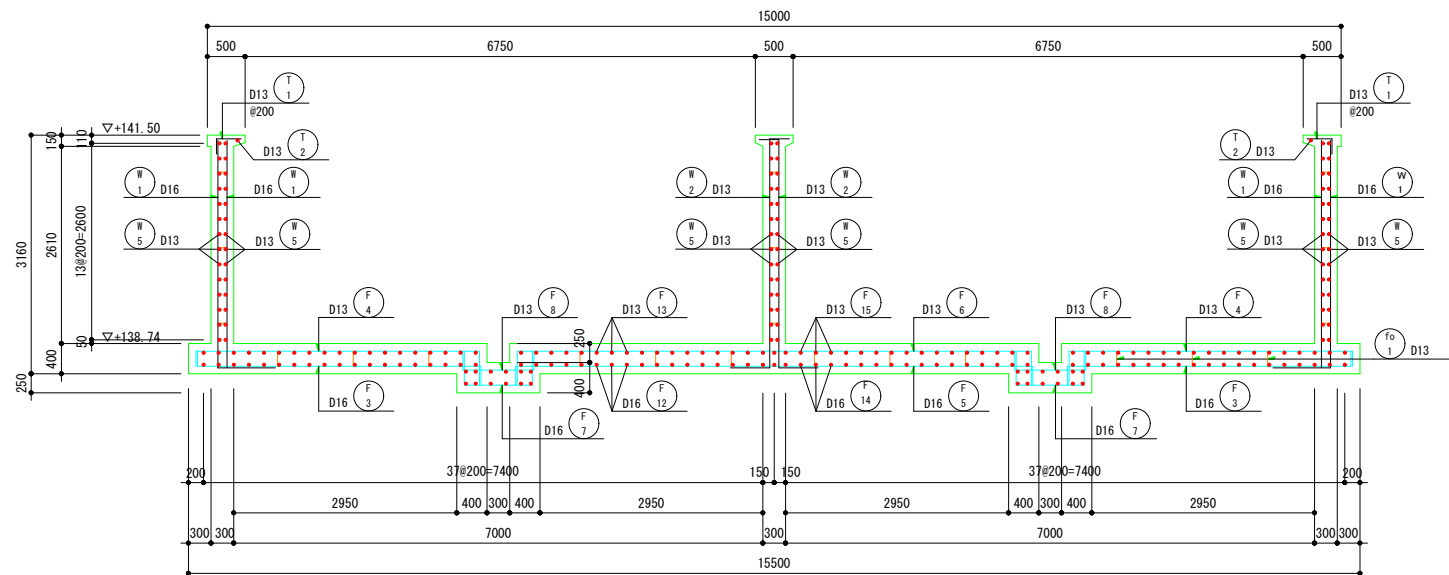
キープラン

起 工			
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 緩速ろ過池 配筋図（1）		
縮 尺	A1：1/50	A3：1/100	番 号
			19
長 崎 県 西 海 市			

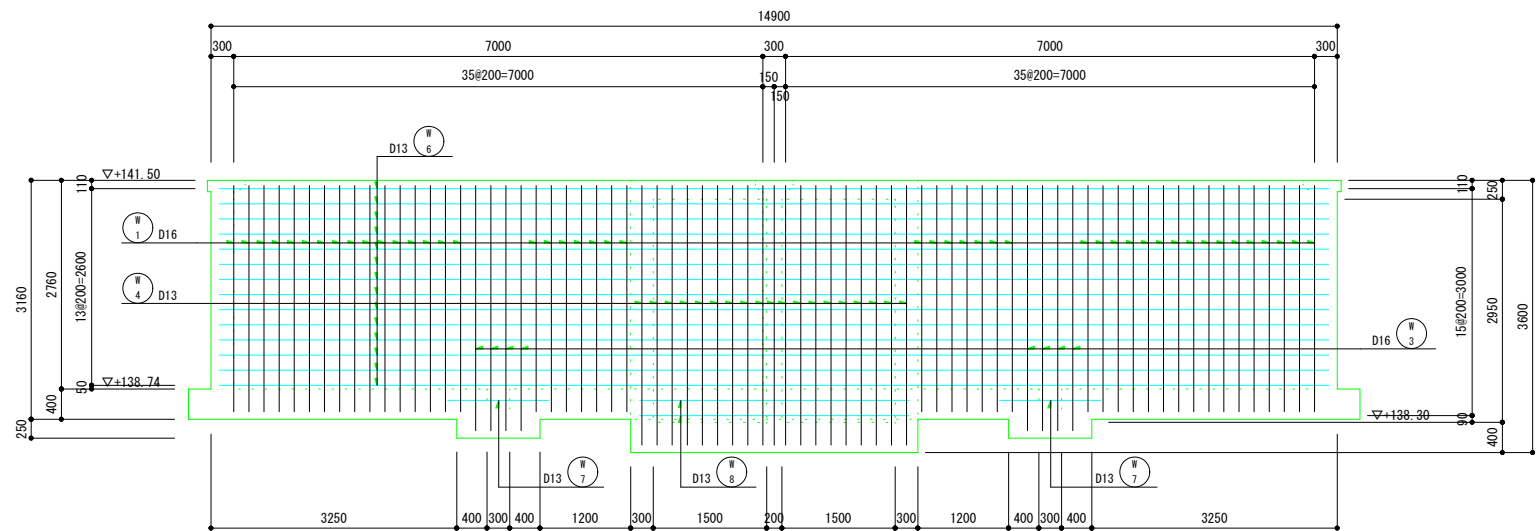
緩速ろ過池 配筋図 (2)



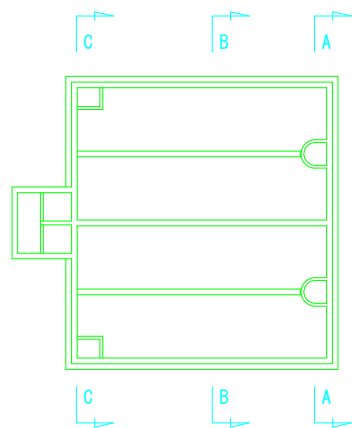
A-A 断面図



B-B 断面図



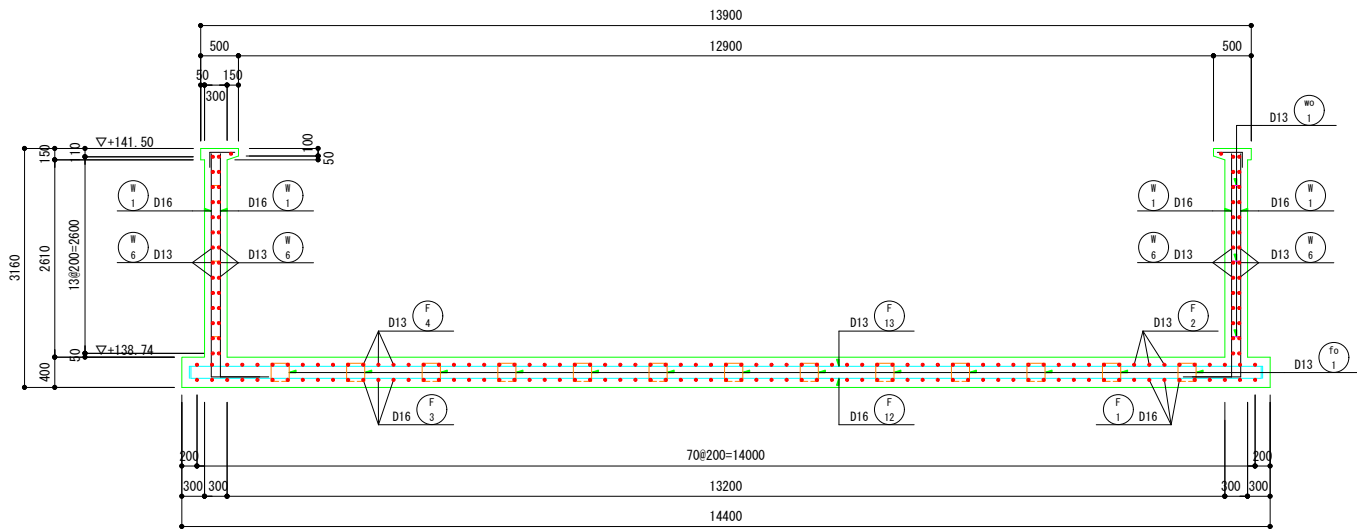
C-C 展開図



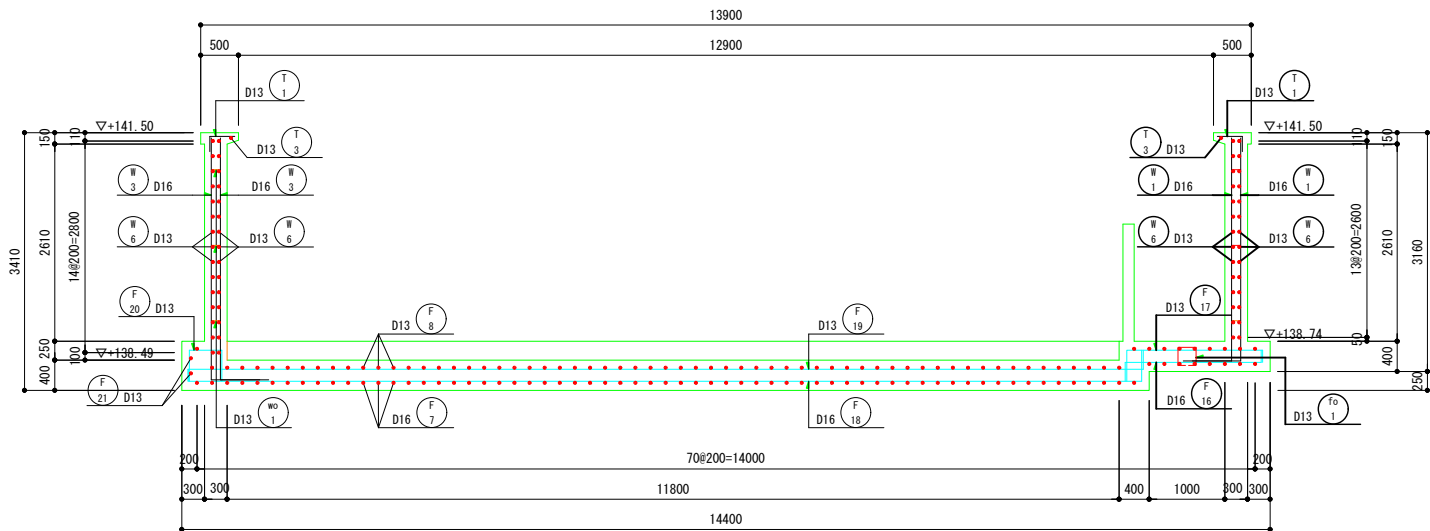
起工

年度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事 (土木 2 工区)		
図面名称	西海中部浄水場 緩速ろ過池 配筋図 (2)		
縮尺	A1 : 1/50 A3 : 1/100	番号	20
長 崎 県 西 海 市			

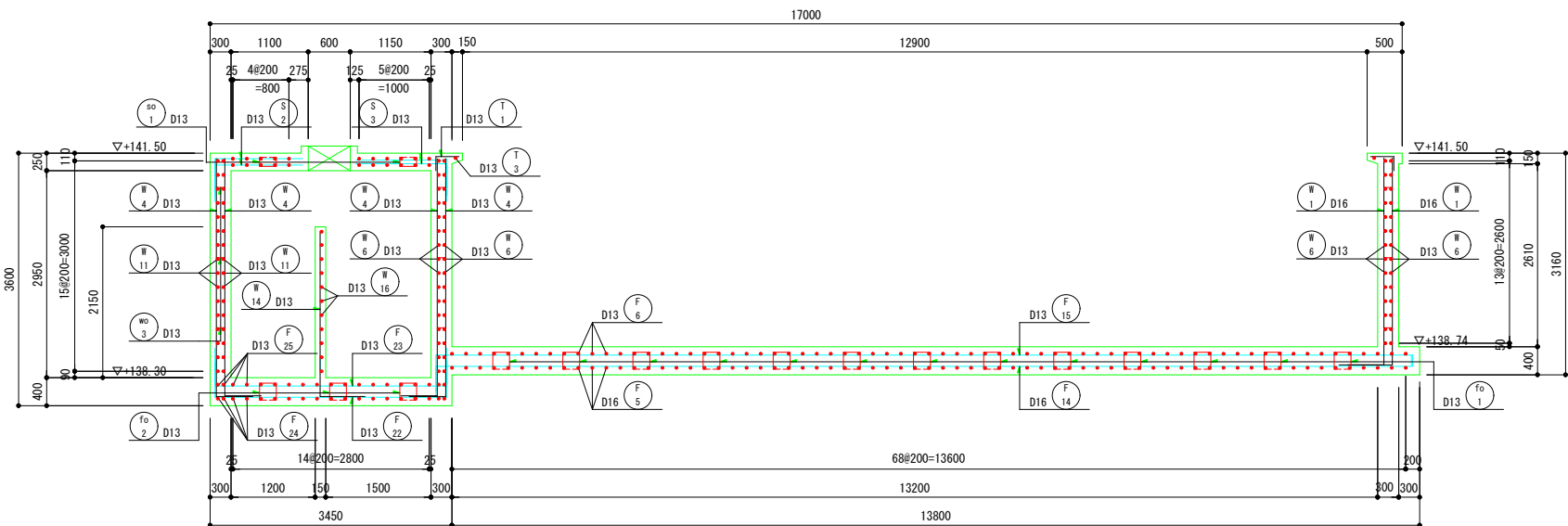
緩速ろ過池 配筋図 (3)



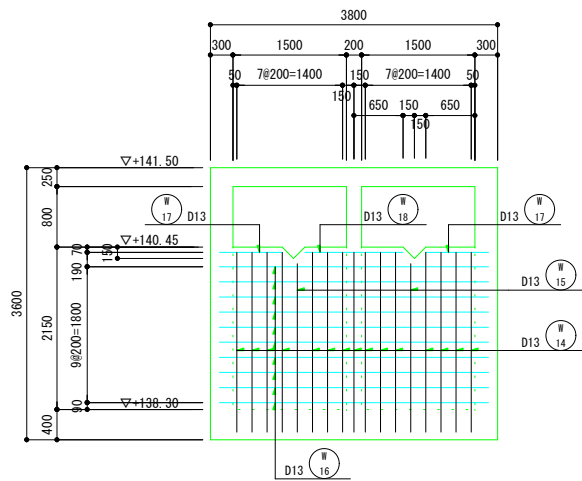
D-D 断面図



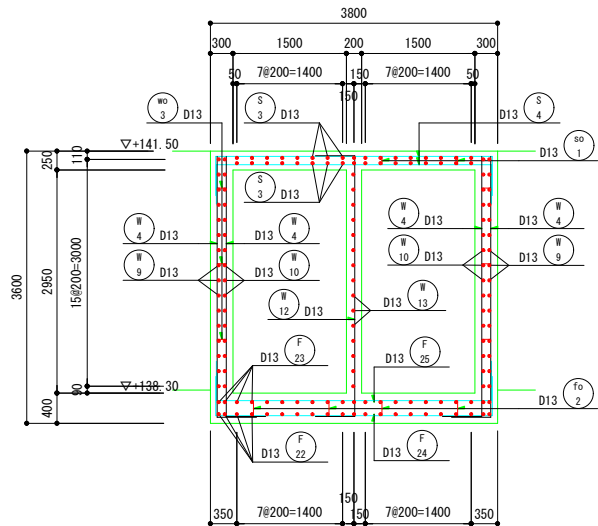
E-E 断面図



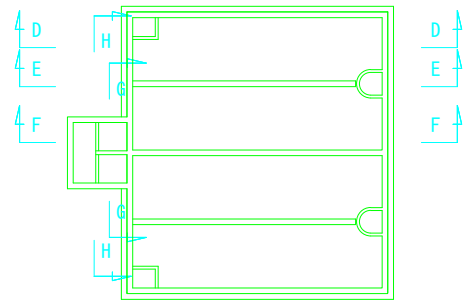
F-F 断面図



H-H 展開図



G-G 断面図

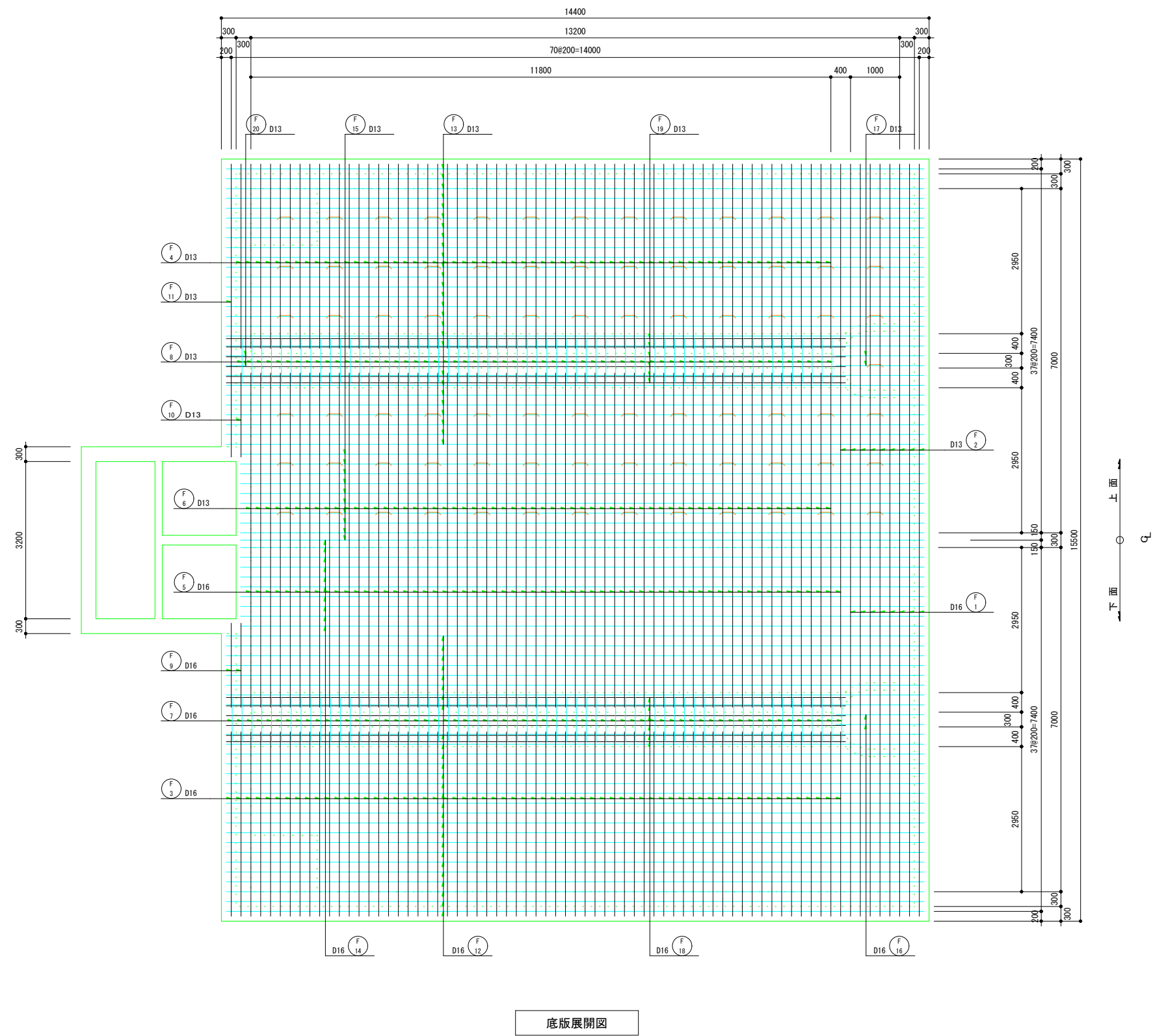


キープラン

起工

年度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木 2 工区）		
図面名称	西海中部浄水場 緩速ろ過池 配筋図 (3)		
縮 尺	A1 : 1/50 A3 : 1/100	番号	21
長 崎 県 西 海 市			

緩速ろ過池 配筋図(4)

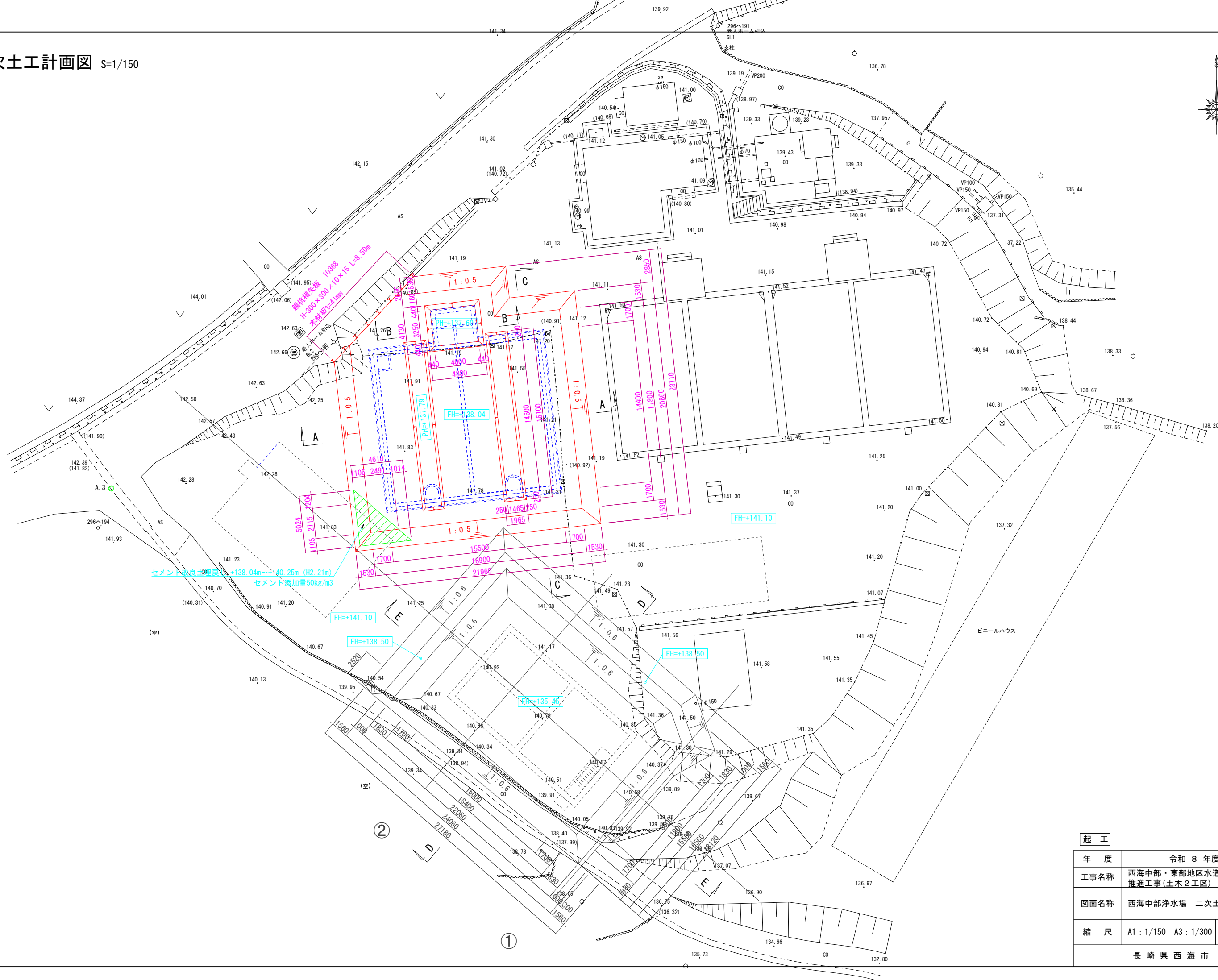


底版展開図

起工

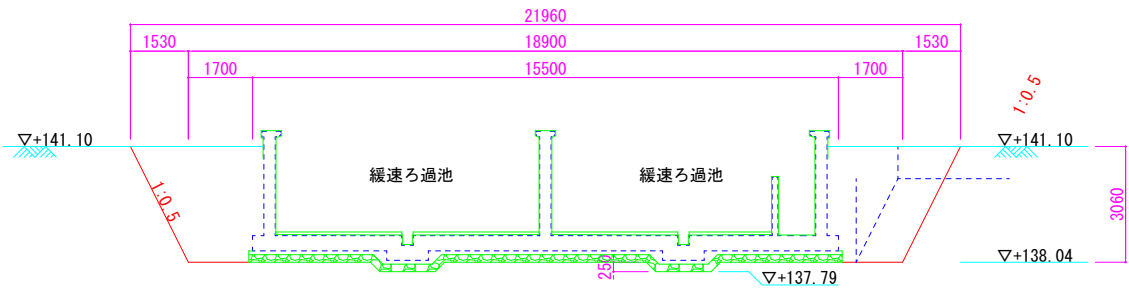
年度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木 2 工区）		
図面名称	西海中部浄水場 緩速ろ過池 配筋図（4）		
縮尺	A1 : 1/50 A3 : 1/100	番号	22
長 崎 県 西 海 市			

二次土工計画図 S=1/150

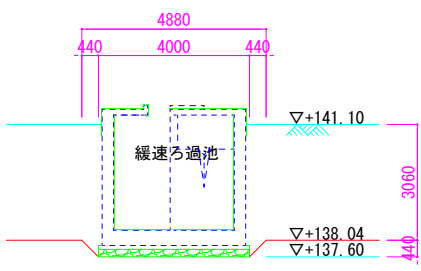


起 工			
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事(土木 2 工区)		
図面名称	西海中部浄水場 二次土工計画図		
縮 尺	A1 : 1/150	A3 : 1/300	番 号
長 崎 県 西 海 市			

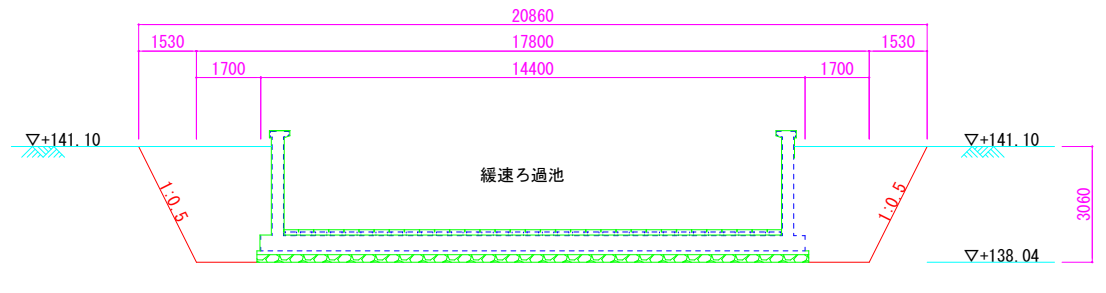
二次土工計画断面図 S=1/50



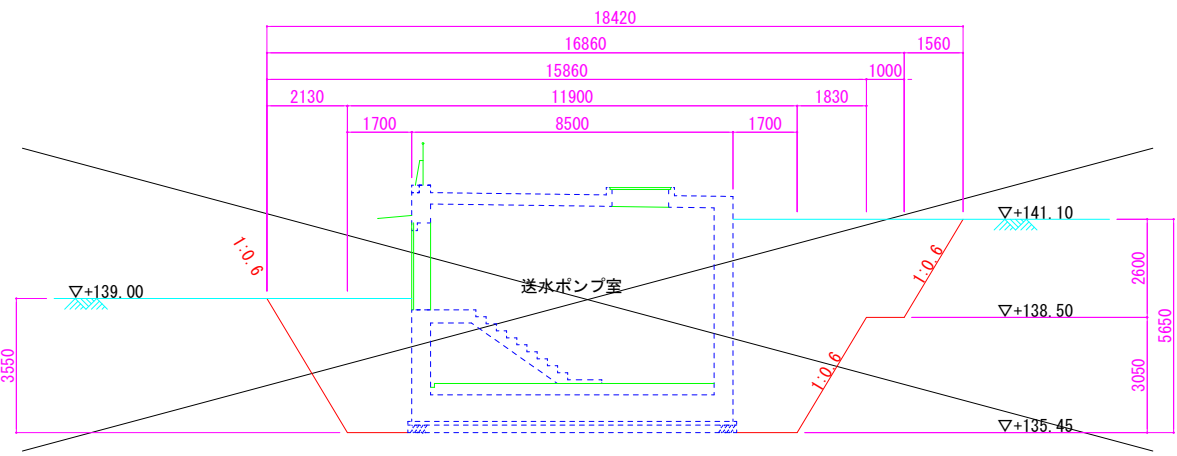
A-A断面図



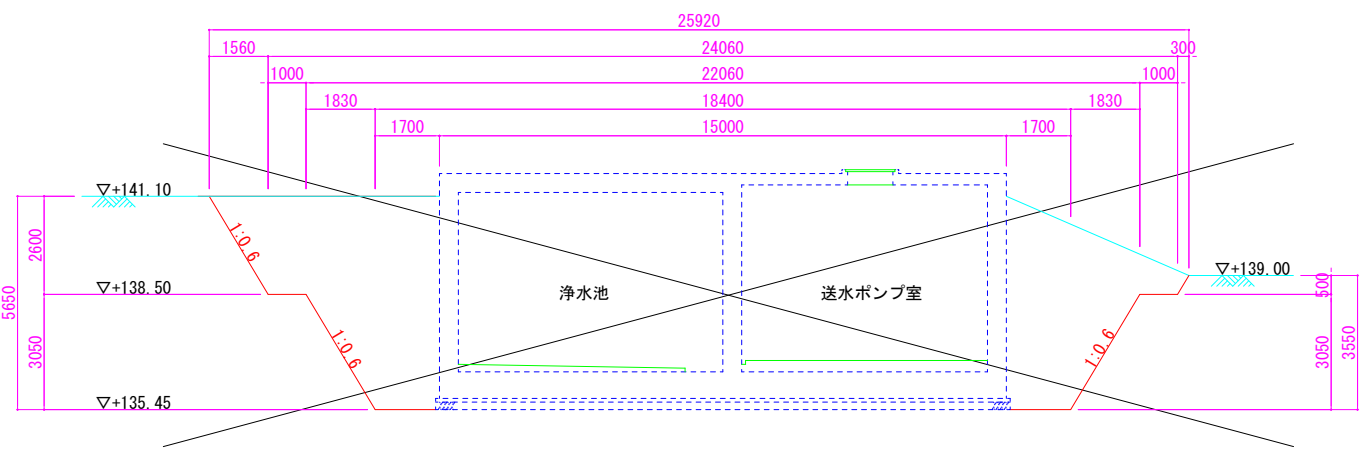
B-B断面図



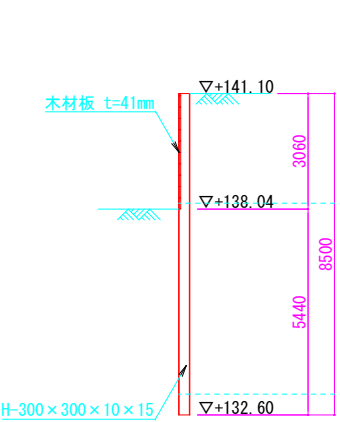
C-C断面図



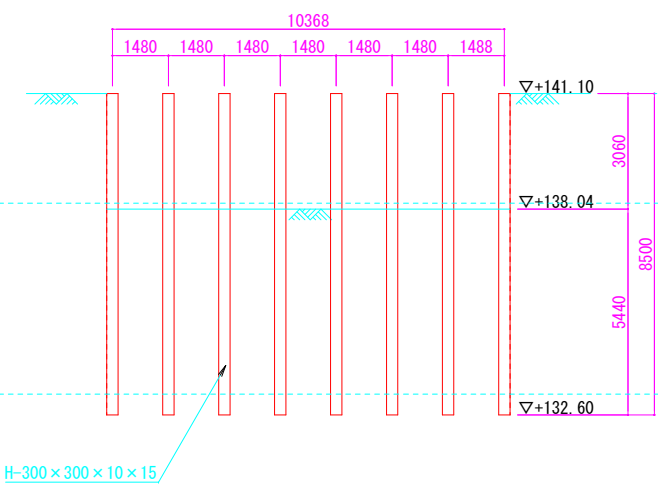
D-D断面図



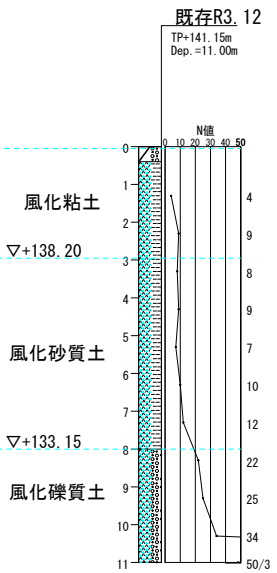
E-E断面図



親杭横矢板断面図

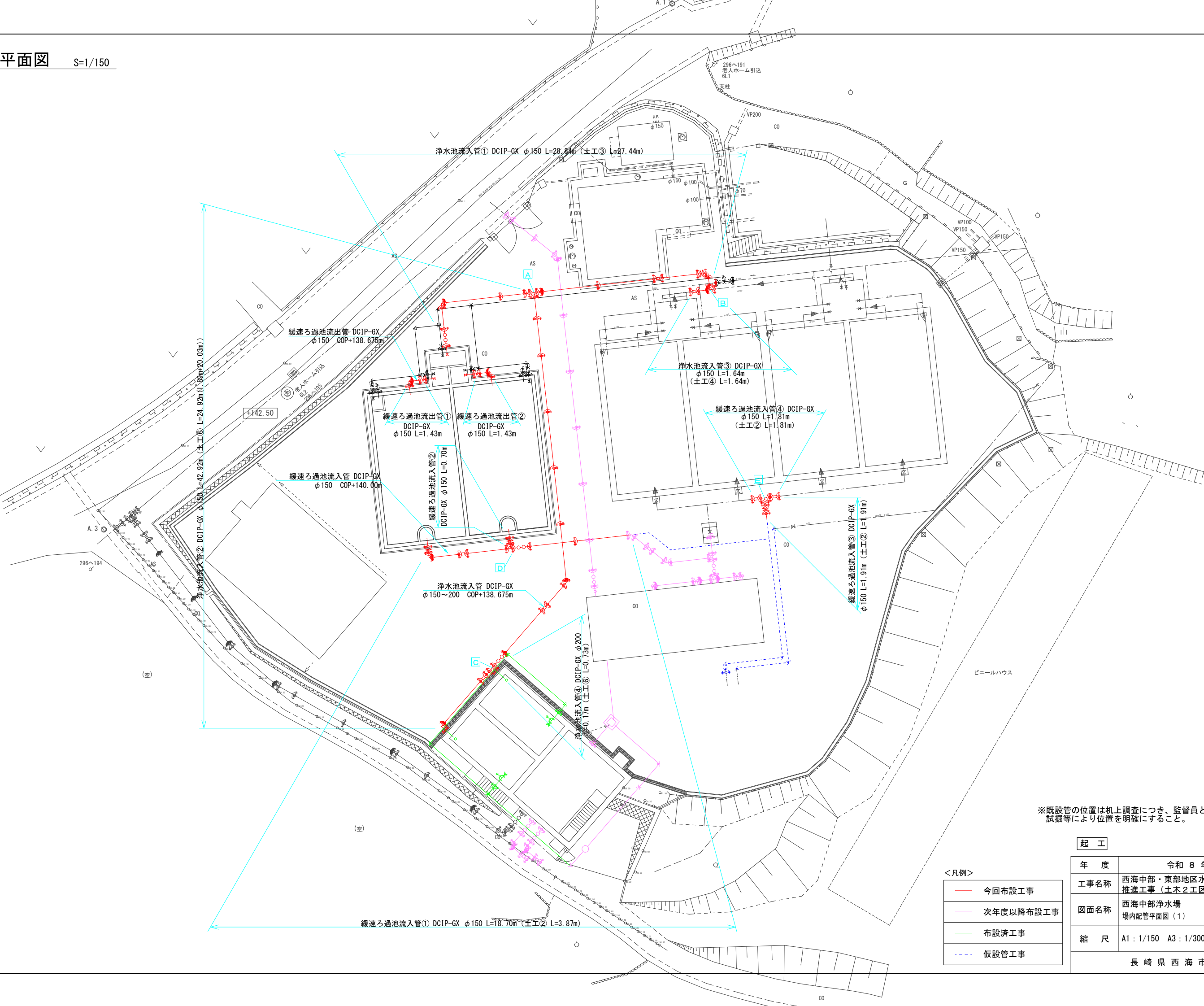


親杭横矢板正面図



起 工				
年 度	令和 8 年度			
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）			
図面名称	西海中部浄水場 二次土工計画断面図			
縮 尺	A1 : 1/100	A3 : 1/200	番 号	25
長 崎 県 西 海 市				

場内配管平面図 S=1/150



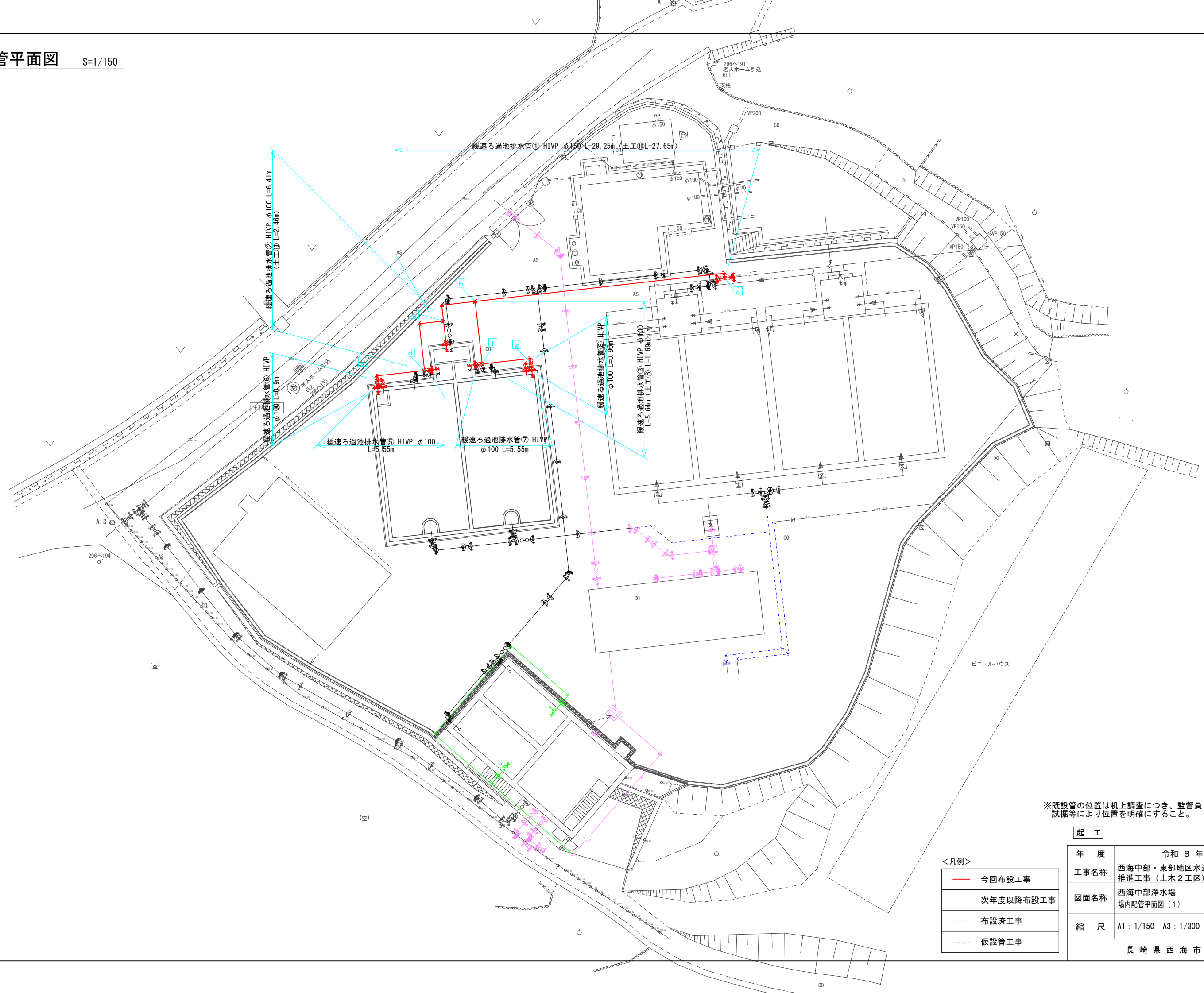
※既設管の位置は机上調査につき、監督員と協議を行い、
試掘等により位置を明確にすること。

起 工			
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事 (土木2工区)		
図面名称	西海中部浄水場 場内配管平面図 (1)		
縮 尺	A1 : 1/150	A3 : 1/300	番 号 26
長 崎 県 西 海 市			

<凡例>

—	今回布設工事
- - -	次年度以降布設工事
—	布設済工事
- - -	仮設管工事

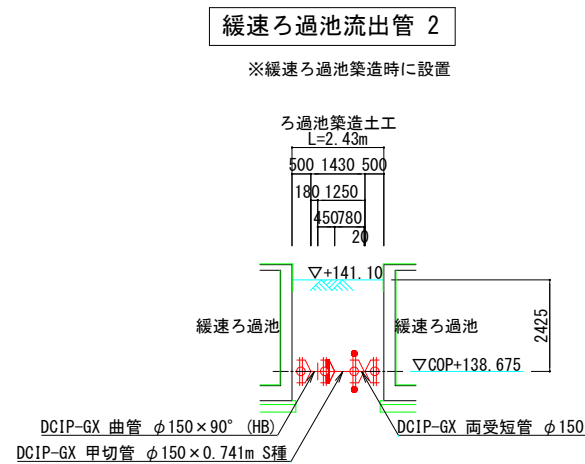
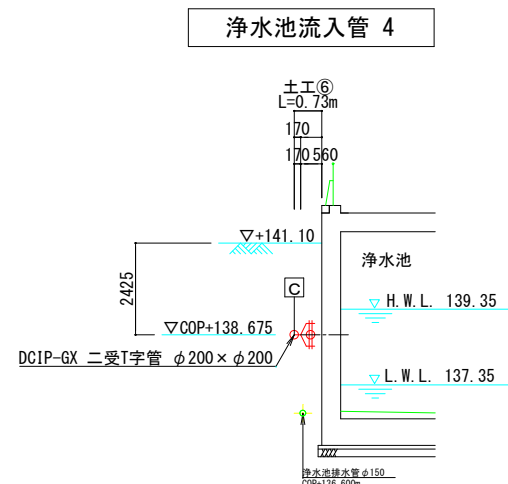
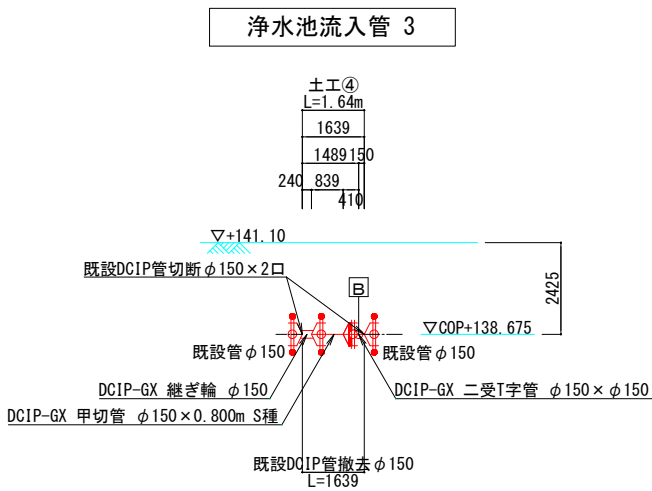
場内配管平面図 S=1/150



※既設管の位置は机上調査につき、監督員と協議を行い、
試掘等により位置を明確にすること。

起 工			
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 場内配管平面図（1）		
縮 尺	A1：1/150	A3：1/300	番 号
長 崎 県 西 海 市			

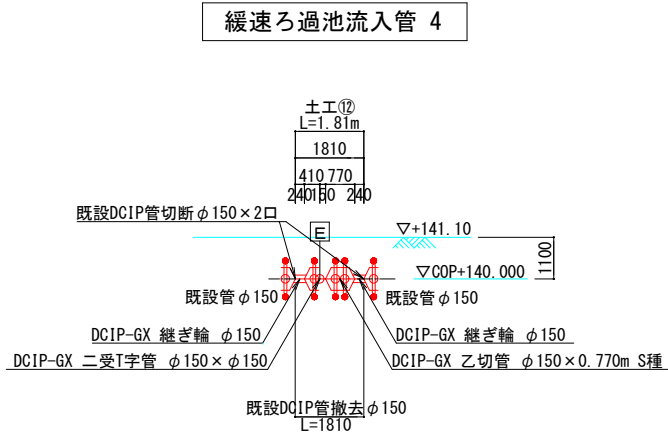
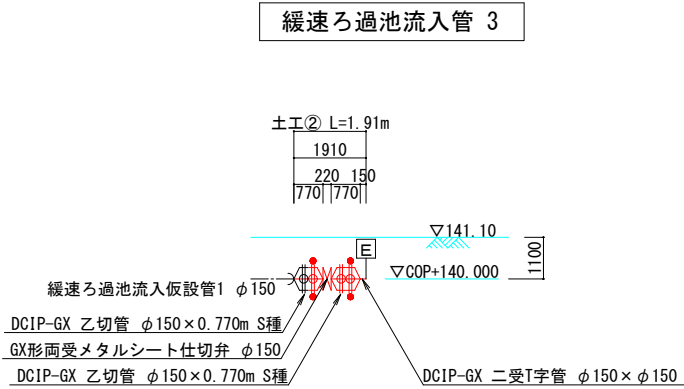
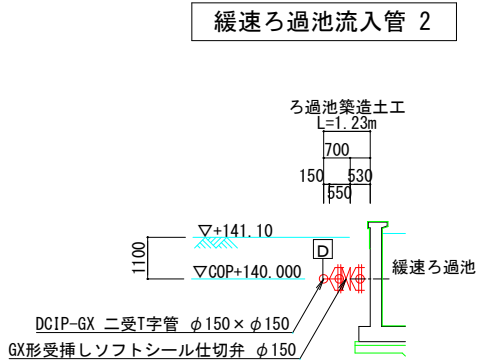
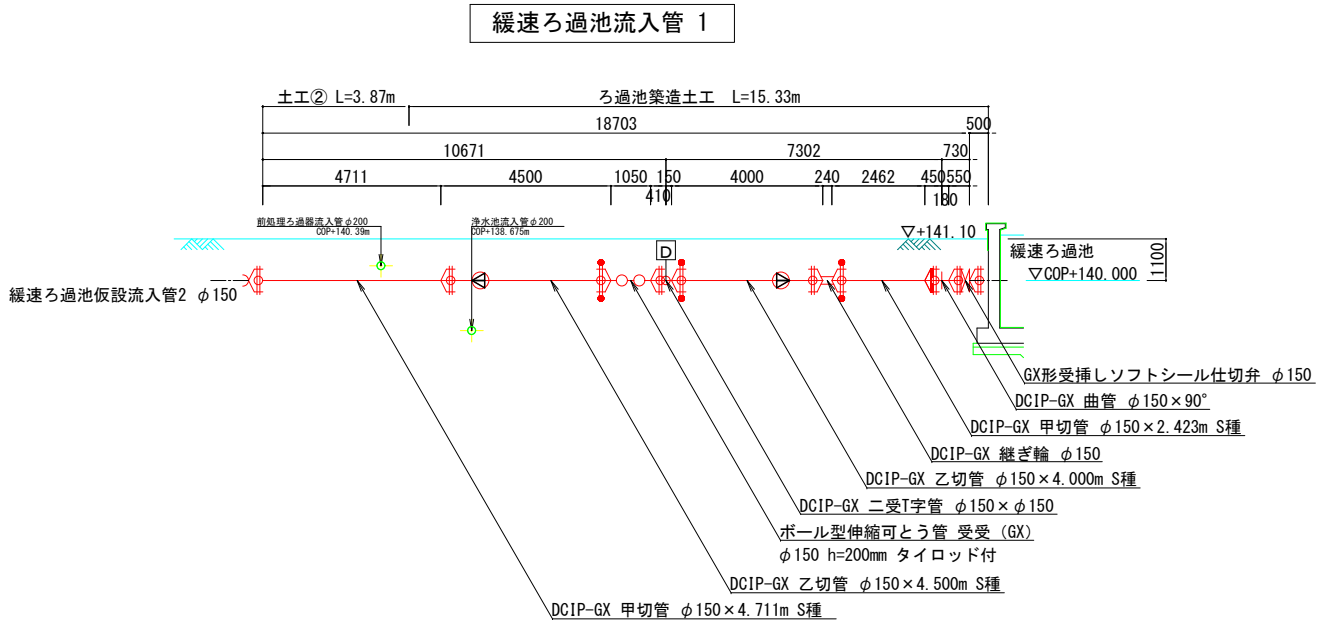
27

$$S=1/100$$


起 工			
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 場内配管断面図（1）		
縮 尺	A1 : 1/100 A3 : 1/200	番 号	28
長 崎 県 西 海 市			

	: GX形 ライナ取付箇所
	: GX形 G-Link取付箇所
	: GX形 切管の凸部方向

場内配管断面図（2） S=1/100



※ろ過池建造土工、浄水池建造土工は各構造物建造時の
土工に含むことを示す。

※既設管の位置は机上調査につき、監督員と協議を行い、
試掘等により位置を明確にすること。

起 工

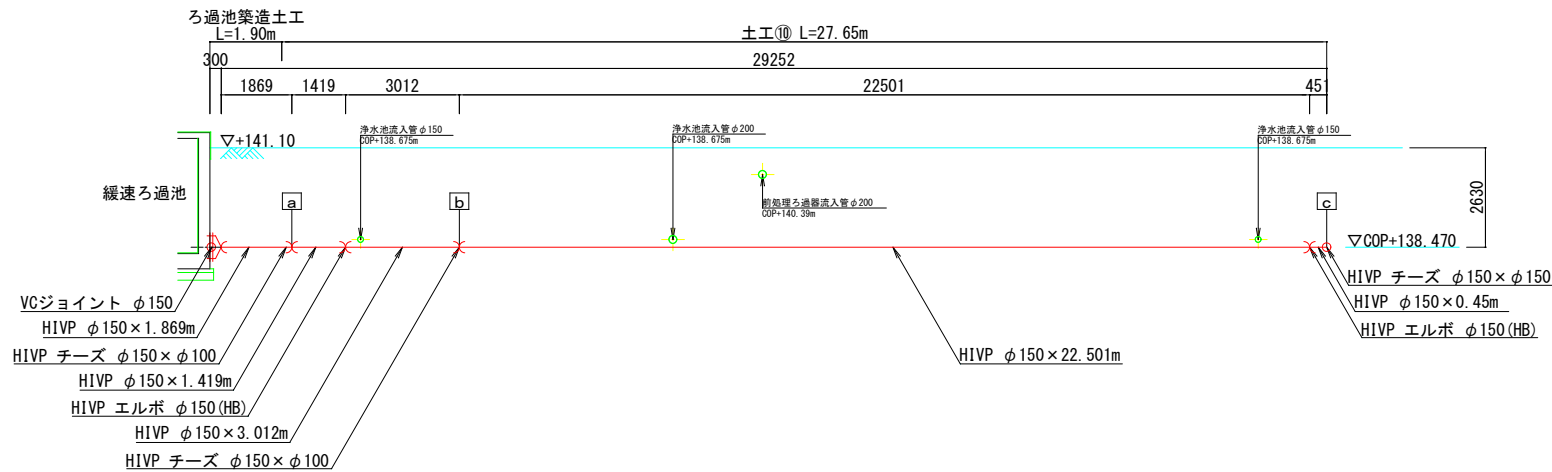
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 場内配管断面図（2）		
縮 尺	A1：1/100 A3：1/200	番 号	29
		長 崎 県 西 海 市	

<凡例>

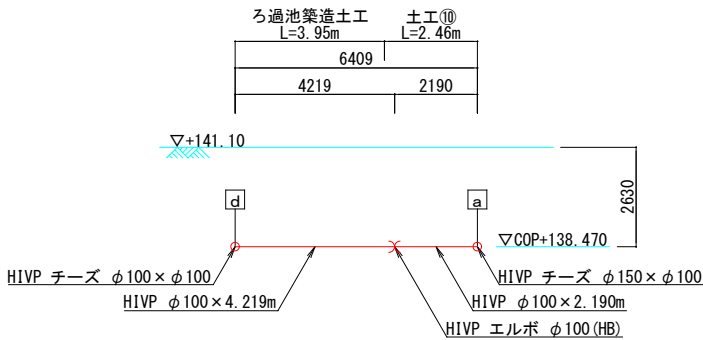
	GX形 ライナ取付箇所
	GX形 G-Link取付箇所
	GX形 切管の凸部方向

場内配管断面図 (4) S=1/100

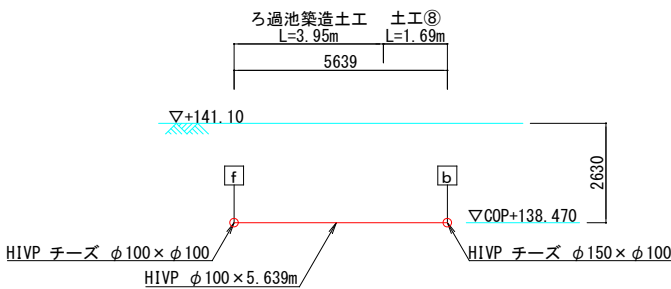
緩速ろ過池排水 1



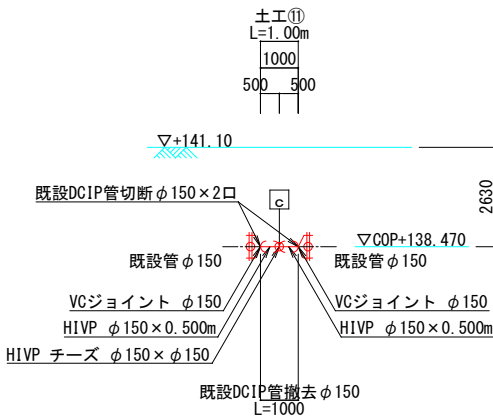
緩速ろ過池排水管 2



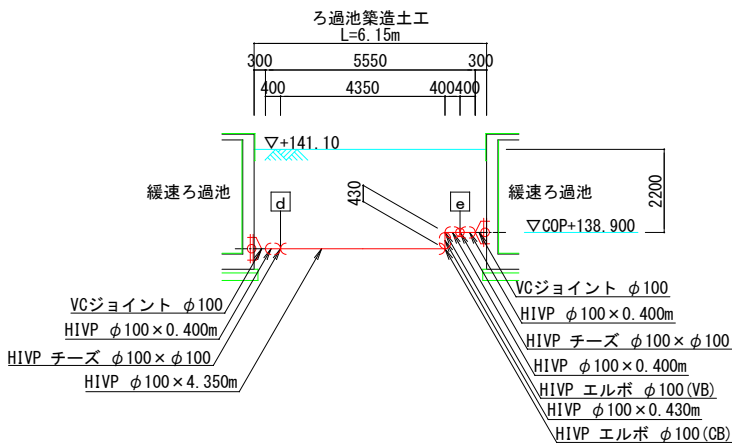
緩速ろ過池排水管 3



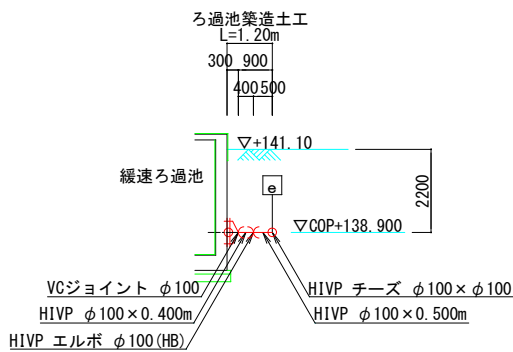
緩速ろ過池排水管 4



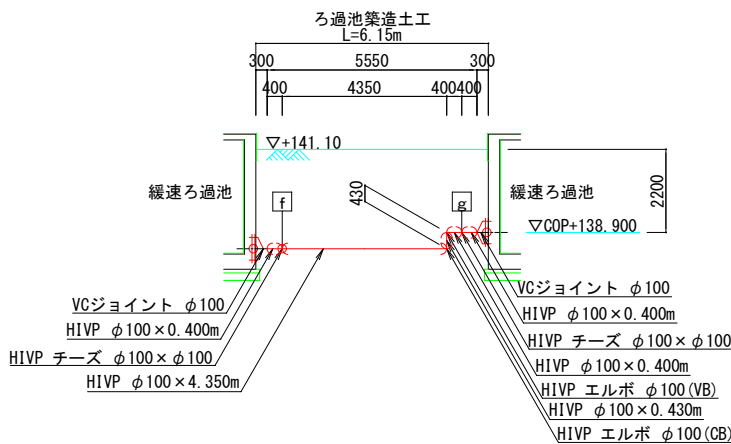
緩速ろ過池排水管 5



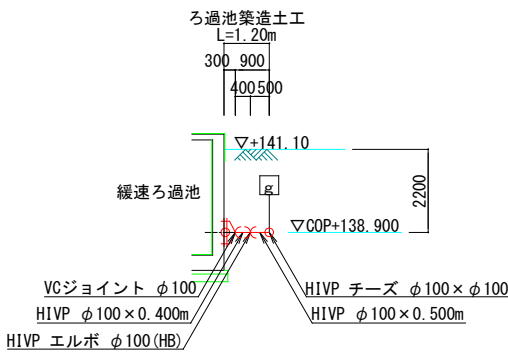
緩速ろ過池排水管 6



緩速ろ過池排水管 7



緩速ろ過池排水管 8

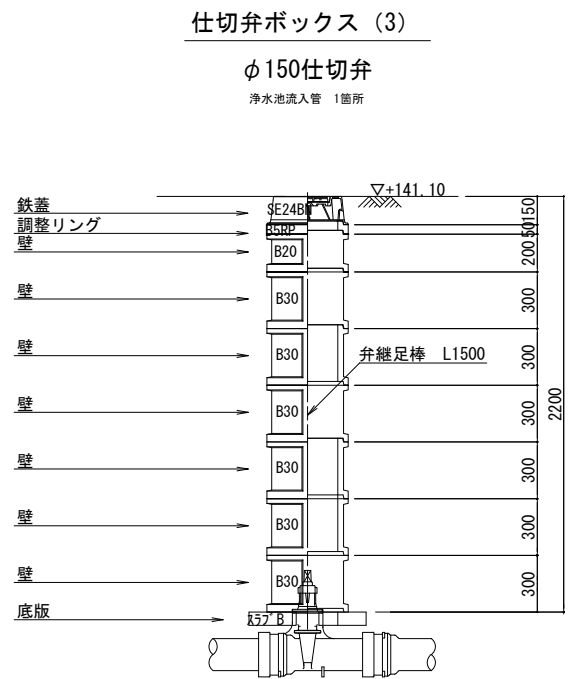
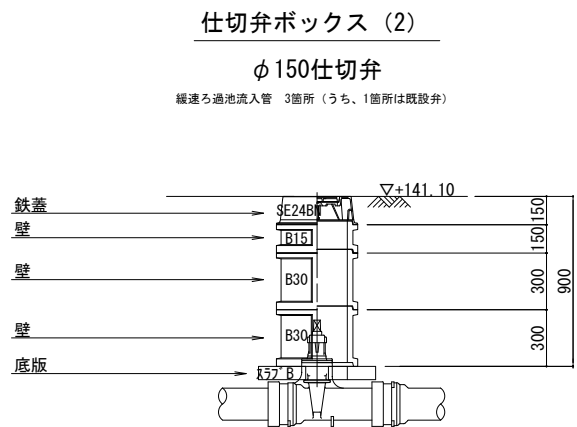
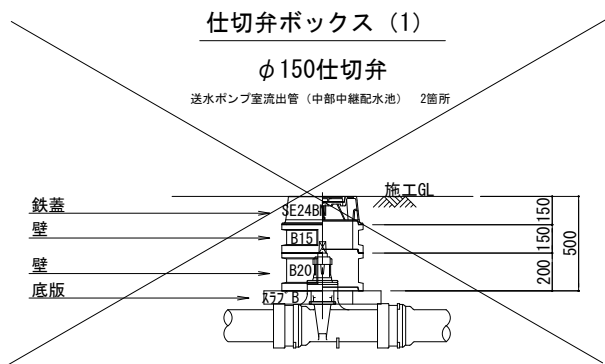


※ろ過池築造土工、浄水池築造土工は各構造物築造時の
土工に含むことを示す。
※既設管の位置は机上調査につき、監督員と協議を行い、
試掘等により位置を明確にすること。

<凡例>

	GX形 ライナ取付箇所
	GX形 G-Link取付箇所
	GX形 切管の凸部方向

年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 場内配管断面図（4）		
縮 尺	A1 : 1/100 A3 : 1/200	番 号	30
長 崎 県 西 海 市			



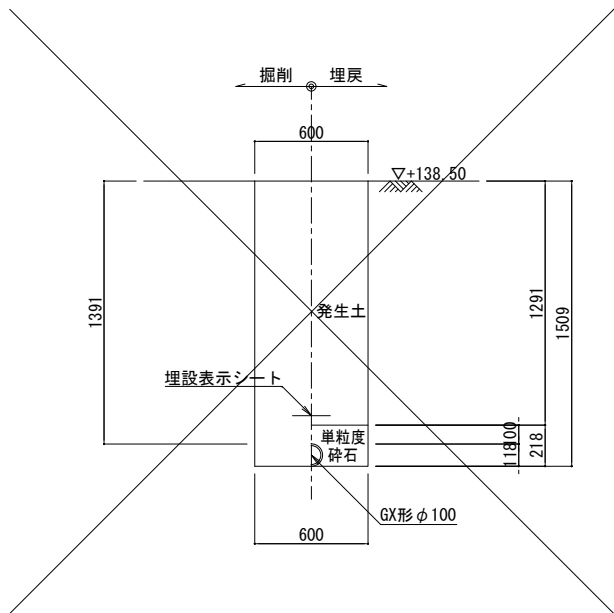
起 工

年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木 2 工区）		
図面名称	西海中部浄水場 場内配管・場外配管弁ボックス標準図		
縮 尺	A1：1/20 A3：1/40	番 号	31
		長 崎 県 西 海 市	

場内配管・場外配管土工標準断面図（1） S=1/20

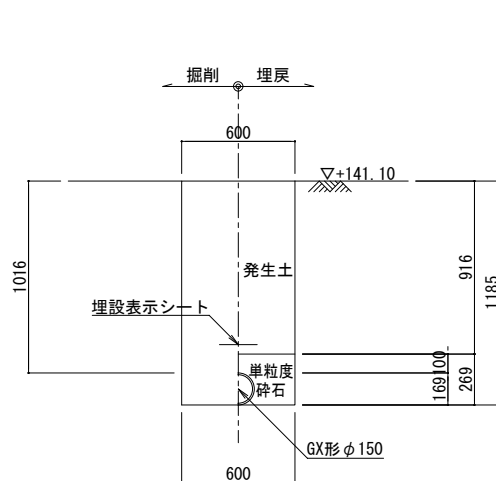
土工（1）

DCIP-GX φ 100



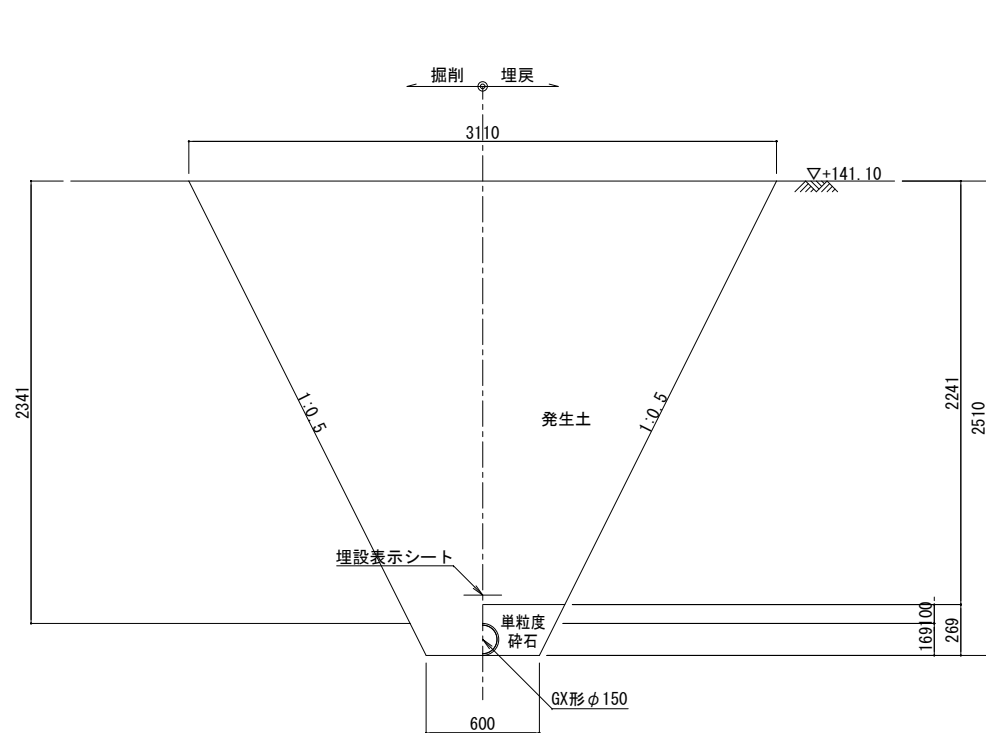
土工（2）

DCIP-GX φ 150



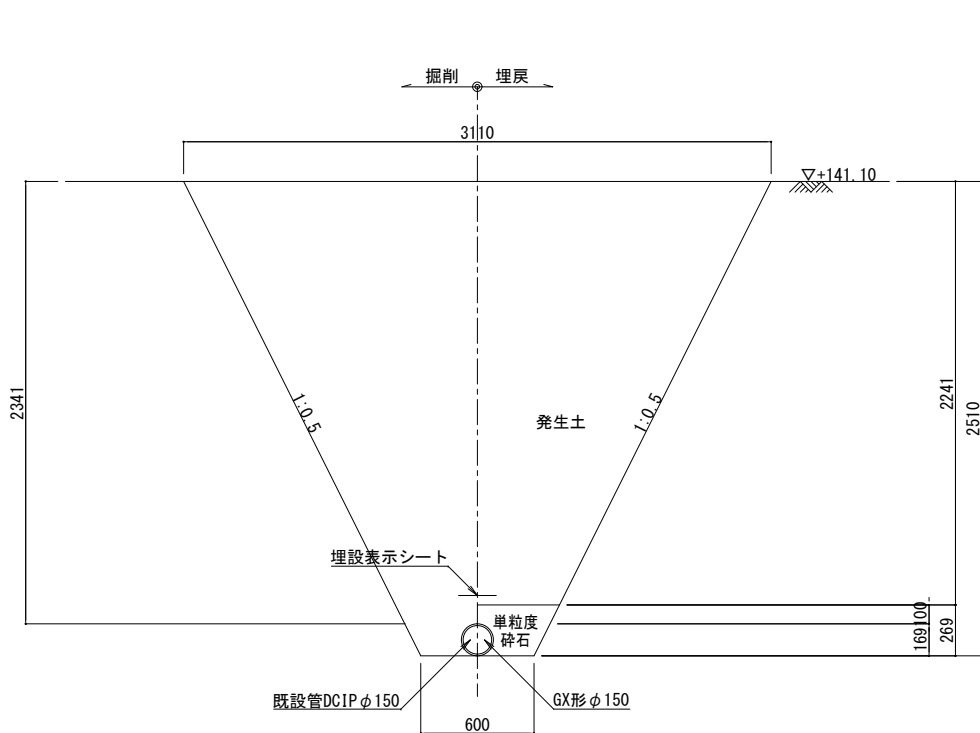
土工（3）

DCIP-GX φ 150



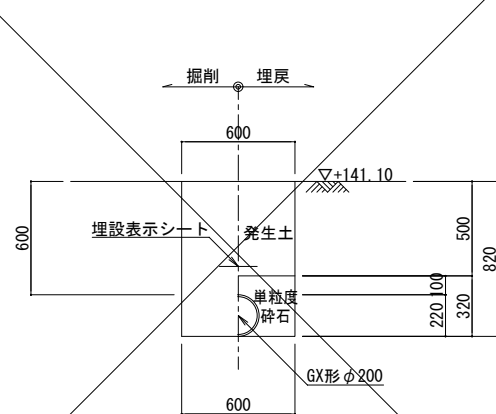
土工（4）

DCIP-GX φ 150



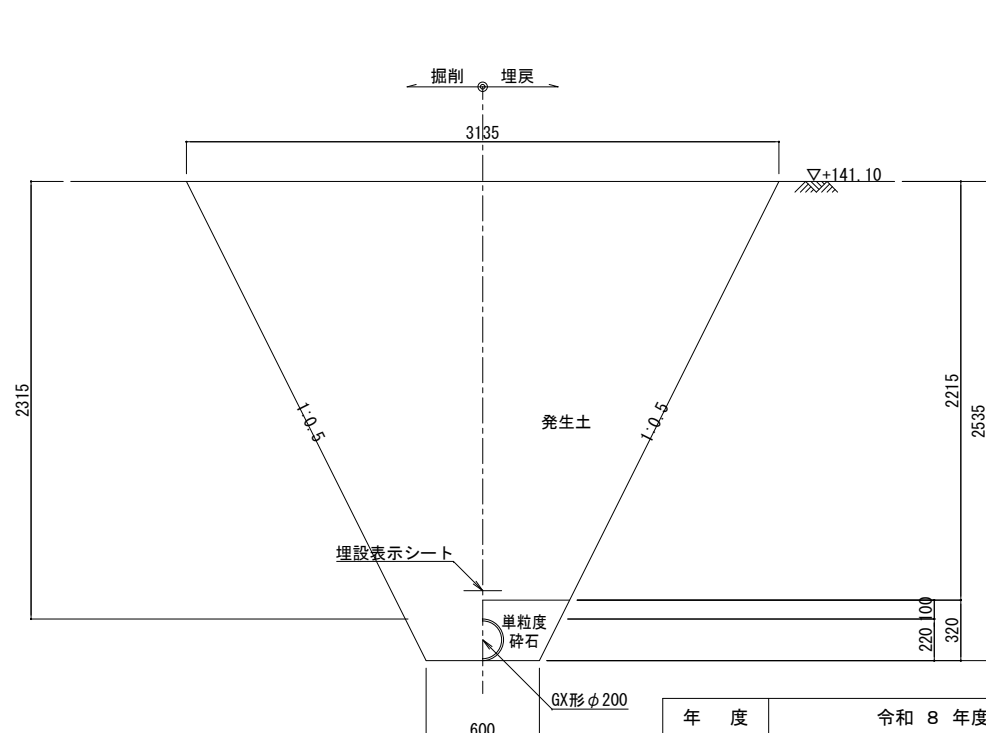
土工（5）

DCIP-GX φ 200



土工（6）

DCIP-GX φ 200

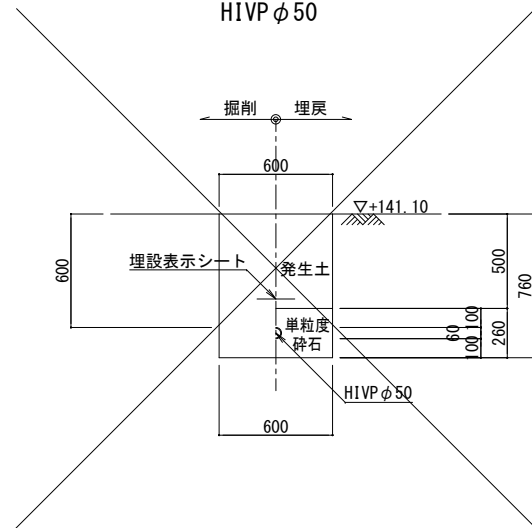


年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木 2 工区）		
図面名称	西海中部浄水場 配管土工標準断面図（1）		
縮 尺	A1 : 1/20 A3 : 1/40	番 号	32
長 崎 県 西 海 市			

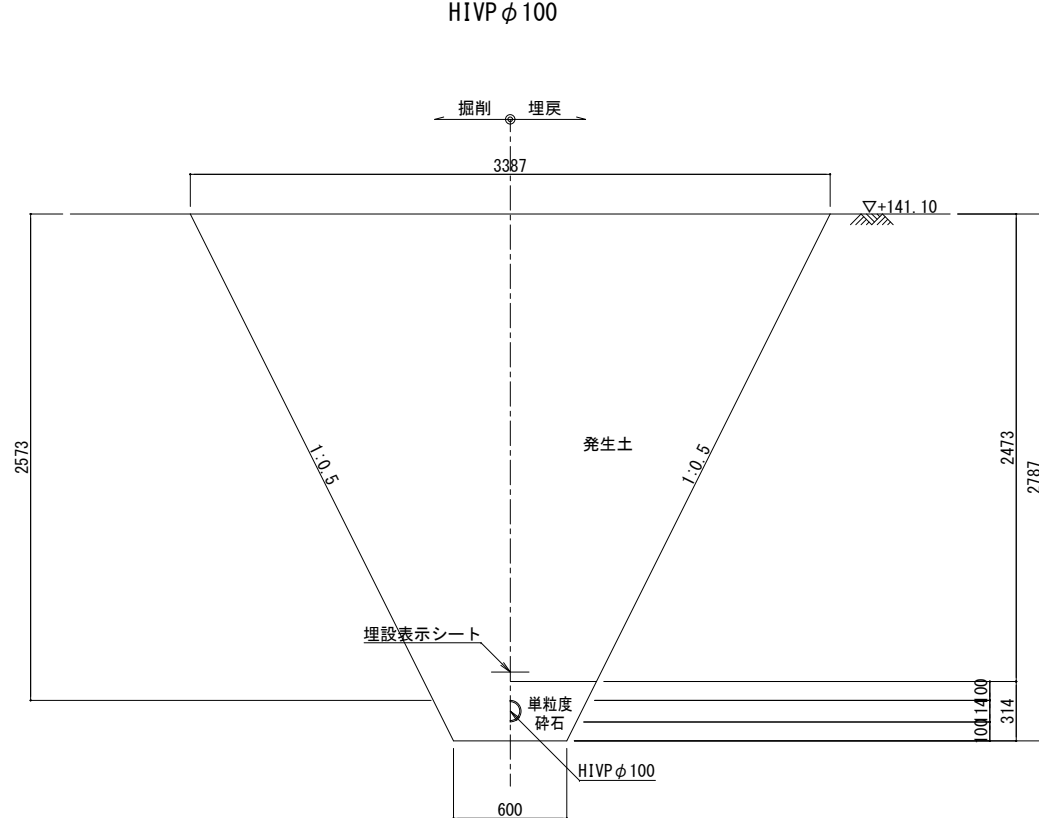
起 工

場内配管・場外配管土工標準断面図（2） S=1/20

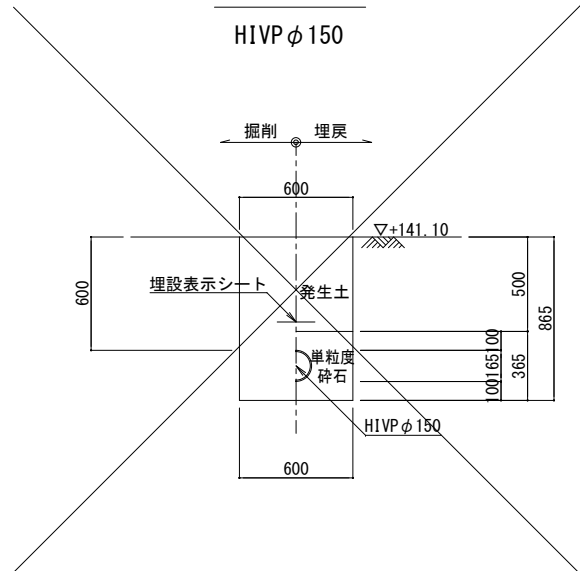
土工（7）
HIVPφ50



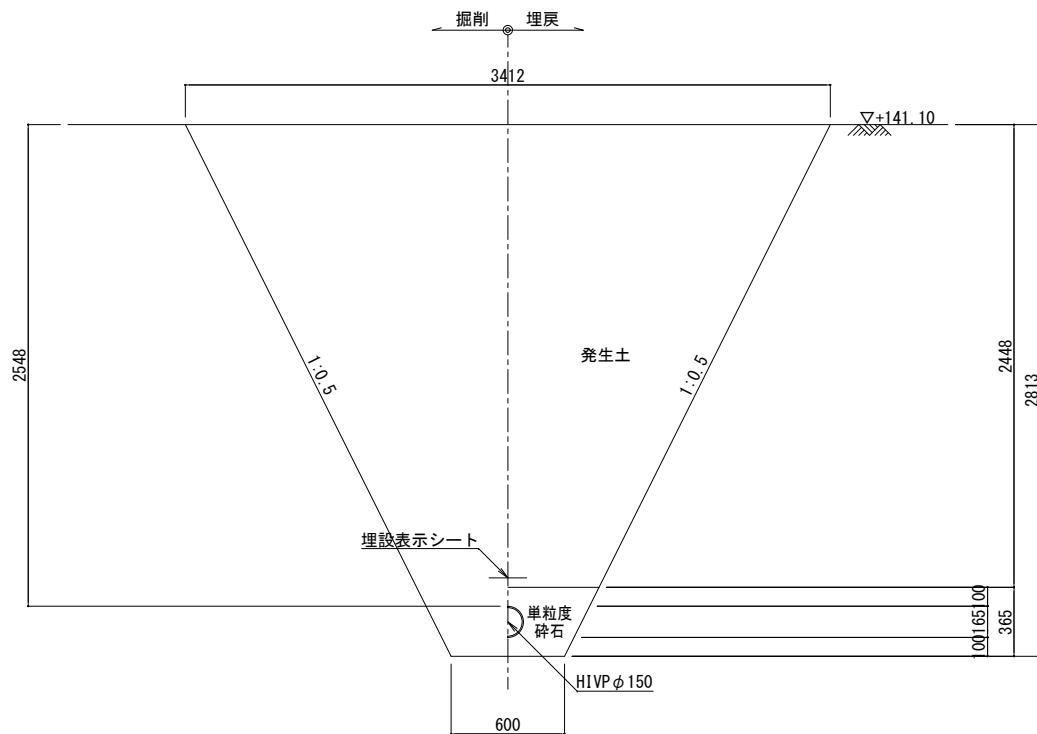
土工（8）
HIVPφ100



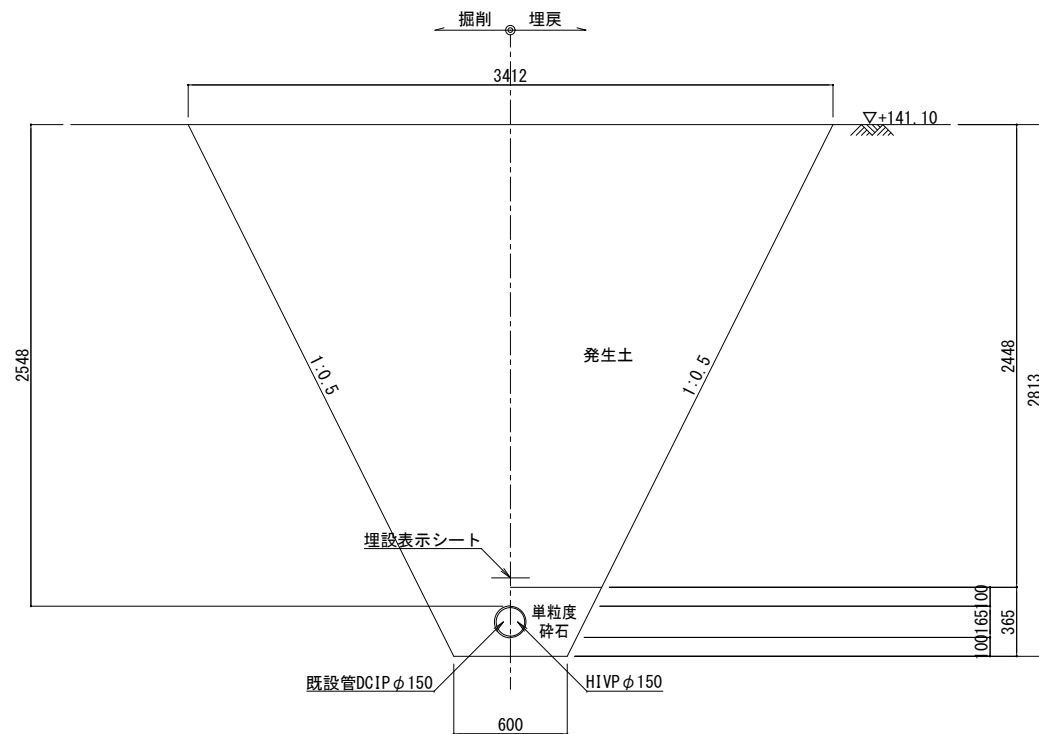
土工（9）
HIVPφ150



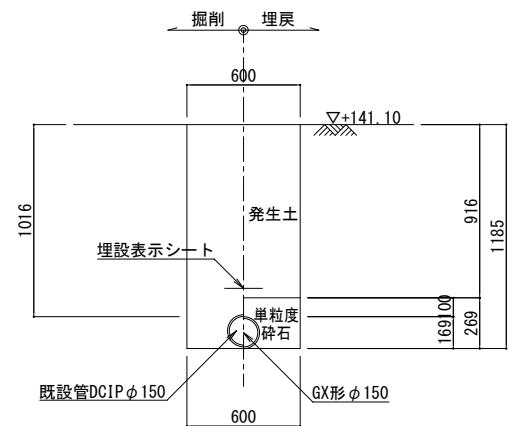
土工（10）
HIVPφ150



土工（11）
HIVPφ150

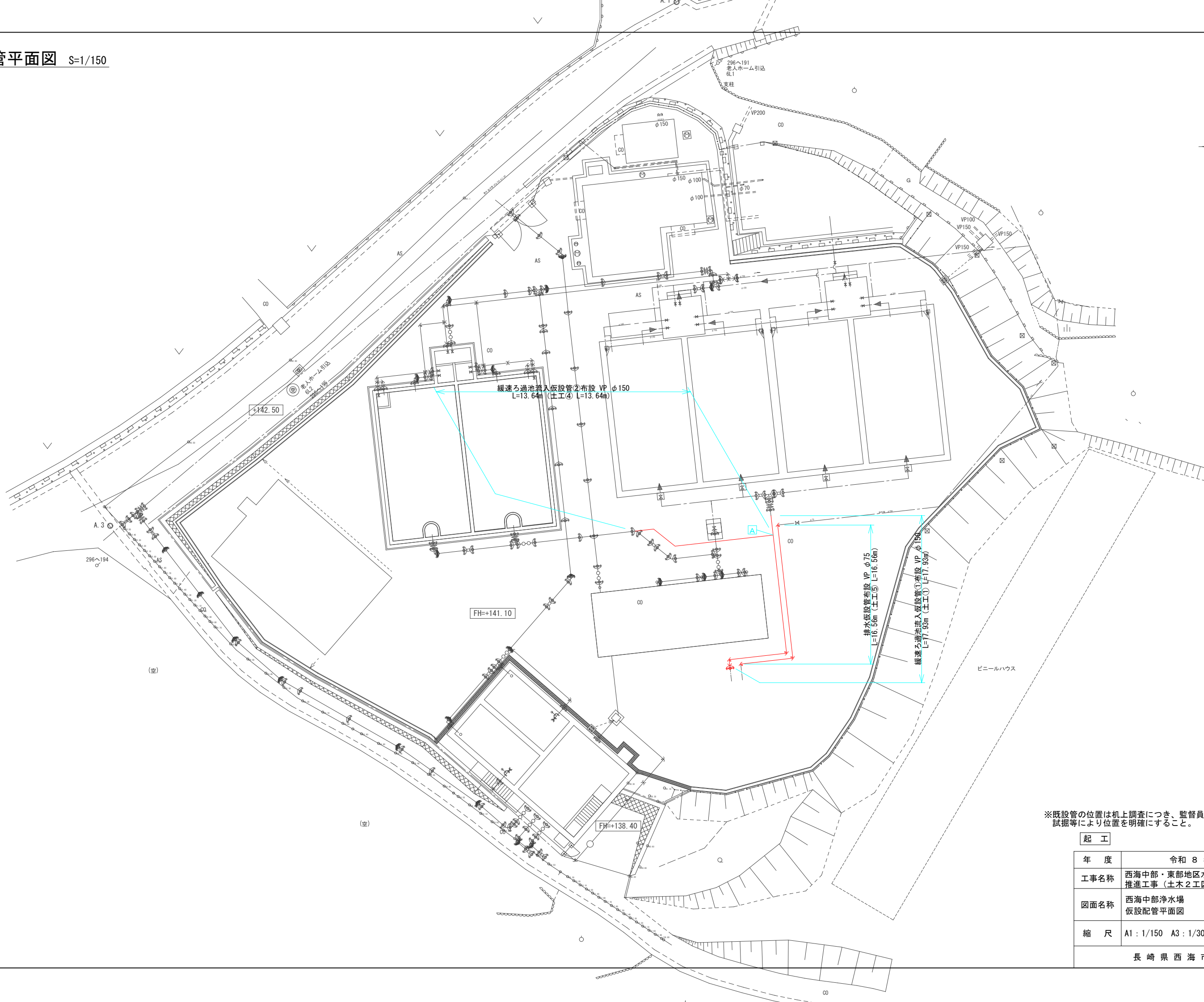


土工（12）
DCIP-GXφ150



起 工

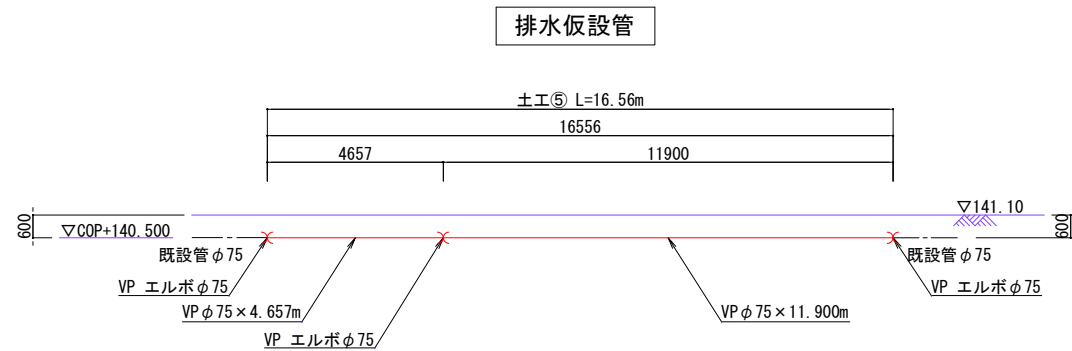
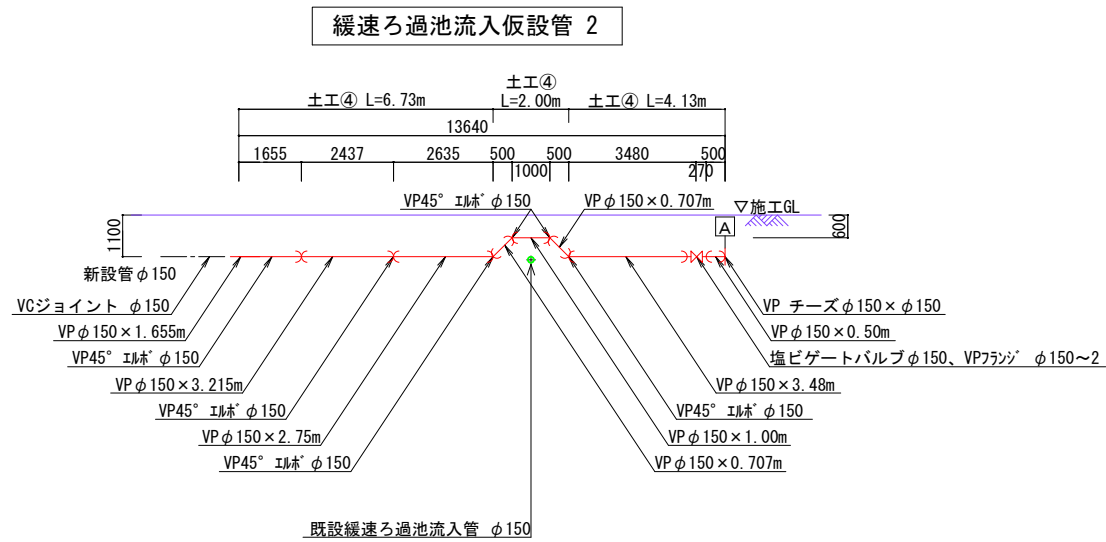
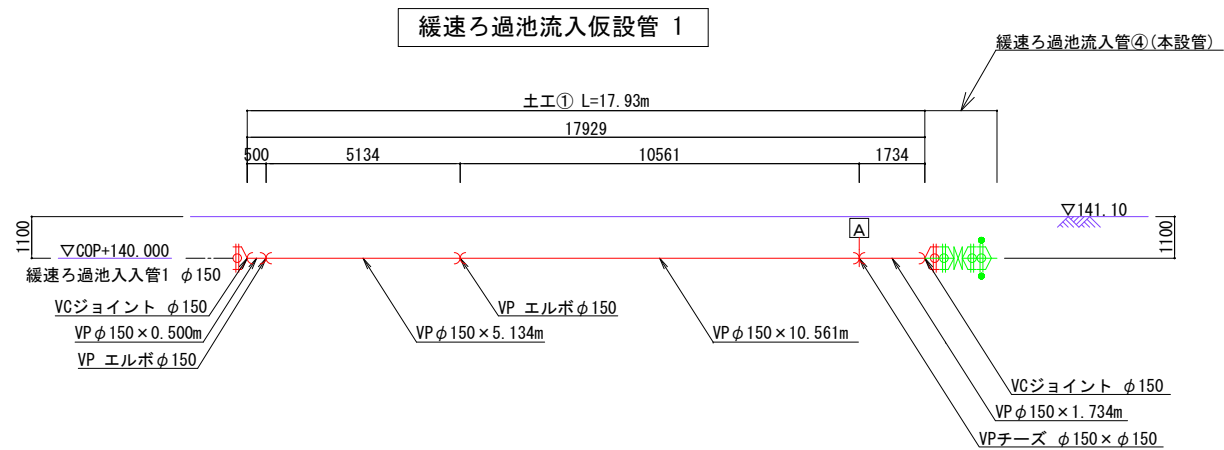
年 度	令和 8 年度			
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）			
図面名称	西海中部浄水場 配管土工標準断面図（2）			
縮 尺	A1：1/20	A3：1/40	番 号	33
長 崎 県 西 海 市				



※既設管の位置は机上調査につき、監督員と協議を行い、
試掘等により位置を明確にすること。

起 工				
年 度	令和 8 年度			
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）			
図面名称	西海中部浄水場 仮設配管平面図			
縮 尺	A1 : 1/150	A3 : 1/300	番 号	34
長 崎 県 西 海 市				

仮設配管断面図 S=1/100



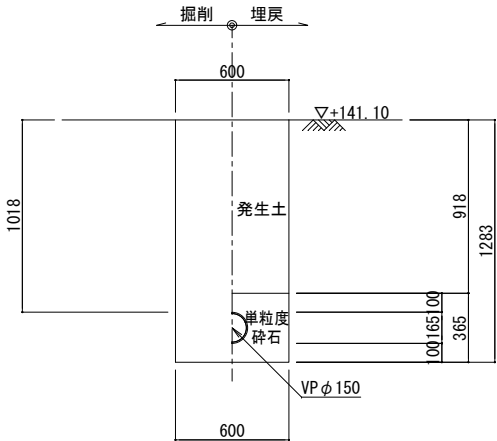
※既設管の位置は机上調査につき、監督員と協議を行い、
試掘等により位置を明確にすること。

起 工			
年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編 推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 仮設配管断面図		
縮 尺	A1：1/100 A3：1/200	番号	35
長 崎 県 西 海 市			

仮設配管工・配管復旧工土工標準断面図（1） S=1/20

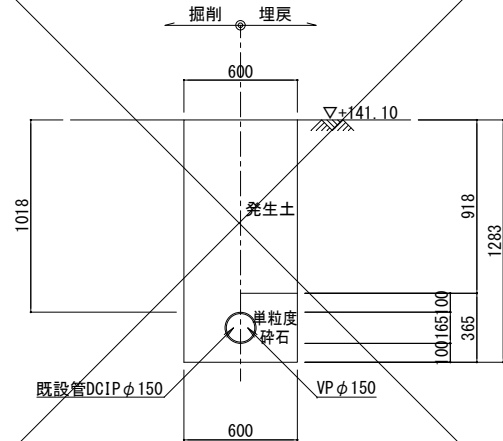
土工（1）

VP φ 150



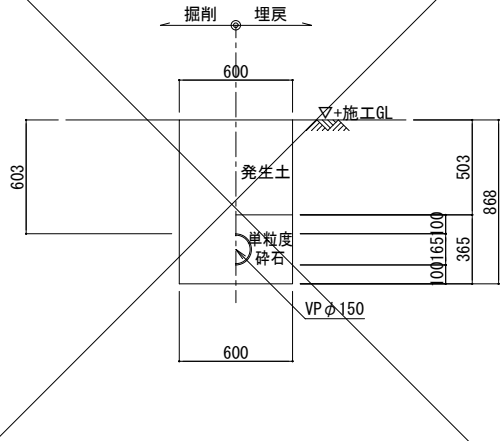
土工（2）

VP φ 150



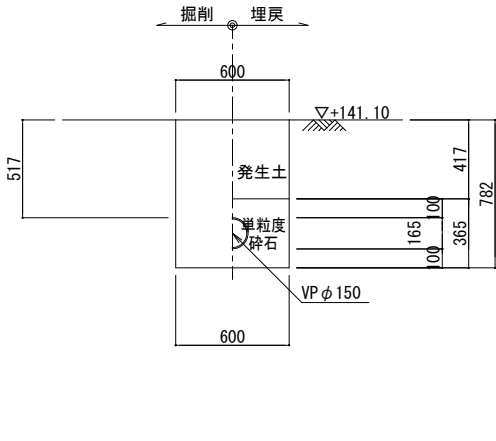
土工（3）

VP φ 150



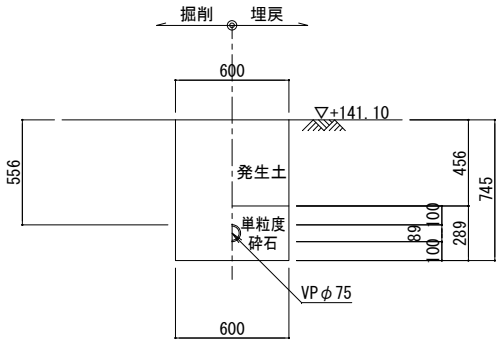
土工（4）

VP φ 150



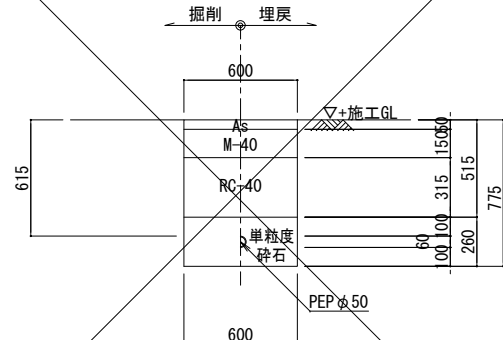
土工（5）

VP φ 75



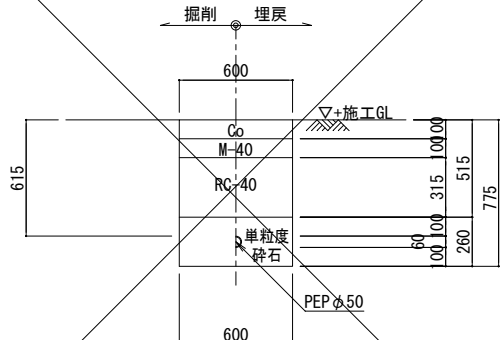
土工（6）

PEP φ 50



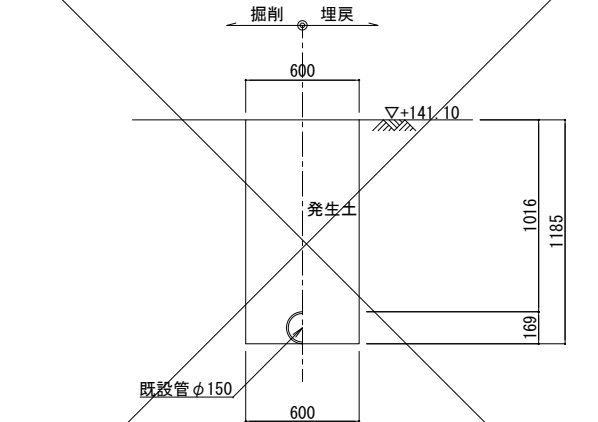
土工（7）

PEP φ 50



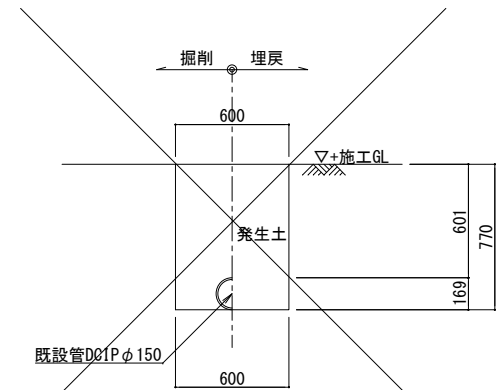
土工（8）

既設管DCIP φ 150撤去



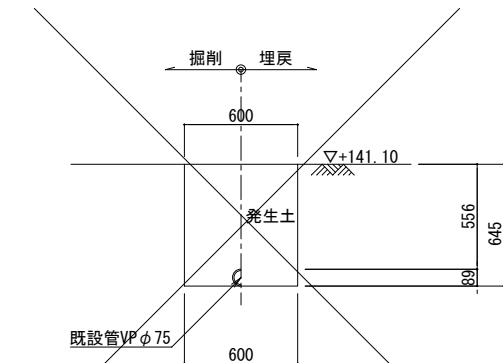
土工（9）

既設管DCIP φ 150撤去



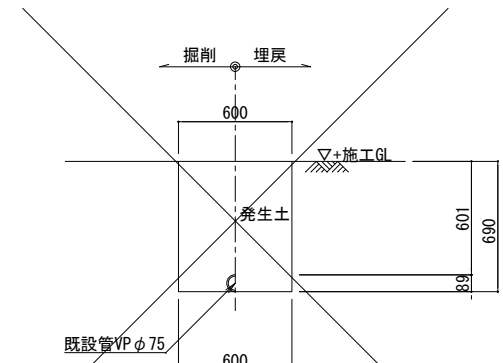
土工（10）

既設管撤去VP φ 75



土工（11）

既設管撤去VP φ 75



※舗装構成は想定であるため、監督員と協議を行い、現況復旧を行うこと。

起工

年 度	令和 8 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事（土木2工区）		
図面名称	西海中部浄水場 仮設配管工・配管復旧工土工標準断面図（1）		
縮 尺	A1：1/20 A3：1/40	番 号	36
長 崎 県 西 海 市			